

# Hyogo University of Health Sciences



## 兵庫医療大学年報

平成28年度



学校法人 兵庫医科大学

兵庫医療大学



# 目 次

## 序章

沿革 .....	1
----------	---

## 第1章 理念・目的

1. 大学全体 .....	2
2. 学部 .....	
1) 薬学部 .....	2
2) 看護学部 .....	2
3) リハビリテーション学部 .....	3
3. 大学院 .....	
1) 薬学研究科 .....	3
2) 看護学研究科 .....	4
3) 医療科学研究科 .....	4

## 第2章 教育研究組織

1. 大学全体 .....	
1) 学校法人兵庫医科大学組織機構図 .....	5
2) 兵庫医療大学組織図 .....	6
3) 大学協議会 .....	7
2. 学部 .....	8
3. 大学院 .....	8

## 第3章 教員・教員組織

1. 大学全体 .....	
1) 役職者名簿 .....	9
2) 全学教職員集会 .....	9
2. 学部 .....	10
1) 薬学部 .....	10
2) 看護学部 .....	12
3) リハビリテーション学部 .....	14
4) 共通教育センター .....	16
3. 大学院 .....	16
1) 薬学研究科 .....	16
2) 看護学研究科 .....	18
3) 医療科学研究科 .....	18

## 第4章 教育内容・方法・成果

1. 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針 .....	20
1) 学部 .....	20
2) 大学院 .....	26

2. 教育課程・教育内容	30
1) 学部	30
2) 大学院	36
3) 職業実践力育成プログラム (BP)	39
3. 教育方法	
1) 学部	41
2) 大学院	44
3) 職業実践力育成プログラム (BP)	44
4. 成果	
1) 学部	45
2) 大学院	47
3) 職業実践力育成プログラム (BP)	48
<b>第5章 研究活動</b>	<b>49</b>
1. 科学研究費助成事業	49
2. 法人内研究助成事業	
1) 若手研究助成事業	51
2) 二大学連携共同研究支援助成金	51
3. 受託研究	52
4. 共同研究	52
5. その他の研究助成	53
6. 学術講演会および研究セミナー	53
7. 薬学部・薬学研究科	53
8. 看護学部・看護学研究科	53
9. リハビリテーション学部・医療科学研究科	54
10. 共通教育センター	54
<b>第6章 学生の受け入れ</b>	<b>55</b>
1. 学部	
1) 薬学部	55
2) 看護学部	55
3) リハビリテーション学部	56
2. 大学院	
1) 薬学研究科	56
2) 看護学研究科	57
3) 医療科学研究科	57
3. 入学者選抜および入試結果	58
1) 学部	58
2) 大学院	63
4. 学生募集	63
5. 定員数と在籍学生数	65

## 第7章 学生支援

1. 修学支援	
1) 教育支援室	68
2) 奨学金	69
3) 学内広報	70
2. 生活支援 保健管理センター	
1) 保健室	70
2) 学生相談室	73
3. 進路支援 キャリアデザインセンター	74
4. 学生会・課外活動	79

## 第8章 教育研究等環境

1. 校地・校舎・施設設備	81
2. 図書館	81
3. 先端医薬研究センター	83
4. RI実験センター	83
5. 動物実験センター	84
6. 共同機器室	85
7. 情報センター	87
8. 医療人育成センター	87
9. 臨床薬学研修センター	87
10. 薬用植物園	88
11. 教育研究等の支援	89

## 第9章 社会連携・社会貢献

1. 地域連携実践センター	90
2. 社会学連携推進機構	93
3. 高大連携	96
4. ポーアイ4大学による連携事業	103
1) ポーアイ健康・生活支援ステーション	103
2) 実務者会議	104
3) 部会活動	105

## 第10章 国際交流

1. 北京中医薬大学との学術交流・短期留学プログラム	108
2. アデレード大学看護学部学術交換留学プログラム	108
3. 欧州研修	109
4. JBI-KOBE Center	109
5. トウルク応用科学大学学術交流協定	109

## 第11章 管理運営

1. 事務組織	110
2. 学内委員会	111
1) 自己点検・評価委員会	115
2) 学生委員会	116
3) 教育委員会	116
4) 入試センター運営会議	117
5) 図書館委員会	118
6) ファカルティ・ディベロップメント委員会	118
7) 地域連携推進委員会	119
8) 広報委員会	119
9) 情報倫理委員会	120
10) 国際交流委員会	120
11) キャリアデザイン委員会	120
12) 研究推進委員会	121
13) 先端医薬研究センター運営委員会・先端医薬研究センター研究プロジェクト選考委員会	121
14) RI実験センター運営委員会	121
15) 放射線障害予防委員会	122
16) 動物実験センター運営委員会	122
17) 動物実験委員会	123
18) 遺伝子組換え実験安全委員会	124
19) 環境安全委員会	125
20) 共同研究の受入れに関する審査専門委員会	125
21) ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理審査専門委員会	125
22) 病原体等安全管理委員会	126
23) 利益相反マネジメント委員会	127
24) 倫理審査委員会	127
25) 共同機器室運営委員会	131
26) 情報センター運営委員会	131
27) 紀要委員会	132
28) キャンパス有効利用委員会	133
29) 将来構想委員会	133
30) 防火防災対策委員会	133
31) 衛生委員会	134
32) 医療人育成センター運営委員会	134
33) 社会学連携推進機構運営委員会	134
3. 教職員の資質向上方策	135

## 序 章

### 沿 革

- 平成18年11月 学校法人兵庫医科大学寄附行為変更認可および兵庫医療大学設置認可
- 平成19年 4 月 兵庫医療大学開学
- 4 月 保健管理センター開設
- 6 月 医療人育成センター（西宮キャンパス）開設（旧：医学・医療教育研修センター）
- 10月 地域連携実践センター開設
- 10月 兵庫医療大学先端医薬研究センター開設（旧：医薬共同創薬研究開発センター）
- 平成20年 1 月 神戸ポートアイランドキャンパス 4 大学連携協定締結
- 4 月 動物実験センター開設
- 9 月 薬用植物園開設
- 10月 第 1 回兵庫医療大学大学祭（海梟祭）開催
- 10月 臨床薬学研修センター開設
- 12月 神戸ポートアイランドキャンパス 4 大学連携における単位互換に関する協定締結  
（兵庫医療大学、神戸学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学）
- 平成21年 3 月 兵庫医療大学体育館（アリーナ）完成
- 3 月 防災・減災およびボランティア活動に関する 5 大学連携支援協定を締結  
（兵庫医療大学、工学院大学、大妻女子大学、神戸学院大学、神戸女子大学）
- 4 月 キャリアデザインセンター開設
- 9 月 RI実験センター開設
- 平成22年12月 兵庫医療大学大学院看護学研究科・医療科学研究科設置認可
- 平成23年 3 月 第 1 期卒業生輩出（看護学部、リハビリテーション学部）
- 4 月 兵庫医療大学大学院開設
- 6 月 フィンランド共和国トゥルク応用科学大学との学術交流に関する協定を締結
- 平成24年11月 兵庫医療大学大学院薬学研究科設置認可
- 平成25年 3 月 大学基準協会認定評価において大学基準適合認定
- 3 月 第 1 期卒業生輩出（薬学部）
- 3 月 第 1 期修了生輩出（看護学研究科、医療科学研究科）
- 4 月 兵庫医療大学大学院薬学研究科設置
- 平成26年 3 月 オーストラリア連邦アデレード大学と学術交流に関する基本合意書を締結
- 平成27年 4 月 兵庫医療大学社会学連携推進機構設置
- 8 月 JBI KOBELT CENTER 開設
- 12月 兵庫医療大学職業実践力育成プログラム（BP）の文部科学大臣認定
- 平成28年 3 月 兵庫医療大学リハビリテーション学部教育評価認定
- 3 月 兵庫医療大学薬学部教育評価認定
- 8 月 篠山市と地域連携に関する協定締結
- 平成29年 2 月 兵庫県と就職支援に関する協定締結
- 3 月 第 1 期修了生輩出（薬学研究科）
- 3 月 神戸学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、夙川学院短期大学および兵庫医療大学の連携協力に関する協定締結
- 3 月 神戸市と災害時の医薬品集積センターとしての一時利用に関する協定締結

## 第1章 理念・目的

### 1. 大学全体

#### 学校法人 兵庫医科大学 建学の精神

- ・社会の福祉への奉仕
- ・人間への深い愛
- ・人間への幅の広い科学的理解

#### 兵庫医療大学教育理念

人間への深い愛と豊かな人間性を持ち、幅広い知識と優れた技術を備え、社会とともに医療を担う医療専門職者を育成する

#### 兵庫医療大学教育目標

- ・幅広い教養と心豊かな人格の育成
- ・関連分野とのボーダレスな教育環境のもと、専門性の高い知識と技術の修得
- ・優れたコミュニケーション能力を基礎とした、チーム医療・地域医療を担える資質の育成
- ・次世代の医療科学を担う創造性と国際性の涵養

### 2. 学部

#### 1) 薬学部

##### 教育理念

基礎と臨床を融合させた薬学教育とともに、医学・医療の関連分野との横断的実践教育により、人と社会の健康と幸福に広く貢献できる薬剤師を育成します。

##### 教育目的

薬学部では、「くすり」(医薬品・化学物質・手段)と「生体」(ヒト、生物/病原体、生体成分)に関する正しい知識とともに、生命の尊厳を畏敬し、人々の健康と幸福を真に願う医療専門職者としての適格な意識を備え、多様な分野で薬学的立場から全人的医療を支えることのできる薬剤師の養成を目指します。

#### 2) 看護学部

##### 教育理念

看護学における理論的知と臨床の知が融合した豊かな教育環境のなかで、倫理観に富んだ人間愛を育み、看護の専門的な知・技・心を培うとともに、他職種と協働し、様々な療養の場における人々のクオリティ・オブ・ライフを高め、同時に、地域で生活を営む人々の最適健康状態を導き、維持、増進させる看護専門職者を育成する。

##### 教育目的

看護学部は、人の生命や価値観を尊重し、基本的な看護の専門的知識・技術・態度を教授し、クオリティ・オブ・ライフの向上をめざし、最適健康状態を維持、増進させる実践力を養います。医療関連学部間の有機的連携をもとにしたチーム医療に必要な能力を育成するとともに、グローバルな視野で保健・医療・福祉の課題を総合的にとらえられる、感性豊かで倫理的・創造的な看護専門職者の養成を目指す。



### 3) リハビリテーション学部

#### 教育理念

リハビリテーション学部は人の機能・活動・社会参加を心身の両面から支援し、幸福と共生に奉仕できることをめざします。そのために幅広い教養、高度な専門的知識と技術および教育研究技術を育み、社会人として、またリハビリテーション専門職者として社会に貢献できる人材を育成します。

#### 教育目的

リハビリテーション学部は人々の幸福と共生に奉仕する精神のもと、リハビリテーションに必要な人と社会の理解および保健・医療・福祉に関する諸学問の知識を教授し、チーム医療実践の場においてリハビリテーション専門職者として力を発揮することができる総合的实践力、社会の多様なニーズに応え先駆的な教育・研究へ展開できる能力および生涯にわたって自己を練成できる能力を持った人材の育成をめざします。

## 2. 大学院

### 博士課程理念

本学の大学院博士課程は、大学の基本理念である次世代の医療を担うより高度な医療人の育成を目的としています。すなわち、優れた科学的知識と研究能力を培い、創造性、科学性、そして広い視野をもって医療科学の新たな分野を開拓できる人材を育成します。そのため、基礎および臨床の両分野において新たな展開を目指した研究領域を置いています。

### 修士課程理念

本学の大学院修士課程は、大学の基本理念である次世代の医療を担う医療人の育成の趣旨を発展させることを目的としています。すなわち、優れた科学的知識と実践的能力を培い、創造性、科学性そして広い視野をもって医療科学の新たな分野を開拓できる人材を育成します。そのため、新たな展開を目指した研究領域と、社会の期待に対応すべく高度実践専門職者を育てる領域の二つの柱を置いています。

### 1) 薬学研究科

#### 理念・目標

現代医療においては、各分野の高度専門化が進む一方、異なる職種間の連携や地域の医療・介護施設、住民、行政との連携が強く求められています。その中で、医療にかかわる者は広い社会的視野をもって、最先端の知識と科学的なものの見方を生かしていく必要があります。本学大学院薬学研究科は、あらゆる場面で「多様な分野で薬学的立場から全人的医療を支えることのできる医薬品の専門職者を養成する」という本学薬学部を継承しつつ、兵庫医科大学との協力関係を最大限に活用しながら、より先端的な内容の講義、演習、研究活動によってその能力をさらに高め、医療薬学の諸問題を解決する能力を持った人材を養成することにより、医療の発展に貢献することを理念とします。この理念を実現するために、以下に示す能力を身に付けた人材の養成を目標とします。

1. 高度な研究能力、すなわち医療の現場において問題点を発見し、それを解決する適切な研究計画を立案し、さらにその成果を論文化することのできる能力を持って医療の質向上と変革を推進することができる医療専門職者。
2. 医療薬学における問題点を基礎薬学の視点から提起し、それを解決しうる基礎的・実験的研究課題を自ら設定し、それを新しい薬剤・製剤・臨床適応の開発に発展させていくことができる薬学研究者。



## 2) 看護学研究科

### 理念・目標

保健・医療・福祉および社会の変動に対応して、生命と人権を尊重し、看護学の専門的知識と技術に立脚し、創造的かつ科学的に看護が実践できる人材ならびに看護の教育と研究に携わる人材を育成し、人々の健康とQOLの向上および看護学の進歩・発展に寄与することにあります。そのために、以下の5つを目標としています。

1. 専攻する看護専門分野に関連する科学的根拠と理論を修得し、看護実践に応用することができる
2. 専攻する看護学専門分野において、専門性の高い知識・技術をもとに看護を実践し、相談・教育・調整機能を高め、看護の質向上と変革を推進することができる
3. 人間愛と高い倫理観を持ち、複雑な倫理的問題を的確に判断し調整することができる
4. 先進医療における看護実践を先導的に行うことを通じて、地域医療の向上に資することができる
5. 専攻する看護専門分野に関する研究課題に取り組み、研究能力を高める

## 3) 医療科学研究科

### 理念・目標

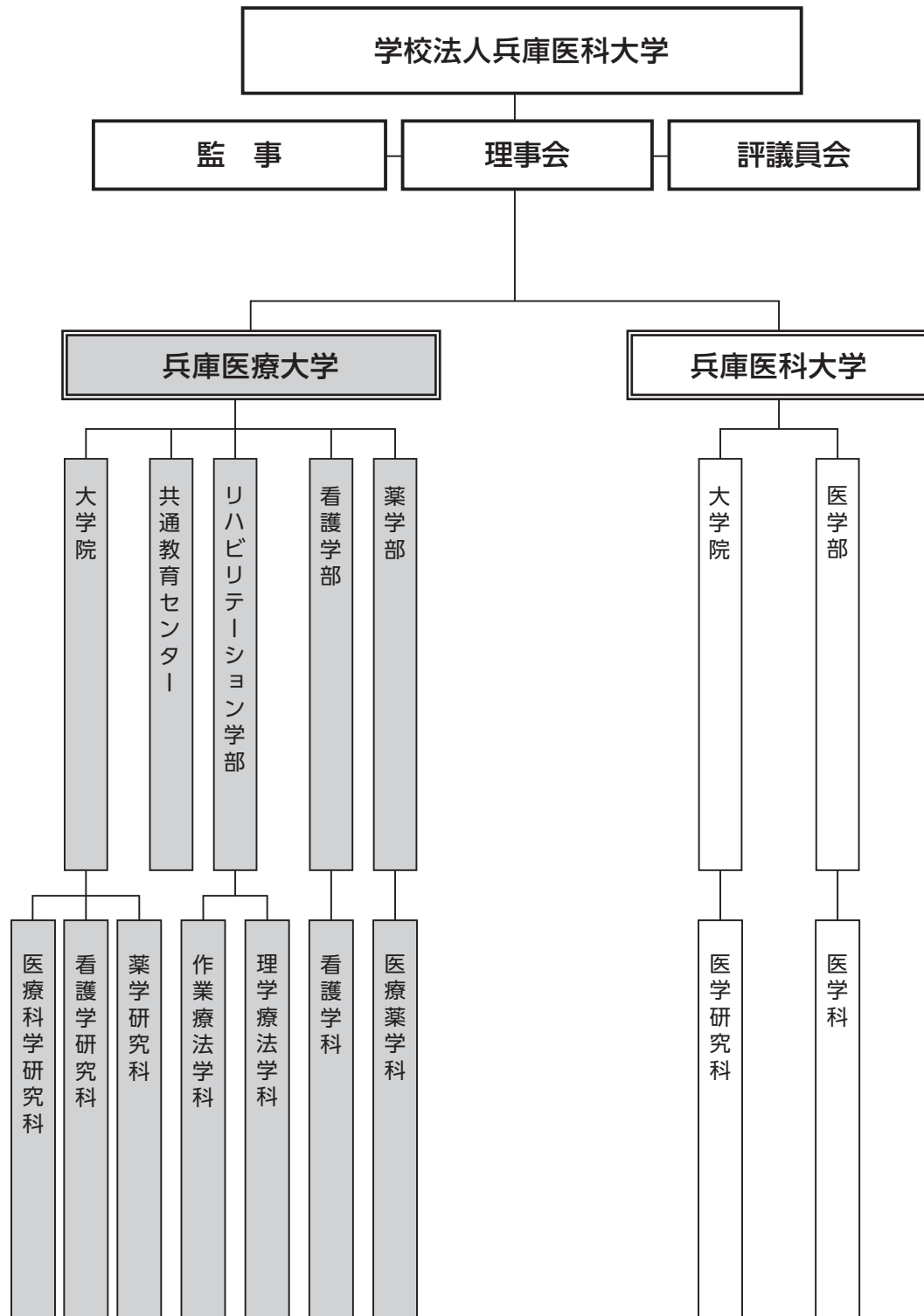
医学・医療科学の発展ならびに急速な高齢化の進行、個人の価値観の多様性等によって、疾病や障害を有した方が社会で生活していくためのニーズは多様化・複雑化してきており、これらの変化に対応していくことが求められています。その中で、リハビリテーション科学の学問的発展に寄与するとともに、より高度な専門的知識と技術を有するリハビリテーション専門職の育成に寄与することにあります。そのために、以下の4つを目標としています。

1. 医療科学における科学的根拠ならびに最新の専門的知識を修得し、幅広い医療人としての教養を培います
2. 専攻する分野において、より高度な専門的知識ならびに技術を修得し、臨床現場で実践するとともに、更なる発展・向上に努めることができる素養を培います
3. 高度な臨床的推論に基づく臨床実践を展開するとともに、後進の育成に寄与できる指導者としての素養を培います
4. 専攻する分野における研究課題に取り組み、研究能力を培います

## 第2章 教育研究組織

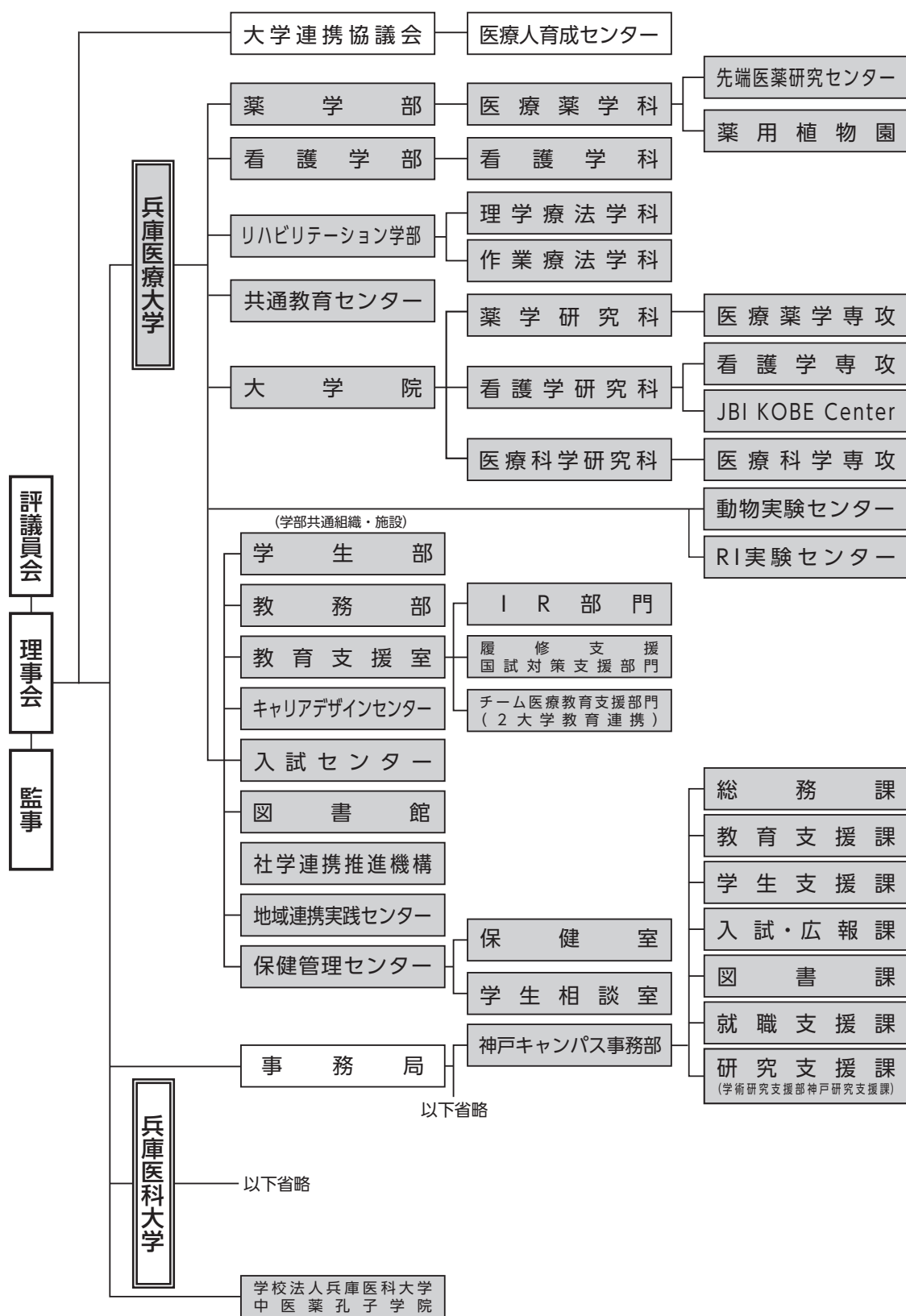
### 1. 大学全体

#### 1) 学校法人兵庫医科大学大学組織機構図



(  : 神戸キャンパス  : 西宮キャンパス )

## 2) 兵庫医療大学組織図



(   ) : 神戸キャンパス



### 3) 大学協議会

#### 概要

大学協議会は、本学の最高意思決定機関であり、毎月1回、定期的に開催している。構成メンバーは学長、副学長、学部長、共通教育センター長、教務部長、学生部長、事務部長である。平成26年度までは研究科長はオブザーバーとして出席していたが、平成27年度からは研究科長も大学協議会の構成メンバーとした。また、事務次長の陪席を認めている。

大学の教学、管理運営、社会活動、将来構想等、大学の全ての活動に係る重要事項を協議している。教授会や委員会などで十分に検討を加えた事項について、全学的立場から協議し、その意見を聴いた上で、学長が最終意思決定を行っている。さらに、特定事項については、学校法人兵庫医科大学常務会、同理事会に付議し、承認を得る。

平成27年4月1日より施行された「学校教育法と国立大学法人法の一部改正」にしたがって、本学でも平成27年4月1日付で、学長のリーダーシップの下、戦略的に大学を運営できる体制を構築するために、学則を改正した。本学を代表し校務をつかさどる学長の裁量や権限と、学生の入学・卒業および課程の修了や学位の授与、教育課程編成など教学事項を協議し学長に意見を述べる教授会の立場を明確にした。

兵庫医療大学開学10周年に向けてのセカンドステージの戦略的取り組み事項の策定、大学ガバナンスの強化のための、管理運営体制の改善（3副学長による業務の分掌体制と学長補佐（事務担当）の設置）を行ってきた。平成27年度は、改正された学則の下で4副学長体制にして管理運営体制を強化した。学長・副学長会議および学長・学部長懇談会を定例の大学協議会の間に行い、管理運営が円滑に行うことができる体制を構築した。

#### 学長・副学長会議

大学に係る諸案件の中で、特に、リスクマネジメントや大きな方向性の決定などの重要な案件について、論点と課題を抽出し、その基本方針を決定する。学長・学部長懇談会（後述）、大学協議会での協議・決定を効率的に、かつ、適切に行うための会議で毎月1回定期的に開催している。なお、緊急の案件がある場合には、定例会以外に適宜開催している。

#### 学長・学部長懇談会

主に、大学協議会の協議案件について、学部間での共通認識を図り、事前の検証、意見交換を十分行うことにより、大学協議会での決定を効率的、かつ、適切に行うための懇談会である。毎月1回定例で開催している。

#### 特記事項

- ・兵庫医療大学給付型奨学金の新設
- ・兵庫医療大学三つのポリシーの制定
- ・「障がい学生支援部会」の設置
- ・社会学連携アドバイザーボードの設置
- ・兵庫医療大学「レクチャー・オブ・ザ・イヤー」表彰制度の制定
- ・中医薬実践講座（基礎編）の実施
- ・「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」への申請
- ・チャイルドケモハウスとの地域連携に係る協定締結
- ・兵庫医療大学学部長補佐および共通教育センター長補佐に関する内規制定

- ・神戸市との災害時の医薬品集積センターとしての一時利用に関する協定書の締結
- ・兵庫県との就職支援に関する協定書の締結
- ・兵庫医療大学ポスト・ドクター受入規程の制定

## 2. 学部

### 概要

本学は、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部（理学療法学科および作業療法学科）、共通教育センターの3学部4学科、1センターより構成されている。

共通教育センターは一般教養科目のみならず、アカデミックリテラシー、早期臨床体験実習（Early Clinical Exposure：ECE）、チーム医療概論、チーム医療論演習などを兵庫医科大学とも連携して全学的に実践している。

## 3. 大学院

### 概要

平成23年度に大学院修士課程の看護学研究科と医療科学研究科を設置し、平成25年度に大学院博士課程薬学研究科を開設した。

平成28年度より職業実践力育成プログラム（BP）を開設した。BPは社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムとして文部科学大臣が認定し奨励するもので、本学はその趣旨に沿って、医療総合大学として地域医療を担う医療専門職者のキャリアアップを支援する3プログラム（地域在宅看護実践力育成プログラム、PT・OT臨床力ステップアッププログラム、リハビリテーション科学課題研究コース）を設置し、多数の受講生が参加した。

### 第3章 教員・教員組織（教員組織の編成方針、募集・採用・昇格、教員の資質向上）

#### 1. 大学全体

##### 1) 役職者名簿

役 職	氏 名	所 属
学 長	馬場 明道	兵庫医療大学
副学長	前田 初男	薬学部
副学長	末廣 謙	共通教育センター
副学長	藤田 幸久	兵庫医療大学
副学長	藤岡 宏幸	リハビリテーション学部
薬学部長	西山 信好	薬学部
看護学部長	網島ひづる	看護学部
リハビリテーション学部長	山崎せつ子	リハビリテーション学部
理学療法学科長	玉木 彰	リハビリテーション学部
作業療法学科長	山崎せつ子	リハビリテーション学部
共通教育センター長	伊東 久男	共通教育センター
薬学研究科長	西山 信好	大学院薬学研究科
看護学研究科長	竹田千佐子	大学院看護学研究科
医療科学研究科長	玉木 彰	大学院医療科学研究科
図書館長	末廣 謙	図書館
学生部長	竹田千佐子	学生部
教務部長	川口浩太郎	教務部
入試センター長	日高 正巳	入試センター
保健管理センター長	岩崎 剛	保健管理センター
地域連携実践センター長	神崎 初美	地域連携実践センター
社学連携推進機構長	前田 初男	社学連携推進機構
キャリアデザインセンター長	青木 俊二	キャリアデザインセンター

##### 2) 全学教職員集会

###### 概要

全学教職員集会は、大学の教育や運営における全学的な取り組みを推進する目的で毎年2回実施している。

###### 内容

開催日	内 容	担当者
4月4日(金)	1. 新任執行部メンバー、新任教員の紹介とあいさつ	学生部長 竹田 千佐子 キャリアデザインセンター長 青木 俊二
	2. これからの3年間に向けた取組み	学長 馬場 明道
	3. 就学要支援学生に対する大学のスタンスについて ～「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」～	副学長 藤田 幸久
	4. ポートフォリオを用いた学習支援	副学長 末廣 謙
	5. 2015年度ベストレクチャー賞について	副学長 末廣 謙
	6. 学部・研究科の課題と取り組み状況	薬学部長・ 大学院薬学研究科長 西山 信好 看護学部長 網島 ひづる リハビリテーション学部長 山崎 せつ子 共通教育センター長 伊東 久男
	7. フリーディスカッション	



開催日	内 容	担当者
12月22日(木)	1.「神戸2020ビジョン」について	神戸市企画調整局 総合計画課（大学連携支援室） 天野 稔也 課長
	2. 学校法人兵庫医科大学の平成29年度以降の 創立記念日・ハッピーマンデー等の取り扱いについて	学校法人兵庫医科大学 副理事長 太城 力良 学校法人兵庫医科大学 常勤理事 森田 泰夫
	3.「大学の現状と課題」について	学長 馬場 明道

## 2. 学部

### 専任教員数

学 部	学 科	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	合 計
薬学部	医療薬学科	18	2	10	15	3	48
看護学部	看護学科	8	7	11	8	5	39
リハビリテーション学部	理学療法学科	4	1	5			10
	作業療法学科	3	2	5	1		11
共通教育センター		6	2	5			13
合計		39	14	36	24	8	121

(平成28年5月1日現在)

### 1) 薬学部

#### 特記事項

平成28年度の薬学部の教員組織は、48名の専任教員で構成された。この中には、薬学実務教育を担当する7名の実務家教員と臨床経験が豊富な6名の医師資格を有する教員が含まれている。また、この他に3名の実務家みなし教員が実務教育の指導を担当した。専任教員の職位ごとの内訳は、教授18名（薬学部全教員の38%）、准教授2名（同4%）、講師10名（同21%）、助教・助手18名（同38%）であり、バランスのとれた教員配置となっている。講師以上の30名の教員は、科目責任者として授業科目および実習科目を担当している。また助教および助手を加えた全教員が、実習科目を担当している。この他に、非常勤講師として学外からも多くの病院薬剤師および薬局薬剤師を招聘し、主に実務事前学習の指導にあたっている。

薬学部では、教員の教育上の指導能力の重要性に鑑み、教員の採用および昇任については募集要項に教育と学生指導に積極的に取り組む熱意と能力が求められることを明示し、関連する規程等に則った選考および審査を実施している。

### 教員一覧

職 位	氏 名	専門分野	着任日
教 授	前田 初男	生体分析化学	平成19年4月1日
教 授	西山 信好	薬理学	平成19年4月1日
教 授	青木 俊二	天然薬物学	平成19年4月1日
教 授	田中 明人	創薬化学	平成19年4月1日
教 授	田中 稔之	免疫学	平成19年4月1日
教 授	宮部 豪人	有機化学	平成19年4月1日
教 授	山本 悟史	生理学	平成19年10月1日
教 授	岩崎 剛	薬物治療学	平成20年4月1日

職 位	氏 名	専門分野	着任日
教 授	上田 晴康	免疫学	平成20年 4 月 1 日
教 授	大河原 知水	生化学	平成20年 4 月 1 日
教 授	清宮 健一	毒性学	平成20年 4 月 1 日
教 授	九川 文彦	薬物動態学	平成20年 4 月 1 日
教 授	戴 毅	漢方医学	平成20年 4 月 1 日
教 授	安屋敷 和秀	薬理学	平成21年 4 月 1 日
教 授	齋藤 あつ子	微生物学	平成21年 4 月 1 日
教 授	辻野 健	薬物治療学	平成21年10月 1 日
教 授	森山 雅弘	臨床薬剤学	平成22年10月 1 日
教 授	天野 学	医療薬学	平成25年 4 月 1 日
准教授※1	前田 拓也	微生物学	平成19年 4 月 1 日
准教授	甲谷 繁	物理化学	平成19年 4 月 1 日
講 師	上田 寛樹	先端医療薬剤学	平成20年 4 月 1 日
講 師	清水 忠	創薬化学	平成20年 4 月 1 日
講 師	中野 博明	薬剤学	平成20年 4 月 1 日
講 師	長野 基子	微生物学	平成20年 4 月 1 日
講 師	藤野 秀樹	薬物動態学	平成20年 4 月 1 日
講 師	三浦 大作	生化学	平成20年 4 月 1 日
講 師	伊藤 崇志	医療薬学教育	平成21年 4 月 1 日
講 師※2	南畝 晋平	薬物動態学	平成21年10月 1 日
講 師※2	大野 雅子	臨床薬理学	平成22年 4 月 1 日
講 師※2	桂木 聡子	社会薬学	平成22年 4 月 1 日
助 教※3	岩岡 恵実子	天然薬物学	平成19年 4 月 1 日
助 教※3	塚本 効司	分析化学	平成19年 4 月 1 日
助 教	是金 敦子	生化学	平成19年 4 月 1 日
助 教	田中 康一	薬理学	平成19年10月 1 日
助 教	大野 喜也	免疫学	平成20年 4 月 1 日
助 教	吉岡 英斗	有機化学	平成20年 4 月 1 日
助 教	大森 志保	微生物学	平成21年 4 月 1 日
助 教	小暮 洋子	生理学	平成21年 4 月 1 日
助 教	小淵 修平	薬理学	平成21年 4 月 1 日
助 教	王 勝蘭	漢方医学	平成25年 2 月 1 日
助 教	村上 雅裕	臨床薬学	平成26年 7 月 1 日
助 教	橋本 佳奈	臨床薬学	平成27年 6 月 1 日
助 教	伊藤 都裕	薬物治療学	平成27年 7 月 1 日
助 教	安田 恵	臨床薬学	平成27年 9 月 1 日
助 教	川島 祥	物理化学	平成28年 1 月 1 日
助 手	芝田 宏美	薬物治療学	平成20年 4 月 1 日
助 手	関 まどか	衛生化学	平成27年 6 月 1 日
助 手	杉野 佑太	医療薬学	平成28年 4 月 1 日

※1 12月1日付 教授に昇任

※2 11月1日付 准教授に昇任

※3 2月1日付 講師に昇任

## FD

開催日	内 容	担当者	参加者数（人）
2月16日(木)	大学に求められる質保証とパフォーマンス評価	講師：摂南大学薬学部・ 安原 智久 先生	薬学部教員：31
3月23日(木)	ハラスメントに関するFD	講師：本学学生相談室・ 原田相談員・ 西崎 相談員	薬学部教員：30

## 2) 看護学部

看護学部として求める教員像および教員組織の編成方針は以下のとおりである。

- ①看護学における理論的知と臨床の和が融合した教育を目指し、実務経験を豊富に有し、これをベースとした実践力を養うための教育を行いうる看護専門職者を配置する。
- ②グローバルな視野を持ち、感性豊かで倫理的・創造的な看護専門職者の養成を目指し、教育研究業績の豊富な教員と研究における将来性および教育への情熱を持つ若手教員をバランスよく配置する。
- ③各看護専門分野に、それぞれの職位の教員をバランスよく配置する。

上記編成方針と「兵庫医療大学教員人事に関する規程」、兵庫医療大学教員定数・教員構成・配置員数をもとに教員人事計画を検討した。さらに、看護学部の将来構想に鑑みた教員配置を検討する、本学の専任教員として実績のある者について積極的に昇格人事を計画するなどを看護学部として決定した。また、教授会において教員候補者選考審査（採用ならびに昇格）要件および教員候補者選考審査手続きについて確認し共有した。任期制教員の再任においても「兵庫医療大学における任期制教員の再任に関する申し合せ」に則り、業績審査委員会の設置、看護学部再任基準および手続について教授会において確認し共有した。

また、学生の臨地における教育の充実を図ることを目的とし、学生実習の教育指導等に関与する兵庫医科大学病院の指導的な医療専門職者5名に兵庫医療大学臨床実習教授・准教授の称号を付与した。この申請および付与手続きは、学部長が学部教授会の議を経て、候補者を学長に付議し、大学協議会の議を経て臨床実習教授等を決定し、協力機関の長の承認を得たうえで称号を付与している。

## 教員一覧

領 域	職 位	氏 名	専門分野	着任日
基盤看護学	教 授	竹田 千佐子	基礎看護学（理論・技術）	平成19年4月1日
基盤看護学	教 授	土田 敏恵	基礎看護学（技術・感染）	平成19年4月1日
家族支援看護学	教 授	西村 明子	母性看護学	平成19年4月1日
療養支援看護学	教 授	網島 ひづる	成人看護学（急性）	平成20年4月1日
療養支援看護学	教 授	新井 信之	精神看護学	平成20年4月1日
家族支援看護学	教 授	鈴井 江三子	助産学	平成23年4月1日
生活支援看護学	教 授	細見 明代	老年看護学	平成23年4月1日
療養支援看護学	教 授	神崎 初美	成人看護学（がん・慢性）	平成26年4月1日
家族支援看護学	准教授	石原 あや	小児看護学	平成20年4月1日
療養支援看護学	准教授	松本 麻里	成人看護学（がん・慢性）	平成20年4月1日
生活支援看護学	准教授	堀口 和子	在宅看護学	平成23年4月1日
生活支援看護学	准教授	土井 有羽子	公衆衛生看護学	平成23年10月1日
家族支援看護学	准教授	岡田 公江	助産学・母性看護学	平成25年4月1日
療養支援看護学	准教授	笹川 寿美	成人看護学（急性）	平成26年4月1日
療養支援看護学	准教授	田中 登美	成人看護学（がん・慢性）	平成26年4月1日



領 域	職 位	氏 名	専門分野	着任日
家族支援看護学	講 師	飯尾 祐加	助産学・母性看護学	平成19年4月1日
基盤看護学	講 師	鈴木 みゆき	基礎看護学（理論・技術）	平成20年1月1日
基盤看護学	講 師	荻野 待子	基礎看護学（技術・看護マネジメント）	平成20年4月1日
生活支援看護学	講 師	山田 千春	老年看護学	平成20年4月1日
基盤看護学	講 師	岸 あゆみ	基礎看護学（技術）	平成24年4月1日
療養支援看護学	講 師	府川 晃子	成人看護学（がん・慢性）	平成25年4月1日
療養支援看護学	講 師	貞永 千佳生	成人看護学（急性）	平成26年4月1日
生活支援看護学	講 師	鈴木 千枝	在宅看護学	平成26年10月1日
生活支援看護学	講 師	魚崎 須美	公衆衛生看護学	平成27年4月1日
療養支援看護学	講 師	立垣 祐子	精神看護学	平成27年4月1日
家族支援看護学	講 師	藤井 加那子	小児看護学	平成27年4月1日
基盤看護学	助 教	増田 富美子	基礎看護学（技術）	平成19年4月1日
生活支援看護学	助 教	足立 安正	公衆衛生看護学	平成25年4月1日
家族支援看護学	助 教	片田 千尋	助産学・母性看護学	平成25年4月1日
療養支援看護学	助 教	森島 千都子	成人看護学（がん・慢性）	平成26年4月1日
家族支援看護学	助 教	高谷 知史	小児看護学	平成27年4月1日
基盤看護学	助 教	龔 恵芳	基礎看護学（技術）	平成27年10月1日
生活支援看護学	助 教	正垣 悠太	老年看護学	平成28年4月1日
療養支援看護学	助 教	山名 華代	助産学・母性看護学	平成28年4月1日
療養支援看護学	助 手	市川 由希子	精神看護学	平成26年4月1日
基盤看護学	助 手	松久 智美	基礎看護学（技術）	平成27年1月1日
療養支援看護学	助 手	千葉 香苗	成人看護学（急性）	平成28年4月1日
生活支援看護学	助 手	西山 章弘	老年看護学	平成28年4月1日
基盤看護学	助 手	中島 一成	基礎看護学（技術）	平成28年5月1日

#### 臨床実習教授等の委嘱

称 号	役 職	氏 名	所 属
臨床実習教授	看護部長（副院長）	山田 明美	兵庫医科大学病院 看護部
臨床実習教授	看護次長	丸山 美津子	兵庫医科大学病院 看護部
臨床実習教授	看護次長	加地 靖子	兵庫医科大学病院 看護部
臨床実習教授	看護次長	笠松 由利	兵庫医科大学病院 看護部
臨床実習教授	看護師長	藤井 利江	兵庫医科大学病院 外来

## FD

開催日	内 容	担当者	参加者数（人）
6月23日(木)	ハラスメント防止のための研修会 講義「学生の理解と対応、ハラスメントの基本的な知識を学ぶ」およびグループワーク	講師：原田久仁美、 西崎隆志先生(臨床心理士) 看護学部FD委員会委員	看護学部教員：35 事務職員：2
9月21日(水)	実習指導のあり方 グループワーク「事前アンケートから抽出した事例についての実習指導のあり方」	看護学部FD委員会委員	看護学部教員：36
3月6日(月)	大学教員のあり方 看護学部や各領域における自身のあり方、大学教員の役割	看護学部FD委員会委員	看護学部教員：34

## 3) リハビリテーション学部

## 特記事項

- ・教員組織の編成方針は以下のとおりである。
- ✓ 理学療法学科、作業療法学科の2学科で構成されているリハビリテーション学部は、教員組織を理学療法学科教員と作業療法学科教員の2組織とし、学部長に加えて理学療法学科長・作業療法学科長を置く。
- ✓ 質の高い生活の推進、健康増進から障がいの予防と治療、高齢化に伴う地域密着型介入など多様な役割に対応できる理学療法士・作業療法士を育成するため、幅広い専門分野から高度な知識と技術をもつ理学療法士・作業療法士を配置するとともに、より高い専門性をもって学際的に教育・研究を発展させるために、整形外科医、精神科医など関連領域の専門職も配置する（教員一覧参照）。
- ✓ 教育・研究の多様なニーズに対応するため、臨床経験が豊富な教員と教育・研究経験に富む教員のバランスをとるとともに、可能な限り、年齢および職位のバランスを考慮する。
- ・教員の募集・採用・昇格に関しては、平成19年の開学以来、文部科学省への設置申請に準じて教員が採用された。以後、「兵庫医療大学教員人事に関する規定」に沿って適切に実施している。平成28年度には、規定に則り、理学療法学科講師1名の准教授への昇格人事が行われた。
- ・教員の質の向上を図るため、以下のことを実施している。
- ✓ 教育の質保証を確実にすることを目的として、平成29年度シラバス作成時に、「平成29年度学部授業シラバスの確認事項－当該年度の振り返りと次年度に向けての改善計画を中心に－」を科目責任者が各科目について記載し、学科長、学部自己点検・評価委員会が内容を評価・確認し、その結果を教授会に報告する。
- ✓ 広い視野をもって教員の質向上を図るため、全学FDに加えて、外部講師を迎えての学部内FDを年1回、また、学部教員による学部内FDを2か月に1回程度実施している（表、FD参照）。平成28年度の外部講師による学部FDは、教員の学生に対する対応の質向上を目的として、アカデミックハラスメントをテーマとした。

## 教員一覧

領 域	職 位	氏 名	専門分野	着任日
運動器理学療法学	教 授	川口 浩太郎	スポーツ理学療法学	平成19年4月1日
神経障害理学療法学	教 授	日高 正巳	理学療法教育学	平成19年4月1日
精神障害作業療法学	教 授	山田 大豪	精神科作業療法学	平成19年4月1日
身体障害作業療法学	教 授	山崎 せつ子	認知障害作業療法学	平成20年4月1日
運動器理学療法学	教 授	藤岡 宏幸	整形外科学	平成23年1月1日
内部障害理学療法学	教 授	玉木 彰	呼吸器理学療法学	平成23年4月1日
精神障害作業療法学	教 授	松井 徳造	精神医学	平成23年10月1日
発達障害作業療法学	准教授	伊藤 斉子	高機能広汎性発達障害作業療法学	平成19年4月1日
運動器理学療法学	准教授	坂口 顕	物理療法学・スポーツ理学療法学	平成19年4月1日
身体障害作業療法学	准教授	佐野 恭子	認知障害作業療法学	平成20年4月1日
発達障害作業療法学	講 師	有吉 正則	地域・発達障害作業療法学	平成19年4月1日
身体障害作業療法学	講 師	櫛邊 勇	ハンド・セラピー	平成19年4月1日
神経障害理学療法学	講 師※1	森 明子	ウィメンズ・ヘルス	平成21年4月1日
精神障害作業療法学	講 師	坂本 浩	Social Skills Training	平成21年4月1日
地域・老年期作業療法学	講 師	坂本 利恵	地域・老年期作業療法学	平成21年4月1日※2
内部障害理学療法学	講 師	森沢 知之	心臓理学療法学	平成21年4月1日
内部障害理学療法学	講 師	宮本 俊朗	代謝系理学療法学	平成25年4月1日
運動器理学療法学	講 師	塚越 累	バイオメカニクス	平成25年10月1日
身体障害作業療法学	講 師	平上 尚吾	中枢神経障害作業療法学	平成25年10月1日
神経障害理学療法学	講 師	永井 宏達	予防理学療法学	平成26年4月1日
精神障害作業療法学	助 教	奥谷 研	精神作業活動学	平成21年4月1日

※1 11月1日付 准教授に昇任

※2 11月1日付 法人内異動

## FD

開催日	内 容	担当者	参加者数(人)
4月21日	active learning	坂口 顕 (学部教員)	18
6月2日	4大学連携事業「花倶楽部」	伊藤 斉子 (学部教員)	20
7月7日	呼吸リハビリテーション最前線	玉木 彰 (学部教員)	17
9月1日	自律神経機能評価を用いた作業療法プログラムの有効性	奥谷 研 (学部教員)	16
12月1日	地域における介護予防サポーター養成の取り組み	永井 宏達 (学部教員)	17
1月5日	橈骨遠位端骨折後のハンドセラピーの実際	櫛邊 勇 (学部教員)	18
2月9日	アカデミック・ハラスメント	原田 久仁美(臨床心理士)	19

#### 4) 共通教育センター

##### 特記事項

平成28年度は13名の専任教員、多数の非常勤講師および兼任教員が全学部の基礎教育科目とチーム医療教育科目および一部の専門基礎教育科目を担当した。

##### 教員一覧

職 位	氏 名	専門分野	着任日
教 授	末廣 謙	内科学	平成19年4月1日
教 授	伊東 久男	解剖学	平成19年4月1日
教 授	加藤 精一	物理学	平成19年4月1日
教 授	秦 正哲	英語教育学	平成19年4月1日
教 授	紀平 知樹	哲学	平成21年4月1日
教 授	柏村 信一郎	生物学	平成25年1月1日
准教授	賀屋 光晴	健康スポーツ科学	平成19年4月1日
准教授	芝崎 誠司	化学	平成19年4月1日
講 師	福田 範子	英文学	平成19年4月1日
講 師	常見 幸	内科学	平成24年7月1日
講 師	西田 喜平次	統計学	平成25年4月1日
講 師	土江 伸誉	心理学	平成26年4月1日
講 師	山本 英幸	生理学	平成28年4月1日

##### FD

開催日	内 容	担当者	参加者数(人)
2月28日	自閉症スペクトラムのある学生への理解と対応	兵庫教育大学 井澤 信三 先生	50

### 3. 大学院

#### 専任教員数

研究科	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	合 計
薬学研究科	18	3	9	7	0	37
看護学研究科	8	7	6	0	0	21
医療科学研究科	7	3	9	0	0	19
合計	33	13	24	7	0	77

平成28年5月1日現在

#### 1) 薬学研究科

##### 特記事項

薬学研究科の教員組織は、豊富な教育・研究業績を有し、博士の学位取得者もしくはそれと同等の業績を有する教授20名・准教授5名・講師7名・助教6名から構成される。大学院博士課程の中核となる研究指導科目は、教授・准教授・講師が研究指導教員（22名）として担当し、研究遂行能力を高める演習科目や講義科目にはそれ以外の講師・助教が加わり手厚い教育・指導を行った。

# 教員一覧

職 位	氏 名	専門分野
教 授	九川 文彦	臨床ゲノム薬理・分子薬物動態学
教 授	岩崎 剛	分子病態解析学
教 授	安屋敷 和秀	循環薬理学・分子毒性学
教 授	清宮 健一	循環薬理学・分子毒性学
教 授	西山 信好	中枢神経薬理学
教 授	青木 俊二	天然薬物学
教 授	森山 雅弘	臨床薬剤学
教 授	天野 学	応用医療薬学
教 授	田中 稔之	免疫制御学
教 授	上田 晴康	免疫制御学
教 授	大河原 知水	レドックス生物学
教 授	山本 悟史	神経病態制御学
教 授	戴 毅	神経病態制御学
教 授	宮部 豪人	医薬品化学
教 授	前田 初男	分子イメージング科学（可視化計測学） 医療ユニバーサルデザイン学
教 授	辻野 健	分子循環器病治療学
教 授	田中 明人	創薬化学
教 授	齋藤 あつ子	微生物・寄生体学
准教授※1	前田 拓也	微生物制御学
准教授	芝崎 誠司	分子病態解析学
准教授	甲谷 繁	医薬品化学
講 師※2	大野 雅子	応用医療薬学
講 師※2	桂木 聡子	
講 師※2	南畝 晋平	
講 師	長野 基子	微生物・寄生体学
講 師	藤野 秀樹	応用医療薬学
講 師	上田 寛樹	
講 師	清水 忠	
講 師	中野 博明	
講 師	三浦 大作	
助 教※3	塚本 効司	
助 教	吉岡 英斗	有機化学
助 教	田中 康一	
助 教	是金 敦子	
助 教	大野 喜也	
助 教	大森 志保	
助 教※3	岩岡 恵実子	天然薬物学

※1 12月1日付 教授に昇任

※2 11月1日付 准教授に昇任

※3 2月1日付 講師に昇任



## 2) 看護学研究科

### 特記事項

平成23年開設の看護学研究科の求める教員像は、設置基準に沿った看護学部における教育研究の蓄積と発展を基盤とし、研究科の理念・目標の達成に向けて看護学の専門性に応じた大学院教育研究活動を推進できる人材である。組織は看護学の専門性と看護学部との継続性を維持した基盤看護学・療養支援看護学・家族支援看護学・生活支援看護学の4分野（10特定分野を含む）で構成し、併せて看護学基礎研究領域と看護学課題研究・高度実践の2領域を担う編成とし、それぞれの専門分野に教育・研究を中心となって推進する教員を配している。

### 教員一覧

領 域	職 位	氏 名	分 野
看護教育学	教 授	竹田 千佐子	基盤看護学
基礎看護学	教 授	土田 敏恵	
急性看護学	教 授	網島 ひづる	療養支援看護学
	准教授	笹川 寿美	
がん看護学	准教授	田中 登美	
慢性看護学	教 授	神崎 初美	
	准教授	松本 麻里	
精神看護学	教 授	新井 信之	
小児看護学	准教授	石原 あや	家族支援看護学
母性看護学・助産学	教 授	鈴木 江三子	
	教 授	西村 明子	
	准教授	岡田 公江	
老年看護学	教 授	細見 明代	生活支援看護学
地域看護学	准教授	土井 有羽子	
在宅看護学	准教授	堀口 和子	
	講 師	岸 あゆみ	
	講 師	鈴木 みゆき	
	講 師	貞永 千佳生	
	講 師	府川 晃子	
	講 師	飯尾 祐加	
	講 師	鈴木 千枝	

## 3) 医療科学研究科

### 特記事項

平成23年開設の本研究科は、豊富な臨床経験と研究業績を有し、博士の学位を有する教授7名、准教授3名、講師6名で構成されている。そして専門分野として病態運動学および人間活動科学の2つに、さらに運動器障害、内部障害、神経障害、身体・認知活動、精神活動の5つの専門領域に分かれて、それぞれ専門的な教育と研究指導を行っている。また大学院を担当する教員は、専門科目ならびに専門基礎科目についても、学部専任教員を兼ねており、それぞれ臨床経験を有し、臨床現場での技術指導を継続的に実施している教員をもって充当することとしている。

# 教員一覧

分 野	職 位	氏 名	専門分野
病態運動学	教 授	川口 浩太郎	運動器障害
	教 授	藤岡 宏幸	
	准教授	坂口 顕	
	講 師	塚越 累	
	教 授	玉木 彰	内部障害
	講 師	森沢 知之	
	講 師	宮本 俊朗	
	教 授	日高 正巳	神経障害
	講 師※1	森 明子	
	講 師	永井 宏達	
人間活動科学	教 授	山崎 セツ子	身体・認知活動
	准教授	佐野 恭子	
	講 師	櫛邊 勇	
	講 師	平上 尚吾	
	教 授	山田 大豪	精神活動
	教 授	松井 徳造	
	講 師	有吉 正則	
	准教授	伊藤 斉子	
	講 師	坂本 理恵※2	

※1 11月1日付 准教授に昇任

※2 11月1日付 法人内異動

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 1. 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

#### 教育目標

- ・幅広い教養と心豊かな人格の育成
- ・関連分野とのボーダレスな教育環境のもと、専門性の高い知識と技術の修得
- ・優れたコミュニケーション能力を基礎とした、チーム医療・地域医療を担える資質の育成
- ・次世代の医療科学を担う創造性と国際性の涵養

#### ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

学校法人兵庫医科大学の建学の精神ならびに本学の教育理念・目標のもとに、人間への深い愛と豊かな人間性を持ち、幅広い知識と優れた技術を備え、社会とともに医療を担う医療専門職者の資質をもった学生に学位を授与します。

#### カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

幅広い教養と心豊かな人格の育成・関連分野とのボーダレスな教育環境のもと専門性の高い知識と技術の修得・優れたコミュニケーション能力を基礎としたチーム医療を担える資質の育成・次世代の医療科学を担う創造性と国際性の涵養が、可能になるように教育課程を編成します。大学での学びに必要な学習方法や基本的能力を修得する科目および医療専門職者として必要な専門領域以外の自然科学、人文科学、語学などの多彩な教養科目を開講します。チーム医療関連科目をはじめとする専門科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組合せた授業を開講します。

#### 1) 学部

##### ①薬学部

#### 教育目標

1. 「くすり」と「生体」およびその相互作用に対する科学的理解を深め、幅広い教養とともに薬剤師としての基盤となる正しい知識を身に付ける。
2. 生命の尊厳を尊重する高い倫理観とともに、人々の健康と幸福を願い、その治療とケアに携わることができる豊かな人間性を養う。
3. ボーダレスな教育環境のもと、様々な医療専門職者の役割を理解し、連携を保ち互いに協調し、患者の病態のみならず心理的・社会的背景を理解し、適切な薬物治療を推進する総合的実践能力を身に付ける。
4. 医療の高度化・多様化および科学技術の進展に適切に迅速に対応するため、高い創造性と生涯にわたり自ら学び続ける自己開発能力を身につける。
5. 個人にとって安全かつ適切な薬の使用を促すため、くすりの有効性・安全性に関する正しい知識とともにリスク管理能力を身に付ける。
6. 優れたコミュニケーション能力を身に付けるとともに、医療・保健衛生分野における薬剤師のあり方について学び、社会的視野を広げる。

#### ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

本学部所定のカリキュラムを修了するとともに、以下の資質を身につけた学生に卒業を認定し、学士（薬学）を授与します。

1. 幅広い教養と豊かな人間性を持ち、医療専門職者に必要な倫理観、使命感、責任感を有する。
2. チーム医療の一員として、他の医療専門職者とコミュニケーションを取り、互いの立場を理解し尊重しながら、薬剤師として貢献することができる。
3. 十分なコミュニケーション能力を有し、患者の病態のみならず心理的・社会的背景を理解し、たとえば薬物治療を実践することができる。
4. 「医薬品・化学物質」と「生体・環境」およびその相互作用について正しい知識を身につけ、さらにそれを応用する技能を有する。
5. 西洋医学および東洋医学に基づく安全かつ有効な薬物療法を主体的に実施するために必要な薬学的管理を実践する能力を有する。
6. 地域の医療・保健・福祉に関する知識と、それを地域住民の健康増進、公衆衛生の向上に結びつける能力を有する。
7. 研究活動に取り組む意欲を有し、研究課題を発見し解決する基本的能力を有する。
8. 世界の医療・科学技術の進歩に迅速に対応できるよう、生涯にわたり自ら学び続けることができる。
9. 次世代の医療を担う人材を育成し、医療の継続的な発展に貢献するため、後進を指導する意欲と態度を有する。

#### カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）」に準拠した授業科目と本学が独自に設定した次の授業科目を組み入れた特色あるカリキュラムを編成します。

1. 幅広い教養と豊かな人間性を涵養する科目
2. 薬剤師に必要な倫理観、使命感、責任感を涵養する科目
3. 薬学の専門的知識・技能を活かし、チーム医療の中で、連携協力し合う能力を培う統合科目
4. 薬物治療を実践するために薬剤師に必要なコミュニケーション能力を養成する科目
5. 基礎薬学から実践的な医療薬学まで、薬剤師として必要な知識、技能を養成する科目
6. 地域の医療、保健、福祉に関する知識を修得し、地域住民の健康増進、公衆衛生向上に結び付ける能力を養成する科目
7. 医療や科学技術の発展に貢献できる研究能力と、生涯を通して学び続ける自己研鑽能力を養成するための科目
8. 次世代の医療を担う人材を育成し、医療の継続的な発展に貢献するため、後進を指導する意欲と態度を養成するための科目

#### 編成方針

初年次は、全教育課程を全うするために必要な学習諸要素を修得する機会を提供する。薬学専門科目を学ぶ基礎として的高大接続科目を初年次の初めに配置する。人文科学、社会科学、自然科学などの教養科目は低学年次に修得させる。

低学年次から高学年次にわたり医療専門職者としての意識づけや態度教育を行い、チーム医療科目やコミュニケーションに関する科目は複数年次にわたって継続的・発展的に編成する。専門科目はキャリアイメージを早期に確かなものとするために、初年次から開始し、段階的に能力を各年次において発展させるべく編成する。

薬剤師業務の基礎的知識、技能、態度が修得できるよう4年次に実務実習事前学習や共用試験を受験させ、その試験に合格後、5年次に5か月間にわたる薬局実務実習および病院実務実習を履修する。4年次後半より研究室配属を行い、実験・研究を通じて問題解決能力、自己研鑽能力、

後進を指導する意欲と態度を養成する。さらに、最終学年次には、6年間の学修内容を統合的に連携付けさせる総合演習科目を配当する。

### 実施方針

学習効率の向上および能動的学習態度の形成、コミュニケーション能力の育成などを目的として、講義・演習・自己学習の他に、グループ学習、問題基盤型学習、チーム基盤型学習など参加型学習を積極的に取り入れる。技能・態度の修得を目的に、実習科目を取り入れる。さらに、授業科目に関連する医療施設・薬事衛生施設・企業の見学、学識経験者や薬害患者などの招聘講義、医療専門職者・模擬患者の授業参加を取り入れる。

### 成績評価方法

紙面での試験、レポート評価のほか、技能・態度の評価（形成的評価を含む）、ピア評価、口頭試問、プレゼンテーションなど多角的な視点で評価する。病院・薬局実務実習に関しては、技能・知識の評価に加えて、医療専門職者となるための心構えを含めた、マナー、積極性、探求心、協調性、社会的常識などの獲得に関しても評価する。研究実習・研究研修に関しては、研究活動、研究発表、研究論文に関するルーブリック評価表を作成して評価する。

## ②看護学部

### 教育目標

1. 豊かな人間性を備え、人の痛み、苦しみや生命の尊厳を理解し、人がもつ権利や価値観を尊重して行動することができる。
2. 理論と実践から導き出された看護学に関する専門的知識と科学的根拠に基づく判断能力および問題解決能力を身につける。
3. 対象者の安全・安楽と主体性を重視した科学に基づく専門的技術および人の尊厳と権利を擁護するのに大切なコミュニケーション技法を身につける。
4. 医学、薬学、リハビリテーション学におけるそれぞれの専門性や役割について理解し、それぞれの職種の人々と有機的に連携協力するとともに調整できる能力を身につける。
5. 地域的・国際的な視野で、保健・医療・福祉の課題を幅広くとらえ、看護職者の役割・機能を展望できる。
6. 自ら考え創造する態度を身に付け、生涯にわたって看護学を探究しつづける基盤をもつことができる。

### ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

本学部所定のカリキュラムを修了するとともに、以下の資質を身につけた学生に卒業を認定し、学士（看護学）を授与します。

1. 人間および生命の尊厳に対して真摯に向き合うことができる。
2. 地域社会から国際社会に至る多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重できる豊かな人間性を備える。
3. 看護に必要な専門的知識および論理的思考を身につける。
4. 看護を提供するための問題解決に向けての方略を選択し実践できる。
5. 看護の基本技術を的確に実施できる。
6. コミュニケーション技法を用いて、対象者と信頼関係を築くことができる。



7. 医療・保健・福祉のチームにおける各専門職種の専門性および役割を理解できる。
8. 医療チームの中で他職種と有効かつ協力的にコミュニケーションをとり、専門職としての責任ある行動をとることができる。
9. 地域的・国際的動向に関心をもち、それぞれの地域や国の文化を通して、医療・保健・福祉の課題と看護職者の役割を展望することができる。
10. 自己の知識・行動・態度の客観的な評価に基づき、課題を見出し、主体的・創造的に取り組むことができる。

### カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」に準拠した授業科目と本学が独自に設定した次の授業科目を組み入れた特色あるカリキュラムを編成します。

1. 人間の多面的な理解を深めるための幅広い教養を身につける科目
2. 医療専門職者として人の価値観を尊重できる態度と倫理観を育む科目
3. 人間を取り巻く環境と健康に関わる医学・保健学・福祉学など近接学問領域の幅広い知識や技術を養成する科目
4. チーム医療に必要な知識と協働する力を養成する科目
5. 看護学における専門知識と基本技術を養成し、論理的思考力や問題解決力を身につける科目
6. 看護学の対象となる人間の成長・発達、療養環境に応じた看護の専門科目
7. 国際的な視点から看護を探究し創造する力を育む科目

### 編成方針

教育課程を「基礎分野」、「専門基礎分野」、「専門分野」の3分野から構成する。

看護学の「人間」「健康」「環境」「看護」のメタパラダイム概念および人間の成長・発達、療養環境に応じた看護をもとに、これらの内容を含んだ科目を効果的かつ体系的に編成する。また、学年進行にともなって基礎分野から専門基礎分野、専門分野へと積み上がるように科目をバランスよく配置する。

看護実践能力を効果的に育成するために講義・演習・学外実習を織り交ぜた授業形態で編成する。また、段階的・発展的に看護実践能力を学修できるように各年次に学外実習を配置する。

### 実施方針

授業は、学習効率の向上、および、能動的学習態度の形成、コミュニケーション能力の育成などを目的として、講義の他に、グループ学習、問題基盤型学習、チーム基盤型学習など参加型学習方法を積極的に取り入れる。さらに、授業科目に関連する学識経験者などの招聘講義、当事者・模擬患者の授業参加を取り入れる。

学内演習は、シミュレーション教育を取り入れ、シミュレーター人形の活用、模擬病室（実習室）の設置などにより積極的に実践的学習方法を展開する。

学外実習は、臨地において知識・技術・態度の統合を図るため、教員・臨床指導者の指導のもとに看護実践を展開する。

### 成績評価方法

成績評価方法は、紙面での試験、レポート評価のほか、実技試験、学習態度の評価、ピア評価など多角的な視点で評価する。学外実習に関しては、対象の理解、看護技術の確実性、倫理に基づく看護実践についても評価する。

### ③リハビリテーション学部

#### 教育目標

1. 多様な文化や価値観を受け容れる地域的・国際的感覚、豊かな人間性、および人々の幸福と共生に奉仕する精神を身に付ける。
2. さまざまな医療専門職者の役割や専門性を理解し、チーム医療実践の場において他の医療専門職者と有機的に連携・協力できる総合的实践力を身に付ける。
3. 地域での医療ケアや教育など社会の多様なニーズに応えることができ、さらに中核的な行動を担うことができるよう、生涯にわたって自己を練成できる能力を身に付ける。
4. リハビリテーションを実践するために必要な基礎医学とともに、人の機能のみならず心理や行動をも深く理解するための知識を身に付ける。
5. 効果的なリハビリテーションに必要な保健・医療・福祉の知識と確かな技術を有し、種々の課題を柔軟に解決できる能力を身に付ける。
6. 医療の高度化・多様化に対応した知識・技能を修得し、先駆的な教育・研究へ展開できる能力を身に付ける。

#### ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

本学部所定のカリキュラムを修了するとともに、以下の資質を身に付けた学生に卒業を認定し、理学療法学科では学士（理学療法学）、作業療法学科では学士（作業療法学）を授与します。

1. 人々の幸福と健康に貢献するために行動する人間力を身に付ける。
2. リハビリテーションを実践するために必要な、医学・医療・保健・福祉・行政などの知識を身に付ける。
3. 効果的にリハビリテーションを実践するために必要な確かな技術を身に付ける。
4. チーム医療・地域医療を担う一員として、さまざまな専門職者と連携・協力できるコミュニケーション能力を身に付ける。
5. ICU（集中治療室）をはじめとする急性期から施設・在宅の生活期に至る幅広い対象者の問題に向き合う対応力を身に付ける。
6. さまざまな臨床的課題を解決できる総合的实践力を身に付ける。
7. 先駆的な研究・教育を展開できるように自分の能力を磨き、他者とともに自己を高めていく能力を身に付ける。
8. 地域社会から国際社会に至る多様な文化や価値観を理解する豊かな人間性を身に付ける。

#### 理学療法学科

理学療法学を修め、以下の能力を修得する。

1. 自ら、理学療法と人間の生体反応を結びつけて考えることができる臨床推論力を修得する。
2. 運動器、神経系、内部障害に対する理学療法の知識と技術を理解し、個々の対象者に応じて適用できる応用力を修得する。

#### 作業療法学科

作業療法学を修め、以下の能力を修得する。

1. 自ら、作業療法と人間の生活活動や心身機能を結びつけて考えることができる臨床推論力を修得する。
2. 身体機能・精神機能・人間発達と関連づけて作業療法の知識と技術を理解し、個々の対象者に応じて適用できる応用力を修得する。

## カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

「理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則」に準拠した授業科目と本学が独自に設定した授業科目を組み入れた特色あるカリキュラムを編成します。

### 理学療法学科

1. 理学療法士として必要な幅広い教養を培い人間性を育む科目
2. 理学療法士としての基本的態度を修得する科目
3. 理学療法を实践するために必要なひとを精神的・医学的に理解する科目およびさまざまな疾患・障害の知識を修得する専門基礎科目
4. 効果的な理学療法の実践に必要な専門知識と確かな技術を修得するための専門科目
5. 理学療法の専門的知識・技術を活かしチーム医療の中で連携・協力し合う能力を培う統合科目
6. 先駆的な理学療法学へ発展させる能力を培う総合科目

### 作業療法学科

1. 作業療法士として必要な幅広い教養を培い人間性を育む科目
2. 作業療法士としての基本的態度を修得する科目
3. 作業療法を实践するために必要なひとを精神的・医学的に理解する科目およびさまざまな疾患・障害の知識を修得する専門基礎科目
4. 効果的な作業療法の実践に必要な専門知識と確かな技術を修得するための専門科目
5. 作業療法の専門的知識・技術を活かしチーム医療の中で連携・協力し合う能力を培う統合科目
6. 先駆的な作業療法学へ発展させる能力を培う総合科目

編成方針、実施方針、成績評価方法については、両学科共通です。

### 編成方針

初年次前期には、大学での全教育課程を全うし医療専門職者となるために必要な基本的要素を修得する。教養を身に付ける科目、専門基礎科目、専門科目を原則的には初年次から4年次まで段階的に学ぶ。理学療法士・作業療法士の職業イメージを確立するための専門科目（病院などでの学外実習を含む）、また、病院などで他職種と連携・協力し合う能力を培うためのチーム医療科目などは、初年次から4年次まで継続的に配置する。最終学年では、学修したすべての成果を総合し、卒業後も発展させていく能力を修得する総合科目を配置する。

### 実施方針

授業の実施形態としては、学修効率の向上、能動的学修態度の形成、コミュニケーション能力の育成などを目的として、講義の他に、グループ学習、問題基盤型学習、チーム基盤型学習などの参加型学習（学生が主体的に学修する方法）を積極的に取り入れる。さらに、リハビリテーションに関連する施設や企業等の見学、学識経験者などを招いての講義、障害のある人・模擬患者の授業参加を取り入れる。

### 成績評価方法

成績評価方法は、紙面での試験、レポート評価のほか、実技試験、学修態度の評価、ピア評価（学生同士の評価）など多角的な視点で評価する。学外実習では、理学療法士・作業療法士としての態度や人間関係のとり方、学修意欲についても評価する。

## 2) 大学院

### ①薬学研究科

#### 教育目的

1. 薬剤師業務の質向上と変革を推進するために不可欠な高度研究能力、すなわち臨床現場における問題点を発見し、それを解決するために適切な研究計画を立案し、その成果を論文化できる能力を涵養する。
2. 医療薬学における問題点を基礎薬学の視点から眺め、それを解決しうる基礎的・実験的研究課題を自ら設定し、新しい薬剤・製剤・臨床適応の開発に発展できる能力を涵養する。

#### ディプロマポリシー（修了認定・学位授与の方針）

本研究科所定の単位を修得し、以下の目標を達成した学生の修了を認め、博士（薬学）の学位を授与します。

1. 自立した薬学研究者として活動するために必要な専門的知識を有する。
2. 学術論文等から修得した医療薬学に関する最先端の知識を基に、他者の研究を理解し、かつ批判的に吟味できる能力を有する。
3. 医療の抱える問題点を自ら見出し、それに基づき検証可能な薬学的課題を設定する能力を有する。
4. 薬学的課題を解決するために必要な技能と意欲を有する。
5. 研究成果を論文などとして発表することができる。

#### カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

高度な研究能力を持つ医療専門職者、医療薬学における問題点を解決できる薬学研究者を養成するために、以下の3つの科目でカリキュラムを編成します。

- ・専門基礎科目：先端医薬学特論Ⅰ～Ⅳ
- ・専門演習科目：各専門演習Ⅰ・Ⅱ
- ・研究指導科目：医療薬学特別研究

#### 編成方針

研究の実施に必要な基盤的な知識・技能・態度を修得させることを目的とする専門基礎科目や専門演習科目は低学年次に配置する。研究指導科目は、問題発見能力・課題設定能力・問題解決能力・情報発信力を含む幅広い研究能力を養成するための中心となる科目であるので、4年間にわたり配置する。

#### 実施方針

コースワークとして実施される専門基礎科目や専門演習科目は、学生の広い視野を涵養するとともに学際的研究を可能にするため、本研究科の複数の教員が分担して実施する。リサーチワークとして実施される研究指導科目は、研究指導教員の指導の下に実施する。テーマの探索・設定、研究内容・計画の策定、研究の実施、研究成果の取りまとめ・公表を通じて、独立した研究者となるに十分な知識・技能・態度を修得する。



## 成績評価方法

成績評価は、授業・研究への積極的・能動的な取り組み姿勢と提出された成果物（レポート、研究成果論文など）の内容に基づいて科目責任者が行い、薬学研究科委員会で確認する。学位の認定においては、研究指導教員を除く複数の審査員から構成される学位論文審査委員会が公正な評価を行い、薬学研究科委員会で確認する。

## ②看護学研究科

### 教育目的

兵庫医療大学大学院看護学研究科は、建学の精神に則り、真に人々にとって必要とされる看護学の専門的知識・技術を修得し、看護実践能力を強化して、社会の求めに応じて役割・機能を果たすことのできる看護専門職者を育成します。看護学研究科のモットーは、大学院生と教員・指導者とが学修の目標を共有し、一体となって学修を促進し、常に相互交流を通して互いに成長することを目指しています。

### ディプロマポリシー（修了認定・学位授与の方針）

本研究科所定の単位を修得し、以下の目標を達成した学生の修了を認め、修士（看護学）の学位を授与します。

### 看護学基礎研究領域

1. 高い倫理観を基盤とした看護の高度な実践能力や研究者としての基礎的能力を有する。
2. 医療・保健・福祉チームにおける連携・協働を促進する役割を果たすことができる。
3. 国際的な視野に立ち看護の課題に取り組む姿勢を有する。

### 看護学課題研究・高度実践領域（CNS）

1. 高い倫理観を基盤とした看護の高度な実践能力や研究者としての基礎的能力を有する。
2. 専門看護師（CNS）に求められる「卓越した実践能力」「教育能力」「コンサルテーション能力」「コーディネーション能力」「研究能力」「高適な倫理観」の6つの能力を有する。

### カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

専門性を重視した教育・研究者の育成および高度看護実践者の育成を目指し、以下の3つの科目でカリキュラムを編成します。

- ・修士課程における共通科目
- ・看護学研究科共通科目
- ・看護学研究科専門科目

### 編成方針

1. 修士課程における共通科目は、科学的根拠に基づいた医療・保健・福祉に関連する専門的知識の修得と高度実践への応用、先進医療に関わる最新の情報と課題の修得を目的として1年次に配置する。
2. 看護学研究科共通科目は、各看護学分野、および看護学基礎研究領域と高度看護学課題研究・高度実践の領域を超えて必要な専門知識と研究・実践能力の修得を目的として1年次に配置する。
3. 看護学研究科専門科目は、主要な概念・理論を探求する看護学特論、看護対象や援助の枠組みを探究する看護学援助特論、学内・臨地における体験を通じて専門的看護実践能力を高め



る看護学演習を配置する。

4. 看護学基礎研究領域では研究能力育成のために看護学特別研究を配置する。
5. 看護学課題研究・高度実践領域（CNS）では専門看護師としての看護実践能力・役割を修得するための実習および看護実践の質向上を探究する看護学課題研究をそれぞれ配置する。

### 実施方針

コースワークとして実施される共通科目や専門科目における講義科目は、学生の広い視野を涵養するとともに教育・研究者の育成および高度看護実践者の育成のため、双方向・多方向の講義形態を用いる。

リサーチワークとして実施される専門科目は、研究指導教員の指導のもとに実施する。研究課題の明確化と研究テーマの設定、研究計画に基づく実施データの分析と考察、論文の作成と公表を通じて、研究者となるに足る知識・技術・態度を修得する。

また、看護学課題研究・高度実践領域における専門看護師（CNS）養成は、専門看護師としての高い専門性と優れた看護実践能力を修得するとともに、看護実践の質向上を探究する看護学課題研究を修得する。

### 成績評価方法

成績評価は、授業・研究への積極的・能動的な取り組み姿勢と提出された成果物（レポート、研究成果論文など）の内容に基づいて科目責任者が行い、看護学研究科委員会で確認する。学位の認定においては、複数の審査員から構成される学位論文審査委員会が公正な評価を行い、看護学研究科委員会で確認する。

## ③医療科学研究科

### 教育目的

兵庫医療大学大学院医療科学研究科は、建学の精神に則ると共に、本学リハビリテーション学部の学部教育を基盤として、リハビリテーション科学領域における研究の発展と高度実践専門職者の養成を目指しています。大学院生と教員・指導者とが学修目標を共有し、より高度な臨床実践能力を持つ専門職者の育成と、臨床場面での問題や課題を解決できる研究者の育成を目指しています。

### ディプロマポリシー（修了認定・学位授与の方針）

本研究科所定の単位を修得し、以下の目標を達成した学生の修了を認め、修士（医療科学）の学位を授与します。

#### ・リハビリテーション科学研究コース

1. リハビリテーション科学を究め、広めるために必要な知識および実践力の基礎的能力を有する。特に、研究倫理に関しては、十分な知識および高い倫理意識を有する。
2. 臨床経験および先行研究をもとに、研究疑問を焦点化する能力を有する。
3. 研究疑問を解決するための適切な過程を決定し、実施する能力を有する。
4. 実施した研究を適切な文章、および、効果的なプレゼンテーションを用いて他者に説明する能力を有する。
5. 常にリハビリテーション科学および関連領域の先駆的知識を理解する姿勢を有する。

#### ・リハビリテーション科学課題研究コース

1. リハビリテーション科学を究め、広めるために必要な知識および実践力の基礎的能力を有する。特に、研究倫理に関しては、十分な知識および高い倫理意識を有する。
2. 臨床経験および先行研究をもとに、臨床的課題を焦点化し、その課題を解明する科学的根拠を推論する（臨床的推論）能力を有する。
3. 臨床的推論に基づいて介入した症例を通して、介入前後の変化を客観的に評価する能力を有する。
4. 臨床的課題を解明する過程を適切な文章、および、効果的なプレゼンテーションを用いて他者に説明する能力を有する。
5. 常にリハビリテーションの臨床的課題を探求し解明しようとする姿勢を有する。

#### カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

専門性を重視した教育・研究者の育成および高度医療専門職の育成を目指し、以下の3つの科目でカリキュラムを編成します。

- ・修士課程における共通科目
- ・医療科学研究科専門基礎科目
- ・医療科学研究科専門科目

#### 編成方針

##### ・リハビリテーション科学研究コース

1. 共通科目・専門基礎科目を主に1年次に配置する。
2. 教育論（養成教育・臨床教育）、統計学等の研究者・教育者志向を目指した科目を2年次前期までに配置する。
3. 在籍期間を通じて研究活動を展開する。
4. 社会人大学院生に配慮したカリキュラム編成をする。

##### ・リハビリテーション科学課題研究コース

1. 共通科目・専門基礎科目を1年次に配置する。
2. 臨床能力向上を目的とした科目を2年次前期までに配置する。
3. 在籍期間を通じて臨床研修ならびに課題研究を実施する。
4. 社会人大学院生に配慮したカリキュラム編成をする。

#### 実施方針

コースワークとして実施される共通科目、専門基礎科目ならびに専門科目は、学生の広い視野を涵養するとともに学生相互の意見交換を重視するため、双方向・多方向の講義形態を用いる。リサーチワークとして実施される研究科専門科目は、研究指導教員の指導を中心に、各研究領域に所属する全ての教員・大学院生を含めた意見交換を通じて実施する。

#### 成績評価方法

成績評価は、授業・研究への積極的・能動的な取り組み姿勢と提出された成果物（レポート、研究論文など）の内容に基づいて科目責任者が行い、医療科学研究科委員会で確認する。学位の認定においては、複数の審査員から構成される学位論文審査会において公正な評価を行い、医療科学研究科委員会で確認する。

## 2. 教育課程・教育内容

### 特記事項

本学では、学校法人兵庫医科大学の建学の精神に基づき、兵庫医科大学との緊密な連携のもと、開学以来の教育の柱の一つである「チーム医療教育」を実践している。

大学での学修成果を効果的にするために重要な初年次教育として平成25年度から開講している「アカデミックリテラシー」を平成28年度からは入学直後に集中的に開講し、よりスムーズな大学教育への導入ができるようにした。各学部および共通教育センターにおける教育体制の支援を目的として、「IR部門」、「履修支援・国試対策支援部門」、「チーム医療教育支援部門」の3部門から成る教育支援室を設置して、教育支援活動を行っている。通常の授業内で授業の到達目標に達することができなかった学生に対しては、教育支援室の「履修支援・国試対策支援部門」が窓口となって、学習支援員と面談を行い、今までの履修の課題を明確にするとともに、課題を解決の方向へ導くよう指導を行った。学生への履修指導では、平成25年度に導入された、学生カルテシステム、ポートフォリオを積極的に活用した。

### 1) 学部

#### ①薬学部

##### 概要

教育目標に掲げた「教養」と「倫理・人間性」、「コミュニケーション能力」、「基礎薬学的知識」、「医療薬学的知識」、「安全・衛生管理能力」、「実務能力」、「探求心」という主題の習得を目的に、第4章1に示すようにカリキュラム・ポリシーを設定している（平成28年10月改訂）。

カリキュラムにおける配当科目を大きく基礎分野、専門基礎分野、専門分野の3分野にグループ分けし、専門分野はさらに基礎薬学（化学系）、基礎薬学（生物系）、衛生薬学、医療薬学、臨床薬剤学の5グループに分類されている。第1学年次に生物学、化学、物理学等の専門基礎科目を配置し、高学年次の専門科目への導入を行う。第2・3学年次は化学系基礎薬学科目、生物系基礎薬学科目、衛生薬学科目および関連実習科目を配置することで物質と生体に対する基本的理解を深め、第3・4学年次に医療系薬学科目を配置することで、領域内の個別項目に掲げられる一般目標の修得がスムーズに進むよう構成されている。

また、薬学部内では物理系、化学系、生物系、衛生薬学、薬理・薬治、薬剤・薬動、臨床薬学の教科専門部会に分かれ、それぞれの専任教員が専門領域に関するカリキュラムや講義の問題点を意見交換、情報共有および議論する場を設けている

各授業科目の教育目標達成のために、講義、実験実習、チュートリアル学習と成果発表会、体験学習を組み合わせた実効的カリキュラムを構築し実施している。

科学的思考力の醸成に役立つ技能および態度を修得するため、基礎薬学、衛生薬学、医療薬学の各系科目に関連づけた計8科目の実験実習を第2～3学年次に実施しており、その中で科学的思考力と実験技能を養っている。

### 特記事項

- ・平成28年度より、学年別履修オリエンテーションにおいて冊子体のカリキュラム・ポリシーを配布して周知した。また、社会に対しては、カリキュラム・ポリシーは、本学ホームページに提示しており、「情報の公表」で公表している。
- ・平成28年度からは卒業の研究研修期間を概ね1年間確保するために、国家試験対策は、研究研修に割り当てられた時間割以外の時間帯でエクステンション・クラスとして実施した。

## 模擬患者養成事業

本学では近隣の住民の協力を仰ぎ、模擬患者（Simulated Patients；以下SP）になって頂いている。薬学部第4学年次生は「実務実習事前学習」の授業内で、学生はこれらのSPを相手に、患者接遇の実習を行っている。また、SPには薬学共用試験OSCE課題である患者接遇、情報提供の領域において標準SPとして参加して頂いた（平成28年度：60名）。SPは平成20年度から毎年募集し、現在（平成29年3月）71名が登録している。平成28年度は13名の薬学教員がタスクフォースとして実習、OSCEのためのSPおよび標準SP養成講習会を実施した。

## ②看護学部

### 概要

平成25年度より重点課題として取り組んできた、看護学部教育目標5「地域的・国際的な視野で、保健・医療・福祉の課題を幅広く捉え、看護職者の役割・機能を展望できる。」は、国際看護を必修科目とし、また、アデレード大学看護学部との学術交流の実施などにより、充実化は図られた。また、看護学部教育目標6「自ら考え創造する態度を身に付け、生涯にわたって看護学を探究しつづける基盤をもつことができる。」は、研究セミナーとして研究に関する科目を設定した。「研究セミナー」科目の学生自身の興味・関心に基づき、研究テーマ・目的を明確にし、それに適した方法を用いた看護研究の研究計画書を立案するという内容は、学生の創造性や探究する態度の育成に効果を上げている。また、平成25年度カリキュラム変更に伴い、保健師国家試験受験資格の取得は選択制（30名）とし、保健師育成のための教育課程・内容の充実化を図ってきた。国家試験の合格率からみてもその成果は得られている。

これまで看護学部は、カリキュラム検討委員会を常設し、教育の質担保・充実を図ってきた。平成25年度に変更した教育課程の完成年度に合わせて、①学修進度にあわせた科目配置、②学修効果を考慮した専門科目の内容の見直しと科目配置、③年次ごとの科目・単位数の適正化の3つを変更方針としてカリキュラムについて見直しを実施した。その結果、これまで1年次のみ科目であった看護学概論を看護学概論Ⅰ・Ⅱとし第1学年次（基本的な内容）、第4学年次（看護実践に必要な理論、看護観の構築・倫理問題を検討する力を養う）に配当する、公衆衛生学、健康教育論、国際医療福祉論、母性看護学概論、母性看護援助論、小児看護援助論Ⅰ、小児看護援助論Ⅱ、基礎助産学、助産診断学Ⅰなどの科目の配当年次を変更する、などを平成29年度より実施することとなった。今後も教育課程の適切性はカリキュラム検討委員会における検討、看護学部の教授会でさらなる検討を行いより充実させる。

### 特記事項

- ・各専門科目の演習では、看護過程を展開する事例検討を含み、臨地実習に向けて問題解決能力を高める既習の知識の統合化を図る内容を積極的に取り入れている。また、必要な看護技術を患者体験や視覚教材・モデル人形などを用いて、少人数グループ体制による演習を実施した。
- ・毎年、臨地実習開始前に、大学・実習施設の合同研修会を実施し、教員と臨床指導者の共通の指導上の課題や対応・連携方法などの検討を実施した。
- ・第3学年次の臨地実習終了後に実習の振り返りを行い、学びの共有や学びの考察・今後の課題を明確にするグループワークを実施した。
- ・学生自身の興味・関心による第4学年次の統合看護実習および研究セミナーの分野選択を同一分野とし、統合看護実習と研究セミナーを関連させて実施した。統合看護実習の実習経験が研究疑問や研究テーマに繋がっていた。



- ・ アデレード大学との学術交流における本学のプログラムは、専門分野の教員が、それぞれの看護学の分野の特徴を踏まえて、工夫を凝らした担当回のプログラムを実施した。学生からの評価も高いものであった。

### ③リハビリテーション学部

#### 概要

リハビリテーション学部は、リハビリテーション専門職のうち、理学療法士を育成する理学療法学科と作業療法士を育成する作業療法学科を設置し、リハビリテーション学部学位授与方針に則り作成された教育課程に沿って学生を教育している。

学生教育に関しては、実践に役立つ医療人を育成するため、本学薬学部生・看護学部生とのボーダレスな環境で行われる基礎科目の教育、さらに兵庫医科大学の学生も加えて実施されるチーム医療教育、学部・学科単位で行われる専門基礎・専門教育を基盤としている。専門教育の中の病院・施設における実習に関しては、学校法人兵庫医科大学関連施設をはじめとする近隣施設における多様かつ豊富な実習科目を配置している。また、将来研究を発展させるための基礎能力の育成を図るため、研究に関する授業科目、理学療法研究法または作業療法研究法・卒業研究を必修としているほか、専門科目においても研究志向を涵養している。

#### 特記事項

- ・ 医療人としての人間力の涵養を目的として、障害をもった方やその家族を積極的に授業に招聘している。
- ・ 病院・施設における長期実習（評価実習・臨床実習）の質の向上、および、実習指導者と教員の実習指導における協働を促進することを目的として、臨床実習指導者会議を開催し、実習指導者との連携を密にし、情報共有を確実化している。
- ・ 国際性の涵養を目的として、外部講師を招聘し、「国際交流セミナー」を実施している。
- ・ 学業に余裕のある学生にさらなる学習機会を与えることを目的として、学校法人兵庫医科大学医療人育成センターにより平成28年度に「医療チーム実習」が開始された。当該実習は、参加を希望する本学学生が兵庫医科大学病院医療チームに数日間参加する形態で行われ、今年度は感染対策・緩和ケア・褥瘡対策の3チームで実施された。リハビリテーション学部からは、それぞれ1名、6名、5名、計12名が参加し、学生からも病院チームからも高い評価を得た。
- ・ 国際性の涵養を目的として実施されている北京中医药大学への短期留学に学部生1名が参加した。

### ④共通教育センター

#### 概要

共通教育センターは、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の基礎教育および一部の専門基礎教育を担当し、また、兵庫医科大学医学部との教育連携を図る目的で、本学の教育の中心的理念であるボーダレス教育を支える部署として開学時に設けられた。

本学の卒業生が将来、医療チームの一員として心の通った医療を提供するためには、それぞれの患者を理解できる人間性、社会人としての常識が必要である。また、高度化する医療技術と複雑化する各種疾病に対処するために、医療専門職者は自分の担当領域のみならず、幅広い知識を備えることが求められている。こうした素養を身につけるため、自然科学、人文科学、語学、スポーツ健康科学など多彩な基礎科目とともに、いくつかの専門基礎科目を修得する必要がある。これらの学びを支えるのが「共通教育センター」である。



本学では、開学以来、各学部での専門教育に加えて、学部の垣根を超えた連携教育を行っている。また、兵庫医科大学およびその関連施設と連携して、病態や治療に関する知識を教育するとともに、実習を通じて実践に役立つ医療人の育成を行っている。すなわち3学部合同、さらには兵庫医科大学医学部をも交えた4学部合同で学ぶチーム医療関連科目のコーディネートも共通教育センターの重要な役割である。センターが主として対象とする学生は第1学年次の学生であるが、後記のように一部は高学年次の学生も対象としている。

共通教育センターが中心となって行っている教育内容は、以下の通りである。

- (1) アカデミックリテラシー
- (2) 高等学校教育から大学教育につなげるためのリメディアル教育
- (3) チーム医療教育
- (4) 早期臨床体験実習 (ECE)
- (5) 各教員の専門とする基礎教養科目

以下、(1)～(4)の概要を記載する。

#### (1) アカデミックリテラシー

アカデミックリテラシーは平成25年度より新たに開設された科目であり、科目責任者である紀平教授を中心として、共通教育センター教員全員と一部の学内の学部教員および非常勤講師などの協力を得て、第1学年次前期金曜日の午後に全学部合同で実施された。その教育目標は、①将来の医療人としての勉学への動機づけ、②社会生活に必要なマナーの理解、③情報検索の方法の理解、④作文とレポートの違いの理解、⑤情報機器による情報伝達手段・表現手法の基礎の習得、⑥情報機器やインターネットのしくみの理解、⑦他人との議論を通じた問題探究の手法の習得等である。

#### (2) 高等学校教育から大学教育につなげるためのリメディアル教育

平成24年度までは、高等学校で理系科目の未履修者への支援科目として薬学部においてのみ、「物理学入門」と「生物学入門」が開講されてきた。平成25年度のカリキュラム改訂において、導入教育科目を全学部提供し、科目の種類も「数理科学入門」「生物学入門」「化学入門」「計算演習」と自然科学の学びの基礎学力涵養のために、全分野をカバーするように整備した。さらに、平成27年度より、薬学部の導入科目の「生物学入門」・「化学入門」をそれぞれ「基礎生物学」「基礎化学」に科目名変更し、薬学部の学生の基礎学力のボトムアップの工夫を行った。

#### (3) チーム医療教育

全学部混成の合同教育は、本学のモットーである「チーム医療」教育を支える中心となっている。チーム医療に関する教育は、共通教育センターが主として対象とする初年次においてのみならず、第2学年次および第4学年次においても実施しており、第1学年次と第4学年次においては、3学部に加えて兄妹校である兵庫医科大学医学部生も加えた4学部合同で行われている。将来の薬剤師・看護師・理学療法士・作業療法士・医師が一同に会し、同一の課題症例について、それぞれの視点から調査・討論・発表するという、他職種候補生との交流を含めてチーム医療の学びを様々な段階でレベルにあわせて経験できる、日本でも類を見ない教育を展開している。

#### **(4) 早期臨床体験実習 (ECE)**

医療専門職としての知識や技術を習得するにあたり、医療の実際に直接触れることによって、入院患者の生活や看護業務の現状、病院各部署の機能を知り、医療者としての自覚を培い、勉学のモチベーションを高揚させることを目指し、開学以来、3学部4学科の学生の混成グループを編成し、夏期休暇前の1週間の間（その週の連続した2日間）、兵庫医科大学病院（各病棟・薬剤部・リハビリテーション部）において早期臨床体験実習を実施してきた。平成28年度は、より早い時期に医療への目的意識、医療職者としての人格形成を涵養させるために、実施時期をこれまでから大きく変更して実施した（詳細は特記事項参照）。

#### **特記事項**

##### **・アカデミックリテラシー**

平成28年度は、大学での学修方法および学生生活に早期に慣れてもらうという目的から、入学直後の3日間（計12コマ）でまず集中的にアカデミックリテラシーの導入部分を実施した。また、ECEの実施時期の変更に伴い、6月の時間割を学生半数ずつに分けた2部編成で実施した。

##### **・早期臨床体験実習**

平成28年度は、実施時期を6月の金曜日の4週間にわたりECEを設定し、アカデミックリテラシーと裏表のカリキュラムを組んで、学生の半数ずつ（前半もしくは後半の2週の2日間）での医科大学での実習に変更した。その結果、真夏に実施していた過去の年度よりも、実習をスムーズに遂行することができた。

## 資料① 主要行事

### [ 2016年度 (H28) 行事予定 ]

#### 【前 期】

入 学 式	4 月 5 日 (火)
オリエンテーション (第 1 学年次)	4 月 4 日 (月)、5 日 (火)
〃 (薬学部第 2・3・4・5・6 学年次)	4 月 8 日 (金)
〃 (看護学部第 2・3・4 学年次)	4 月 7 日 (木)
〃 (リハビリテーション学部第 2・3 学年次、 理学療法学科第 4 学年次)	4 月 7 日 (木)
〃 (リハビリテーション学部 作業療法学科第 4 学年次)	4 月 2 日 (土)
アドバイザー懇談会	4 月 4 日 (月)
BLS 講習会 (第 1 学年次)	4 月 9 日 (土)
<前期>授業開始 (第 1 学年次)	4 月 6 日 (水)
〃 (第 2・3・4・5・6 学年次)	4 月 11 日 (月)
<前期>履修登録期間 (第 1・2・3・4・5・6 学年次)	4 月 11 日 (月)～15 日 (金)
<前期>試験期間 (第 1・2・3・4・6 学年次)	7 月 29 日 (金)～8 月 5 日 (金)
〃 (薬学部第 5 学年次)	※ 7 月 30 日 (土) 含む (別途通知)
チーム医療論演習 (医学部との合同チュートリアル/第 4 学年次)	
【※場所：西宮キャンパス】	9 月 5 日 (月)～9 日 (金)
チーム医療論演習 (第 4 学年次)	9 月 12 日 (月)・13 日 (火)
早期臨床体験実習 (医学部との合同チュートリアル/第 1 学年次)	9 月 12 日 (月)～14 日 (水)
秋季学位授与式	9 月 17 日 (土) <予定>

#### 【後 期】

<後期>授業開始 (第 1・2・3・4・5・6 学年次)	9 月 23 日 (金)
<後期>履修登録期間 (第 1・2・3・4・5・6 学年次)	9 月 23 日 (金)～29 日 (木)
〃 (リハビリテーション学部理学療法学科第 3 学年次)	10 月 11 日 (火)～14 日 (金)
〃 (リハビリテーション学部作業療法学科第 3 学年次)	9 月 26 日 (月)～30 日 (金)
大学祭 (第 9 回海梟祭)	10 月 9 日 (日)・10 日 (月)
学校法人兵庫医科大学創立記念日	11 月 22 日 (火) ※授業日
<後期>試験期間 (看護学部第 3 学年次除く)	1 月 18 日 (水)～25 日 (水)
〃 (リハビリテーション学部第 3 学年次)	(別途通知)
薬学共用試験 OSCE (薬学部第 4 学年次)	12 月 4 日 (日) <予定>
〃 CBT (薬学部第 4 学年次)	12 月 15 日 (木) <予定>
【※但し、薬学部第 4 学年次<後期>日程は共用試験の都合により変更することがある】	
学位授与式	3 月 15 日 (水)

※以下については祝日授業日のため、カレンダーに注意すること。

4 月 29 日 (金)、11 月 3 日 (木)、11 月 23 日 (水)、12 月 23 日 (金)

## 資料② 授業科目数

学 部	学 科	授業科目 の総数	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	卒業要件
薬学部	医療薬学科	146科目	必修25単位、選択6単位以上 (うち選択必修2単位を含む。)	必修12単位	必修146.5単位、 選択5単位以上	194.5単位
看護学部	看護学科	117科目	必修16単位、選択10単位以上 (うち「人間と言葉」から2 単位以上、「人間と言葉」以 外から8単位以上)	必修26単位、 選択5単位以上	必修68単位、 選択5単位以上	130単位
リハビリ テーション 学部	理学療法学科	95科目	必修22単位、選択8単位以上 (うち選択必修2単位を含む。)	必修34単位、 選択1単位以上	必修64単位	129単位
	作業療法学科	102科目	必修22単位、選択8単位以上 (うち選択必修2単位を含む。)	必修36単位、 選択1単位以上	必修65単位	132単位

※平成28年度の学則に基づく

## 2) 大学院

### ①薬学研究科

#### 概要

薬学研究科の教育課程の特徴は、高度な研究能力を身につけた薬剤師、医療薬学における問題点を基礎薬学の手法を用いて解決することのできる研究者を養成するために、基礎薬学から医療薬学に至るまで幅広く学ぶことができることである。さらに兵庫医科大学大学院および兵庫医科大学病院との協力関係を活かして、お互いのセミナーや講演会に積極的に参加しあって、知識・研究手法・シーズを交換し、さらに兵庫医科大学大学院の各研究室や兵庫医科大学病院と共同研究を行う事を通じて、医学・薬学全般を幅広く見渡せる薬学研究者を養成する教育を行う。平成28年度、初めて2名の博士号取得者を輩出した。

教育課程全体は、専門基礎科目、専門演習科目および研究指導科目で構成される。

専門基礎科目4単位、専門演習科目から8単位以上選択、研究指導科目18単位の計30単位以上の履修が修了要件である。

#### (1) 専門基礎科目

専門基礎科目として、医学・薬学全般にわたる最新の知見を各分野の専門家が紹介する共通のオムニバス科目を先端医薬学特論Ⅰ～Ⅳ、各1単位、計4単位を全必修科目として開講する。

#### (2) 専門演習科目

この科目は研究の遂行に必要な基盤的および先端的な知識・技能・態度を修得するための演習科目である。研究遂行に必要な知識・技能・態度を早期に修得するため、各専門演習Ⅰ・Ⅱとしてそれぞれ第1学年次、第2学年次に各4単位、計8単位の選択必修科目として開講する。外国文献の抄読会、自分の研究テーマに関するレビュー、自分の研究課題の進捗状況のプレゼンテーションなどを通じて、他者の研究を正當に評価する能力や研究の進捗状況をプレゼンテーションする技能の獲得を目標とする。

#### (3) 研究指導科目

この科目は大学院博士課程の中心をなす科目である。研究指導科目として4年間で18単位の全必修科目として開講する。テーマの探索・設定、研究内容・計画の策定、研究の実施、研究成果の取りまとめ・公表を通じて、独立した研究者となるに十分な知識・技能・態度を修得する。

## ②看護学研究科

### 概要

科学的根拠に基づく高い専門知識と看護実践への応用を教授する研究科共通科目については、本学3学部と共通教育センター、さらに兵庫医科大学医学部・兵庫医科大学病院の協力を得て、本学の教育環境の特色を反映し、連携・協働を促進する教育体制をとっている。また、看護学共通科目（看護研究除く）については、学外の看護実践者・教育者の協力を得て教育の充実を図っている。各専門分野の理論的基盤となる講義科目および研究科目は、専門分野の豊富な教育・研究業績を有する教授・准教授を中心に担当している。専門的看護実践能力を高める演習・実習科目については臨床経験や研究業績に合致した講師・助教が加わる等、手厚い教育・指導体制をとってきている。また、看護学課題研究・高度実践領域における専門看護師（CNS）養成は専門分野の臨床経験および教育経験豊富な教授・准教授が担当している。特に卓越した看護実践と専門看護師の相談・教育・調整等の役割を果たす能力の育成は、各分野の資格を取得し活躍中の専門看護師が非常勤として教育にあたる体制を整えている。

複数教員からの指導・助言を受けることで研究計画の完成度を高める事を目的として、第1年次後期に「中間報告会」を3回にわたり開催している。

主査副査教員による研究指導強化のため、研究計画書の倫理審査から第2学年次後期の修士論文指導に至るまで同一教員による指導の継続性を図っている。

## ③医療科学研究科

### 概要

学校法人兵庫医科大学の建学の精神、兵庫医療大学の教育理念のもとに、科学的思考に支えられた高度な実践力の獲得を目指して、チームを形成して活動する力を養い、リハビリテーション医学・医療に貢献できる人材を育成する。

医療科学研究科では、病態運動学分野と人間活動科学分野を設置し、それぞれの分野において研究志向の強い大学院生はリハビリテーション科学研究コースを、高度実践専門職者を志向する大学院生にはリハビリテーション課題研究コースを開設している。それぞれのコースの詳細は表1のとおりである。いずれのコースにおいても、医療機関などに在職した社会人に配慮して、平日夜間および土日の開講や研究指導を行っている。



## 資料① 主要行事

### [ 2016 (平成28) 年度 大学院行事予定 ]

#### 【前 期】

入学式	4月5日 (火)
オリエンテーション	4月5日 (火)
前期授業開始 (薬学研究科) (医療科学研究科)	4月9日 (土)
前期授業開始 (看護学研究科)	4月16日 (土)
前期授業終了 (薬学研究科)	7月23日 (土)
前期授業終了 (看護学研究科) (医療科学研究科)	9月24日 (土)

#### 【後 期】

後期授業開始 (医療科学研究科)	8月27日 (土)
後期授業開始 (薬学研究科)	9月10日 (土)
後期授業開始 (看護学研究科)	9月18日 (日)
法人創立記念日	11月22日 (火)
後期授業終了 (看護学研究科)	1月20日 (金)
後期授業終了 (医療科学研究科)	2月7日 (火)
後期授業終了 (薬学研究科)	2月25日 (土)
学位授与式	3月15日 (水)

#### ※授業時間表

第1時限	9時30分	～	11時00分 (90分間)
第2時限	11時10分	～	12時40分 (90分間)
第3時限	13時40分	～	15時10分 (90分間)
第4時限	15時20分	～	16時50分 (90分間)
第5時限	17時00分	～	18時30分 (90分間)
第6時限	18時40分	～	20時10分 (90分間)
第7時限	20時20分	～	21時50分 (90分間)

## 資料② 授業科目数

研究科	授業科目の総数	修了要件単位数
薬学研究科	21科目	30単位以上
看護学研究科	129科目	看護学基礎研究領域 32単位以上 看護学課題研究・高度実践領域 42単位以上
医療科学研究科	39科目	32単位以上

### 3) 職業実践力育成プログラム (BP)

#### ①地域在宅看護実践力育成プログラム

##### 概要

要介護度が高く、医療的なケアを必要とする人でも、最期まで住み慣れた地域で安心して暮らせるような社会を目指し、複雑で多様な状況を見極められる看護専門職能力と一般地域住民の地域力を向上させることができる能力を育成するために、「看護倫理」「アドバンスド・フィジカルアセスメント」「ベストプラクティス実践」「在宅看護ケア実践」の4科目を配置している。地域で暮らす生活者を看護の対象とすることから、小児期から老年期に至るすべての成長発達段階、病院から在宅および地域にわたるすべての療養・生活場所における看護ケアを網羅するために、看護学研究科全領域の教員が当該科目を担当している。

本プログラムでの学びを受講生が実践で即活用できるように、事例ディスカッションをはじめとする双方向的授業を取り入れている。

##### 特記事項

- ・外部評価委員を交えた意見交換会を年1回開催し、講義内容の報告と受講生からの評価、今後の課題等について検討している。

#### ②PT・OT臨床カスステップアッププログラム

##### 概要

より質の高い理学療法・作業療法が求められる今日、理学療法士・作業療法士の臨床力の向上は、社会の強い要請となっています。

本プログラムでは、新人教育を終えた理学療法士・作業療法士の次のステップとして、より高度な専門的観点を持ち、臨床場面において、患者・対象者の状態に応じた高度な臨床推論の展開、適切な治療プログラムの提供ができる能力を育み、多職種連携の中でリーダーシップが発揮出来る能力の育成を目的としています。

##### 特記事項

本プログラムは、兵庫医療大学大学院医療科学研究科の課題研究コースを基盤としており、当該コースの開講科目を中心としたカリキュラムを編成しています。大学院でのカリキュラムに、BP独自の学習内容を加えたプログラムを履修証明プログラムとして提供するものです。

また、本プログラムは、公益社団法人日本理学療法士協会、一般社団法人日本作業療法士協会、NPO法人全国在宅リハビリテーションを考える会と連携し、より実践的・専門的な教育プログラムを提供していくことをめざしています。

#### ③リハビリテーション科学課題研究コース

##### 概要

本学大学院教育の目的のひとつとして、高度専門職養成をあげている。課題研究コースは、学術研究に専念する大学院教育とは異なり、臨床力の向上を主たる目的としたコースであり、臨床研修の実施、ならびに臨床研修で経験した症例等について課題研究論文としてまとめることで、修士の学位を授与するコースである。

## 特記事項

臨床的知識・技術を積極的に高めたい人を対象に、専門領域別の特論、特論演習ならびに課題研究を行うコースである。さらに、院生の「修得したい臨床能力」と「臨床研修施設」のマッチングについて、適格と認められた施設において、臨床研修ならびにコースワークを実施し、学びの一連の成果を課題研究論文としてまとめ、修士の学位審査を行うものである。

また、本プログラムは、公益社団法人日本理学療法士協会、一般社団法人日本作業療法士協会、NPO法人全国在宅リハビリテーションを考える会と連携し、より実践的・専門的な教育プログラムを提供していくことをめざしている。

## 資料① 主要行事

### [2016（平成28）年度 大学院（BP）行事予定]

#### 【前期】

オリエンテーション	4月10日（日）
前期授業開始（医療科学研究科 PT・OT臨床力ステップアッププログラム）	4月10日（日）
前期授業開始（看護学研究科 地域在宅看護実践力育成プログラム）	7月24日（日）
前期授業終了（医療科学研究科 PT・OT臨床力ステップアッププログラム）	9月2日（金）
前期授業終了（看護学研究科 地域在宅看護実践力育成プログラム）	9月11日（日）

#### 【後期】

後期授業開始（医療科学研究科 PT・OT臨床力ステップアッププログラム）	8月27日（土）
後期授業開始（看護学研究科 地域在宅看護実践力育成プログラム）	10月1日（土）
後期授業終了（医療科学研究科 PT・OT臨床力ステップアッププログラム）	2月4日（土）
後期授業終了（看護学研究科 地域在宅看護実践力育成プログラム）	3月25日（土）

#### ※授業時間表

第1時限	9時30分	～	11時00分（90分間）
第2時限	11時10分	～	12時40分（90分間）
第3時限	13時40分	～	15時10分（90分間）
第4時限	15時20分	～	16時50分（90分間）
第5時限	17時00分	～	18時30分（90分間）
第6時限	18時40分	～	20時10分（90分間）
第7時限	20時20分	～	21時50分（90分間）

## 資料② 授業科目数

B P	授業科目の総数	修了要件単位数
地域在宅看護実践力育成プログラム	4科目	必須4科目（各2単位）の合計8単位
PT・OT臨床力ステップアッププログラム	11科目	必須6科目（7単位）と選択1科目（各1単位）以上の8単位以上
リハビリテーション科学 課題研究コース	39科目	看護学研究科・医療科学研究科共通科目2単位以上、医療科学研究科専門基礎科目14単位以上、専門科目8単位、研究指導8単位を履修し、「リハビリテーション科学研究論文」を作成し、最終試験に合格

### 3. 教育方法（学習指導、シラバス、成績評価・単位認定）

#### 1) 学部

##### ①薬学部

##### 特記事項

##### 教育方法

- ・ 設立当初から教育においても「チーム医療」と「ボーダレス」をモットーにして高度医療人育成を目標にカリキュラムも作成してきた。その中で早期臨床体験学習に関しても2種類の見学・体験実習を実施している。ひとつは、全学部第1学年次の必修科目「早期臨床体験実習」の中で実施している兵庫医科大学病院における臨床体験実習であり、もうひとつは薬学部第1学年次の必修科目「新・薬学入門I」の中で実施している薬局・病院早期体験学習である。
- ・ 学生の学力を把握するための様々な制度が確立しており、学生個々のレベルに応じた細やかな指導に注力している。第1学年次の理科系科目（化学・物理・生物）では、学生のレベルに合わせた講義が行われており、専門教育が履修できるレベルまで基礎学力を向上させるための方策が実施されている。
- ・ 理科系科目の学力向上を目指した教育プログラムは入学前から実施されており、専門科目の開講時期と連動している一方、入学前準備教育講座の参加率が40%程度に留まっているため改善の余地がある。29年度からは、入学前準備教育に課題提出とスクーリングを取り入れ、薬学部教員がフィードバックする機会を設定することを予定している。
- ・ 研究成果報告書の作成要領に基づいた卒業論文の作成を、平成26年度の第6学年次から必須化している。
- ・ 卒業論文評価用ループリックをオリエンテーション時に開示するとともに、研究成果の医療や薬学における位置づけ、これから解決すべき問題点、今後の展望などについて記載することも明文化した作成要領に基づき、平成28年8月末までに卒業論文を作成させた。
- ・ 卒後教育・生涯教育を企画・運営するための組織として、薬学部内に生涯教育ステーション運営委員会（旧：キャリアエクステンション委員会）がある。同委員会は、平成26年5月よりキャリアエクステンション委員会として活動を開始し、平成28年度は、4月と10月に本セミナーを開催した。これらのセミナーは、本学卒業生など現場薬剤師に対する催しであったが、本学部生にも授業前などに開催を案内し参加を促した結果、4月の学内講演会では参加者88名中学生は68名（昨年度1名）、10月のワークショップでは大阪市で開催したにもかかわらず参加者61名中学生は7名（昨年度1名）の参加があった。

##### 成績評価・単位認定

成績評価は、兵庫医療大学教育要項の「成績の評価方法」の項目に各科目の成績評価の具体的方法を明記しており、その記載に従って公正かつ厳格に行われている。実習については、参加態度、レポートなどで、複数の教員が評価している。体育など実技、文学/芸術、実践語学、実学関連科目については、参加態度、課題解決能力、レポート、プレゼンテーションなどに重きを置いた評価を行っている。参加態度、問題解決能力、総合的な学習成果の測定に関して、ループリック評価を採用している科目もある。その他の科目については、概ね、定期試験結果を重視した評価が行われているが、科目責任者によっては、参加態度、小試験（平常の成績）または中間試験や課題レポート内容などを加味し、総合的に評価している。

やむを得ない事情で定期試験を受けられなかった学生には、追試験を行っている。また、定期試験で不合格となった学生に対しては、科目責任者の判断で再試験を実施している。再試験を行

わない科目については、「再試験無」とシラバスに記載し、学生に周知している。

成績評価の結果は、実習を含めた全ての科目について、前期、後期の試験期間終了後に、Web上で、初期評価と最終評価の2段階で発表している。初期評価では、定期試験（本試験）の可否と、再試験を行う場合は、資格の有無を告知している。

## ②看護学部

### 特記事項

シラバスは全学的に統一した書式で作成し、学生にWebで公開されている。そのシラバスに沿って授業が進められている。成績評価方法・基準もシラバスに明示している。また、看護学部では、講義、演習、実習の授業形態で授業は行われている。授業は、学習効率の向上、および、能動的学習態度の形成、コミュニケーション能力の育成などを目的として、講義の他に、グループ学習、問題基盤型学習、チーム基盤型学習など参加型学習方法を取り入れている。さらに、授業科目に関連する学識経験者などの招聘講義、当事者・模擬患者の授業参加を取り入れている。学内演習は、モデル人形およびシミュレーター人形を活用、学生が模擬患者となる、模擬病室（実習室）の設置などにより積極的に実践的学習方法を展開している。臨地実習後の学生に実習を振り返るリフレクション（第4学年次）を実施することで「主体的に学ぶために必要な態度や能力」「他者を尊敬し信頼できる力」「良好な人間関係をたもつ力」を育成している。

学外実習については、臨地実習部会という委員会を常設し、学部の学外実習全般の企画・実施および恒常的に検証を行い改善につなげてきた。28年度も同様に、臨地実習部会は実習要項の作成、ガイダンス・事前学習・事前技術演習などにより学生の実習に向けての準備を促し、実習に関する実習施設との調整および実習施設における実習指導者との研修などを担当した。

履修指導は、学生個々の学習・生活相談に応じるためのクラス担任（学年アドバイザー）制度を設けており、平成27年度から、早期に大学生活に慣れ、学生各自が学習習慣を形成できるようにするために、初年次に手厚い学生支援が必要であるとの考えから第1・2学年次クラス担任を8名、第3・4学年次クラス担任4名を配置してきた。さらに、学年アドバイザーは、その年の目標を設定、それを学生と共有し、学年度末にはその評価を行いながら、生活面・学習面の相談に応じている。もし、学生の生活面・学習面に問題が生じた場合には速やかに学年アドバイザー主任に報告する。学年アドバイザー主任は学生委員、教育委員との連携に対応し、必要時には学部長に報告するというシステムに則って役割を遂行している。

また、学生支援の一環として看護学部では保護者会を設立しており、看護学部内保護者会担当委員を中心に保護者会の企画運営を行っている。年1回の「定期総会および保護者懇談会」においては、保護者間や保護者と教員との交流を深め、大学側への要望等を汲み取るとともに「保護者・学生」とともに大学を運営する意識を高めている。

国家試験については国家試験研究会（教員部会）を常設し、各年次クラスから選出された学生部会の活動をサポート、これまでの国家試験問題の傾向分析、学修支援などを行ってきた。学生の学修方法の指導や学習意欲の維持などに積極的に取り組み成果を上げた。

## ③リハビリテーション学部

### 特記事項

- ・理学療法学科・作業療法学科とも、原則として各学年2名の担任を置いている。
- ・毎週学科単位で開催される学科ミーティングにおいて学科の全教員が学生に関する情報を共有し、教育面に限らず、学生に関して個別、グループ、あるいは全体に対してなんらかの対応が必要な



状況を的確に把握し、迅速かつ適切に対応している。

- ・各教員は全学方針に則り、オフィスアワーを設けその時間帯を公表しているが、学生はオフィスアワーに限らず、学業に関する質問やキャリア・学生生活その他に関する相談など、自由に教員の研究室を訪ねており、教員は個別に適切な対応を行っている。
- ・学生の学年間交流を深め、学生の学習効率を高めることを目的として、学習の場での学年間の交流を促進している。
- ・次年度のシラバス作成時に、「次年度学部授業シラバスの確認事項－当該年度の振り返りと次年度に向けての改善計画を中心に－」を科目責任者が各科目について記載し、学科長、学部自己点検・評価委員会が内容を評価・確認し、その結果を教授会に報告している。
- ・作成されたシラバスは、全学システムに則り、学部教育委員および学部長が点検・確認し、全学的な点検・確認システムに挙げている。
- ・成績評価・単位認定に関しては、兵庫医療大学学則および兵庫医療大学教務に関する規程に則り、また、全学教育委員の方針に準じて、厳正に実施している。

#### ④共通教育センター

##### 特記事項

共通教育センターの教育の特徴は、授業体系で可能なものについては、ボーダレスな環境で実施する、つまり3学部合同（一部は医科大学と連携して4学部合同）で教育を行う点である。特にチーム医療関連科目（合同チュートリアル・早期臨床体験実習）は、医療総合大学としての本学独自の特色ある教育であり、目覚ましく進歩する医療情報や技術を鑑み、最新の教育技法を取り入れた教育の方法の改善につとめた。

以下、合同チュートリアルおよび早期臨床体験実習での平成28年度の新たな取組みを概説する。

##### （１）TBL およびPBL を併用した 4 学部合同チュートリアルの実施

平成28年9月12日から9月14日の3日間、本学に兵庫医科大学医学部1年生約120名を迎え、本学の3学部学生約370名とあわせて総計約490名で実施された。全学生を学部混成の60グループに分け、予め配布した予習資料にもとづいて最初にI-RAT（個人試験）およびG-RAT（個人試験）を実施した。特にG-RAT実施の際はクリッカー（リアルタイムレスポンス・アナライザー）を多く利用することにより、学生の理解度の把握と解説への改善に工夫した。その後、急性硬膜外血腫およびコレラを題材としたDVDを視聴し、2日間グループ討議し、3日目の発表会でグループ学習の成果を発表した。その際の2日間のグループ討議には上級生（4年生）にも「チーム医療論演習」の授業の一環としてチューター業務（後輩の指導）を課し、受け身ではなく指導者としての経験を積む貴重な機会を持たせた。

##### （２）早期臨床体験実習の実施時期変更および薬剤部・リハビリテーション部の見学の実施

より早い時期に医療への目的意識、医療職者としての人格形成を涵養させるために、これまで夏期休暇前の1週間に集中的に実施してきた早期臨床体験実習を、平成28年度は6月の金曜日の4週間にわたり、アカデミックリテラシーと裏表のカリキュラムを組んで実施した。また過去数年間、病院の薬剤部とリハビリテーション部については講義室での説明のみで、実際の見学を見合わせていたが、平成28年度は各部署の理解・協力により、説明後に実際の該当部署の見学が復活し、すべての学生が他の医療職の現場を見学できる貴重な体験ができた。

## 2) 大学院

### ①薬学研究科

#### 特記事項

博士課程教育の中核は「研究指導科目」の履修と博士論文の作成である。「研究指導科目」の選択については、受験前の事前相談における指導教員との意向確認を踏まえ、指導教員からの履修指導において相談のうえ決定する。博士論文の作成のため、第1学年次は7月に、第2～4学年次は4月末に研究計画書を提出し研究を行う。その途中経過を毎年度末に研究結果報告書として提出する。すべての単位を取得し、博士論文が完成すれば、指導教員の承認を得て、原則として第4学年次後期に学位を申請する。ただし、優れた研究業績を上げた者については、第3学年次後期に行うことができる。博士論文発表会を行い、最終試験を受験し、その両者に合格すれば博士（薬学）が授与される。

### ②看護学研究科

#### 特記事項

看護学研究科において、学生への教育・研究指導および環境の充実を図るため、到達度の自己評価を自己記入式調査で、カリキュラムに関する評価を面接にて毎年調査している。その結果からの検討事項としては、修士課程生とBP受講生（医療科学研究科含む）が合同で履修する科目において、到達目標の設定のばらつきや演習で経験したい技術の違い、指導する教員の少なさに関して改善が指摘され、科目担当教員と翌年度に向けて改善策を検討した。

就業状況下で主査教員の指導を受けながら修士課程の研究と論文作成を遂行することが困難となり、複数名が就学期限を延長せざる得ない状況となった。研究指導強化のための対策として、翌年度より主査教員に加えて副査教員も研究計画書の作成とデータ分析および論文作成の要所においてかかわることとした。

### ③医療科学研究科

#### 特記事項

医療科学研究科では、病態運動学分野、人間活動科学分野でそれぞれ3つの研究領域に分かれ、その専門の教員が配置されており、きめ細やかな研究指導を行っている。また、毎月開催される研究科委員会において、研究科内における様々な事項に関する情報共有を行い、大学院生の支援を行っている。大学院生は全員社会人であり日中はそれぞれ勤務しているため、オフィスアワーは夜間帯および週末に設定し、各大学院生に合わせて個別に対応できるようにしている。

## 3) 職業実践力育成プログラム（BP）

### ①地域在宅看護実践力育成プログラム

#### 特記事項

受講生に対して実施したプログラムの評価アンケートから、4科目を通して新たな知識と技術を習得することで、今までの自身の行動や考え方を変化させる必要性和可能性を感じ、具体的な自身の活動目標を持つことをできたことがうかがえた。一方、現職の業務の都合による就学の難しさや就学資金の確保などの課題があることも明らかになった。そこで翌年度は就学資金の支援について検討する予定である。

## ②PT・OT臨床カスステップアッププログラム

### 特記事項

本学の学部卒業生2名を含む14名が受講し、13名がプログラムを修了することができた。そしてプログラム修了生の中から1名が大学院医療科学研究科へ進学した。

受講生からは概ねプログラムに対する満足な感想が得られ、臨床力のアップにつながったものと思われる。また本プログラムに協力頂いている日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、全国在宅リハビリテーションを考える会の外部委員の方々との意見交換会において、本プログラムの現状を報告し、今後の改善点などを話し合った。

## ③リハビリテーション科学課題研究コース

### 特記事項

本コースによる受講者はいなかった。

## 4. 成果（学位授与等）

### 1) 学部

#### 学位授与数

学部学科	学位授与数
薬学部医療薬学科	118
看護学部看護学科	93
リハビリテーション学部理学療法学科	40
リハビリテーション学部作業療法学科	51

### ①薬学部

#### CBT（Computer-based Testing）結果

CBT：知識および問題解決能力を評価する客観試験（合格基準：正答率60%以上）

	受験者数	合格者数	合格率
本試験	142	128	90.1%
追再試験	14	10	71.4%

#### OSCE（Objective Structured Clinical Examination）結果

OSCE：技能および態度を評価する客観的能力試験（合格基準：課題ごとに、細目評価70%以上、概略評価5以上）

領域：患者・来局者応対、薬剤の調製、調剤鑑査、無菌操作の実践、情報の提供

	受験者数	合格者数	合格率
本試験	142	138	97.2%
再試験	4	4	100.0%

## 薬剤師国家試験結果

第102回 薬剤師国家試験

試 験 日：平成29年 2 月25日（土）～ 2 月26日（日）

合格発表日：平成29年 3 月28日（火）

	新 卒			既 卒		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
本 学	118	52	44.1%	89	47	52.8%
全 国	8,291	7,052	85.1%	4,515	2,295	50.8%

## ②看護学部

### 看護師国家試験結果

第106回 看護師国家試験

試 験 日：平成29年 2 月19日（日）

合格発表日：平成29年 3 月27日（月）

	新 卒			既 卒		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
本 学	93	93	100.0%	1	1	100.0%
全 国	56,381	53,177	94.3%	6,153	2,190	35.6%

### 保健師国家試験結果

第103回 保健師国家試験

試 験 日：平成29年 2 月17日（金）

合格発表日：平成29年 3 月27日（月）

	新 卒			既 卒		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
本 学	29	29	100.0%			
全 国	7,590	7,172	94.5%	617	278	45.1%

### 助産師国家試験結果

第100回 助産師国家試験

試 験 日：平成29年 2 月16日（木）

合格発表日：平成29年 3 月27日（月）

	新 卒			既 卒		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
本 学	8	8	100.0%			
全 国	2,044	1,904	93.2%	9	5	55.6%

### ③リハビリテーション学部

#### 理学療法士国家試験結果

第52回 理学療法士国家試験

試験 日：平成29年 2 月26日（日）

合格発表日：平成29年 3 月29日（水）

	新 卒			既 卒		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
本 学	40	40	100.0%			
全 国	10,721	10,319	96.3%	2,998	2,069	69.0%

#### 作業療法士国家試験結果

第52回 作業療法士国家試験

試験 日：平成29年 2 月26日（日）

合格発表日：平成29年 3 月29日（水）

	新 卒			既 卒		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
本 学	51	51	100.0%	2	1	50.0%
全 国	5,303	4,800	90.5%	680	207	30.4%

## 2) 大学院

### 学位授与数

研究科	学位授与数
薬学研究科	2
看護学研究科	9
医療科学研究科	9

### ①薬学研究科

#### 博士論文一覧

領 域	論文題目	著 者
分子循環器治療学	Use of proton pump inhibitors is associated with anemia in cardiovascular outpatients 循環器外来患者においてプロトンポンプ阻害薬の使用は貧血と関連する	志方 敏幸
創薬化学	Design and synthesis of prostate cancer antigen- 1 (PCA-1 / ALKBH 3 ) inhibitors as anti-prostate cancer drugs 前立腺がん治療薬を目指した新規PCA-1 阻害剤の探索合成	中尾 周平



## ②看護学研究科

### 修士論文一覧

領 域	論文題目	著 者
看護教育学	看護師が認識する主任看護師としての役割課題と自己の成長過程	小牧 よし子
老年看護学	認知症高齢者の思いを尊重した看護実践につながった熟練看護師の経験	末安 明美
精神看護学	長期入院を経て地域生活へ移行した統合失調症者が語る 退院意欲を高め・支えた体験	高倉 永久
慢性看護学	視覚障がい者が自覚する災害時の避難行動を妨げる要因と受けたい支援	小村 佳代
看護教育学	臨床実習指導者が行う「看護学生の経験の意味づけ」へのかかわり	西中 和子
急性看護学	心臓血管外科術後患者とその家族における 継続的なせん妄ケアに対する看護師の認識と看護実践	林 詳子
がん看護学	緩和ケア病棟看護師へのがん患者のせん妄に関する アセスメント能力向上のための教育プログラムの評価	藤井 正作
基礎看護学	乳がん術後放射線照射部位における皮膚バリア機能の経時的変化と 他覚症状・自覚症状および保湿ケアとの関連性	宮前 奈央
助産学	在留ベトナム人の母親が求める子育て支援 －退院後から産後三カ月までを中心に－	山之上 美智代

## ③医療科学研究科

### 修士論文一覧

領 域	論文題目	著 者
精神活動	精神障害者の主観的 well-being が社会生活に与える影響 ～入院患者とデイケア通所者および就労支援利用者との比較～	阿波賀 隆
内部障害	慢性期脳卒中片麻痺患者における歩行時の筋酸素動態の経時的変化	赤澤 奈緒
内部障害	口腔内圧の段階的な負荷が横隔膜筋厚と胸腹部運動に及ぼす影響	阿萬 大地
神経障害	妊婦体験ジャケット着用時における跨ぎ動作の運動学的特徴	柏木 香澄
運動器障害	前十字靱帯再建術後症例の下肢機能が片脚立ち上がり能力、 パフォーマンス能力に及ぼす影響について	上池 浩一
内部障害	在宅慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者の身体活動量と骨格筋機能の関係	川浦 元気
運動器障害	運動様式の違いが活動後増強に及ぼす影響について ～短腓骨筋を対象とした検討～	熊川 圭一
内部障害	外来通院運動器疾患患者における身体活動量と身体機能の関係	辻田 大
神経障害	脳卒中片麻痺患者の歩行開始動作に Dual-task が与える影響	椿本 裕一朗

## 3) 職業実践力育成プログラム (BP)

### 履修証明書授与者数

プログラム・コース	修了者数 (人)
地域在宅看護実践力育成プログラム	14
PT・OT 臨床力ステップアッププログラム	13
リハビリテーション科学課題研究コース	0

## 第5章 研究活動

本学では、研究推進委員会が主体となり、研究者倫理および公的外部資金の適正使用を啓発しつつ、研究活動の活性化に取り組んでいる。同委員会では、若手研究助成事業の実施、本学ホームページ (<https://www.huhs.ac.jp/community-affiliations/research-support/assistance>) にて「民間団体からの助成公募情報」の提供、科学研究費助成事業の公募説明会の開催などを通して、本学における研究推進に務めている。なお、平成27年度から同委員会では、教員だけでなく大学院生や卒業研究に取り組む学部学生に対しても研究者倫理の啓発に取り組んでいる。

また、学校法人兵庫医科大学は、平成26年8月に研究推進戦略本部を設置し、本学と兵庫医科大学における共同研究ならびに両大学の若手研究者の活動を促進するため、平成27年度から新しい二つの制度「二大学連携共同研究支援助成金」「若手研究者のための海外学会発表助成」を実施している。

これらの制度や取組みにより推進してきた本学の研究活動の成果の一面として以下に科学研究費助成事業、法人内助成事業などにおける採択状況、受託研究や共同研究の取組み状況などを記す。

### 1. 科学研究費助成事業

#### 獲得実績

(単位：千円)

研究種目名	件数	直接経費	間接経費	交付額
基盤研究 (B)	1	3,400	1,020	4,420
基盤研究 (C)	19	21,370	6,411	27,781
挑戦的萌芽研究	2	1,500	450	1,950
研究活動スタート支援	1	1,200	360	1,560
若手研究 (B)	10	7,600	2,280	9,880
計	33	35,070	10,521	45,591

#### 交付一覧

研究種目名	研究課題名	所属	職位	研究代表者	交付額 (直接経費(円))
基盤研究(B)	病院・在宅療養を支援するリウマチ看護の質を担保するアプローチ方略の開発と促進	看護学部	教授	神崎 初美	3,400,000
基盤研究(C)	在宅呼吸不全患者に対する身体活動量を高めるための新戦略	リハビリテーション学部	教授	玉木 彰	500,000
基盤研究(C)	分子ディスプレイを用いたマラリア経口ワクチンの構築とライブラリーの作製	共通教育センター	准教授	芝崎 誠司	900,000
基盤研究(C)	ホルモン非依存的前立腺がんにも有効な新規PCA-1阻害剤の探索合成	薬学部	教授	田中 明人	1,500,000
基盤研究(C)	TRPチャネルを介したAMPキナーゼによる疼痛制御とその分子機構の解明	薬学部	教授	戴 毅	1,200,000
基盤研究(C)	中重度要介護者の在宅療養継続に向けた家族支援プログラムパッケージの開発と実用化	看護学部	准教授	堀口 和子	600,000
基盤研究(C)	災害時有効な直感で薬効がイメージできる薬剤色彩設計の考察－色彩連想調査から検証－	薬学部	研究員	石崎 真紀子	1,100,000

基盤研究(C)	二重活性型ベンザイン発生法の開発と不安定化学種を活用した連続反応の展開	薬学部	助 教	吉岡 英斗	700,000
基盤研究(C)	PCA-1 阻害薬の臨床応用に向けた創薬研究	薬学部	研究員	所 美雪 (馬測)	1,500,000
基盤研究(C)	HGF 受容体アゴニスト・アンタゴニストと IL-2 を用いた免疫反応の制御	薬学部	教 授	岩崎 剛	1,270,000
基盤研究(C)	抗がん剤分解のための高活性な可視光応答型光触媒の開発	薬学部	准教授	甲谷 繁	800,000
基盤研究(C)	慢性心不全における貧血と炎症に交感神経と酸化ストレスは関与するか	薬学部	教 授	辻野 健	1,400,000
基盤研究(C)	サーモグラフィを看護業務に応用するための画像転送および判定システムの開発	薬学部	助 手	芝田 宏美	900,000
基盤研究(C)	妊娠高血圧症候群予防のための妊娠期における睡眠教育が血圧に与える効果の検証	看護学部	准教授	岡田 公江	1,000,000
基盤研究(C)	うつ病発症における遺伝・環境・個別的要因の相互作用が検討可能な動物モデル	共通教育センター	講 師	土江 伸誉	1,800,000
基盤研究(C)	ナフトピジルを基盤とした新規悪性中皮腫治療薬の創製と作用メカニズムの解明	薬学部	講 師	清水 忠	800,000
基盤研究(C)	触媒的なラジカル生成を基盤とした合成反応の開発	薬学部	教 授	宮部 豪人	1,100,000
基盤研究(C)	「多職種連携のコンピテンシー」獲得を目的としたIPEへのTBLの導入と評価	共通教育センター	講 師	常見 幸	1,000,000
基盤研究(C)	神経因性疼痛における新規Kチャネルとセロトニンの役割に関する研究	薬学部	教 授	山本 悟史	2,400,000
基盤研究(C)	就学前年齢に達した低出生体重児の親に対するポジティブ・ペアレンティング	看護学部	准教授	石原 あや	900,000
挑戦的萌芽研究	母親の語りは家庭内に埋もれた夫婦間の子育て問題に《光》をもたらし得るか	リハビリテーション学部	講 師	有吉 正則	500,000
挑戦的萌芽研究	一般市民を対象とした乳がん検診率向上と受療行動を促すアプローチ方法の開発と促進	看護学部	准教授	田中 登美	1,000,000
若手研究(B)	認知機能の維持・改善に対する新たな運動手法の確立	リハビリテーション学部	講 師	宮本 俊朗	1,200,000
若手研究(B)	高品質トウキの安定供給を指向した育成環境構築と品質評価	薬学部	講 師	岩岡 恵実子	900,000
若手研究(B)	呼吸トレーニングによる妊婦の冷え改善および異常分娩予防効果	看護学部	講 師	飯尾 祐加	500,000
若手研究(B)	TRPA 1 を標的とする漢方薬含有化合物データベースの構築とその薬理機序の解明	薬学部	助 教	王 勝蘭	900,000
若手研究(B)	動作解析・筋活動分析を用いた変形性膝関節症の進行要因の解明	リハビリテーション学部	講 師	塚越 累	300,000
若手研究(B)	規模の経済性を考慮した階層的な医療圏域サイズの考察	共通教育センター	講 師	西田 喜平次	1,100,000

若手研究(B)	蛍光性インターカレーターを利用した新規DNAセンサーの開発	薬学部	講 師	塚本 効司	1,200,000
若手研究(B)	視線運動分析に基づく看護教員の看護技術教育過程の可視化	看護学部	講 師	萩野 待子	500,000
若手研究(B)	分子標的薬を内服する高齢肺癌患者のアドヒアランスを高める看護プログラムの開発	看護学部	講 師	府川 晃子	600,000
若手研究(B)	成人女性を対象としたリプロダクティブヘルスに関する遺伝リテラシー教育	看護学部	助 教	片田 千尋	400,000
研究活動 スタート支援	希土類ナノ結晶を用いた多機能アップコンバージョン光触媒の開発	薬学部	助 教	川島 祥	1,200,000
				33件	35,070,000

平成28年度科学研究費事業（科学研究費補助金）（研究成果公開促進費）

研究種目	刊行物の名称	所 属	職 位	研究代表者	交付額(円)
研究成果公開促進費 学術図書	学童保育版児童虐待対応マニュアル	看護学部	教 授	鈴木 江三子	200,000

## 2. 法人内研究助成事業

### 1) 若手研究助成事業

#### 交付一覧

研究種目名	研究課題名	所 属	職 位	採択者
平成28年度 若手海外発表助成事業	The Effect of DVD Teaching Material for Clinical Nursing English Conversation	共通教育センター	講 師	福田 範子

### 2) 二大学連携共同研究支援助成金

#### 交付一覧

研究種目名	研究課題名	所 属	職 位	採択者	本学の分担者
平成27年度 二大学連携共同研究支援助成事業	脳梗塞細胞治療の有効性評価とメカニズム解明	兵庫医科大学 医学部 先端医学研究所	研究所 教授	松山 知弘	山本 悟史 教授 (薬学部) 土江 伸誉 講師 (共通教育センター)
平成27年度 二大学連携共同研究支援助成事業	歩行時膝周囲筋活動解析に基づく変形性膝関節症(KOA)に対するリハビリテーションプログラム構築	兵庫医療大学 リハビリテーション学部	教 授	藤岡 宏幸	塚越 累 講師 (リハビリテーション学部)
平成28年度 二大学連携共同研究支援助成事業	機能性消化管疾患における内臓知覚過敏発症メカニズムに関する検討	兵庫医科大学 医学部	主任 教授	三輪 洋人	戴 毅 教授 (薬学部) 王 勝蘭 助教 (薬学部)
平成28年度 二大学連携共同研究支援助成事業	羊膜由来間葉系幹細胞の再生医療等製品化に向けた創薬共同研究	兵庫医科大学 医学部	准教授	山原 研一	大野 雅子 講師 (薬学部) 藤野 秀樹 講師 (薬学部)

### 3. 受託研究

#### 交付一覧

研究種目名	所 属	職 位	学内担当者	受託研究機関	研究期間
受 託 研 究	薬学部	教 授	田中 明人	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日
受 託 研 究	看護学部	准教授	田中 登美	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日
受 託 研 究	薬学部	教 授	前田 拓也	白鳳株式会社	平成28年12月1日～ 平成28年12月31日
受 託 研 究	薬学部	教 授	青木 俊二	寺尾製粉所	平成27年4月1日～ 平成28年3月31日
受 託 研 究	リハビリテーション学部	教 授	川口 浩太郎	株式会社ビーテンド	平成29年2月1日～ 平成30年3月31日

### 4. 共同研究（産学連携含む）

#### 交付一覧

研究種目名	所 属	職 位	学内担当者	共同研究機関	研究期間
共 同 研 究	共通教育センター	講 師	土江 伸誉	サントリーグローバル イノベーションセンター(株)	平成28年1月1日 ～平成28年12月31日
共 同 研 究	薬学部	教 授	田中 明人	千寿製薬（株）	平成28年6月15日 ～平成29年3月31日
共 同 研 究	リハビリテーション学部	准教授	坂口 顕	パナソニック（株） アプライアンス社	平成28年9月20日 ～平成29年3月31日
共 同 研 究	リハビリテーション学部	教 授	川口 浩太郎	ユニ・チャーム株式会社	平成28年10月18日 ～平成29年8月31日
共 同 研 究	薬学部	教 授	天野 学	クオール（株）	平成28年12月1日 ～平成30年9月30日
共 同 研 究	薬学部	教 授	戴 毅	国立研究開発法人 理化学研究所	平成27年10月1日 ～平成30年3月31日
共 同 研 究	薬学部	講 師	中野 博明	国立大学法人 浜松医科大学（1）	平成27年4月1日 ～平成32年3月31日
共 同 研 究	薬学部	講 師	中野 博明	国立大学法人 浜松医科大学（2）	平成27年4月1日 ～平成32年3月31日
共 同 研 究	薬学部	教 授	前田 初男	（株）西山酒造場	平成28年7月1日 ～平成29年3月31日
共 同 研 究	薬学部	教 授	天野 学	（株）阪神調剤薬局	平成28年12月1日 ～平成30年9月30日
共 同 研 究	リハビリテーション学部	講 師	塚越 累	公益財団法人兵庫科学技術 協会（株）ユニバル	平成28年7月8日 ～平成29年3月31日
共 同 研 究	薬学部	講 師	清水 忠	摂南大学	平成28年6月1日 ～平成29年3月31日



## 5. その他の研究助成

### 交付一覧

研究種目名	研究課題名	所 属	職 位	研究代表者	研究助成機関	交付額(円)
研究助成	脳損傷者の表情認知と表出の特徴から他者との良好な関係づくりに向けた方略を考える	リハビリテーション学部	准教授	佐野 恭子	JR西日本あんしん社会財団	300,000
研究助成	包括的運動支援システムの構築による新たな介護予防プログラムの開発	リハビリテーション学部	講 師	永井 宏達	日本理学療法士学会	760,000
研究助成	Effects of education about the detection of early signs of child abuse on after-school child-care workers	看護学部	教 授	鈴木 江三子	日本私立看護系大学協会	200,000
研究助成	慢性疾患患者・児がいる家族を支援する看護師の家族コンコダンス形成力の概念構築	看護学部	助 教	高谷 知史	日本私立看護系大学協会	300,000
研究助成	女性看護師の冷えと就労環境・生活環境との関連について	看護学部	講 師	鈴木 みゆき	日本私立看護系大学協会	300,000
研究助成	ICU 患者の睡眠の質を改善するアプローチの開発	看護学部	講 師	貞永 千佳生	公益財団法人テルモ生命科学芸術財団	1,000,000
合計						2,860,000

## 6. 学術講演会および研究セミナー

### 実施一覧表

開催日	内 容	担当者	参加者数(人)
11月 5日(土)	「ノーベル賞とわたしたち」～発表の舞台裏そして科学と社会～	朝日新聞 科学医療部 記者 竹石 涼子	112
2月 9日(木)	「生涯現役のための面白健康科学～「生涯現役、死ぬまで元気」に生きるためには～」	京都大学名誉教授 京都産業大学・中京大学客員教授 (株)運動医科学研究所 所長 森谷 敏夫	161
2月24日(金)	「障がい者との共生社会を考える」	東京大学 先端科学技術研究センター 准教授 熊谷 晋一郎	135
3月11日(土)	「生涯現役で生き抜くために～健康アップを目指して今日から実行～」	兵庫大学 健康科学部看護学科 教授・学科長 長尾 光城	152

## 7. 薬学部・薬学研究科

### 特記事項

各大学院生には学内で実施された先端医薬研究センター・中医薬孔子学院研究報告会（平成28年 4月19日）、兵庫医療大学国際交流セミナー（平成28年11月24日）、博士論文発表会（平成29年 1月19日）に積極的に参加するように働きかけた。

## 8. 看護学部・看護学研究科

### 特記事項

学部内における研究を推進するために、①科学研究費助成事業への応募書類作成における若手教員の支援、②国際共同研究への参画推進と支援、③システマティックレビューに関する研修、④学部FDにおける研究推進への働きかけを実施した。①については、助 教・講師が教授から直接指導を受け科学研究費獲得につながった。②については6ヶ国が参画するInternational Learning

Collaborativeに本学が参画し、国際会議およびSkype会議を重ねながらデータ収集を実施している。  
③については、平成25年のComprehensive Systematic Review Training修了者を対象としたシステムティックレビュー プロトコール作成ワークショップを開催した。④については、職位混成のグループワークで研究マネジメントについてディスカッションを実施した。

## 9. リハビリテーション学部・医療科学研究科

### 特記事項

科学研究費の採択数については、学部・研究科としてかなり低いため、今後採択率を上げる努力が必要である。

## 10. 共通教育センター

共通教育センター教員の専門分野は、自然科学系、人文科学系、語学系、医療系、体育系と極めて多様であり、センターの複数の教員が共同して同じテーマの研究活動を実施することは極めて希である。将来的にはチーム医療教育の実践に向けた取組みを国内外に発信できるような成果の取り纏めを、共通教育センターの共通研究テーマとして一丸となって取り組む計画にある。

現状、個々の教員はそれぞれの専門性を発展させるべく論文投稿や学会発表等に取り組んでいる。一部の教員は他の研究機関との共同研究に積極的に取り組んでおり、また数名の教員は学内においてもリハビリテーション学部や薬学部の教員とともに共同研究に取り組んでいる。

## 第6章 学生の受け入れ

### 兵庫医療大学学生受け入れ方針

学校法人兵庫医科大学の建学の精神ならびに本学の教育理念を理解し、主体性をもって学び医療専門職者を志す学生を求めています。このような学生を適正に選抜するために多様な選抜方式を実施しています。また、高等学校までに修得すべき基本的な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」は学力試験などで判断します。

### 1. 学部

#### 1) 薬学部

##### アドミッションポリシー（学生受け入れ方針）

薬と生体についての「専門的な知識」、薬を正しく取り扱うことのできる「正確な技術」、および、他者との「コミュニケーション能力」を身につけた人を育てます。さらに、多様な専門職者からなる医療チームの中で、身につけた知識、技術、コミュニケーション能力を活かして活躍し、人の健康と幸福のために尽力し、社会の発展に貢献する意欲を持った薬のプロフェッショナルを育成します。

したがって、目標とする＜将来の自分像＞を持ち、以下の＜必要な素養と能力＞を有している人を求めます。

##### 将来の自分像

1. 薬剤師として病院や薬局などでチーム医療や地域医療に貢献する。
2. 医薬品の研究・開発や販売を通して企業などで広く医療に貢献する。
3. 薬学研究者・教育者として研究機関や大学などで活躍する。
4. 薬事・衛生行政に関わり、国や地方自治体で活躍する。

##### 必要な素養と能力

###### 知識・技能

- ・薬学を学ぶための高等学校卒業レベルの基礎的な学力がある。

###### 思考力・判断力・表現力

- ・根拠に基づいて論理的に考え、判断し、行動できる素養がある。
- ・自分の考えを人に分かりやすく伝えることができる。

###### 主体性・多様性・協働性

- ・目的意識を持って自ら学び続けることができる。
- ・相手の話をよく聞いて理解し、柔軟に対応しようとする姿勢がある。

#### 2) 看護学部

##### アドミッションポリシー（学生受け入れ方針）

看護の実践者・研究者・教育者として活躍できる優れた看護専門職者（看護師・保健師・助産師）を育成します。そのため、生命の尊厳や個人の権利・価値観を理解し、尊重できる「感性豊かで倫理観に富んだ人間性」と、高度化・複雑化する医療現場に対応できる「確かな看護実践能力」を育成します。さらに、地域的・国際的な視野で医療・保健・福祉の課題を総合的に捉え、他職種と協働して、主体的・創造的に人々の quality of life（生活の質）の向上に寄与できる能力を育成します。

したがって看護専門職者として医療・保健・福祉などの分野に貢献しようとする意志を有し、以下の<必要な素養と能力>を有する人を求めます。

#### **必要な素養と能力**

##### **知識・技能**

- ・看護学を学ぶための高等学校卒業レベルの基礎的な学力がある。

##### **思考力・判断力・表現力**

- ・論理的に物事を考え、表現する力を身につけている。

##### **主体性・多様性・協働性**

- ・他者を理解し、協調しようとする姿勢を身につけている。
- ・看護専門職者になる強い意志を持ち、人間や健康に関心を持ち続けることができる。
- ・自らの目標達成のために努力しやり遂げる意志がある。

### **3) リハビリテーション学部**

#### **アドミッションポリシー（学生受け入れ方針）**

リハビリテーション専門職者（理学療法士・作業療法士）として社会に貢献する人を育成します。  
そのために、人々の幸福と健康に貢献することができる人間力、理学療法学・作業療法学の知識・技術に基づく確実な臨床力、他職種と連携しながらリハビリテーション専門職として力を発揮することができる総合的実践力、そして、生涯にわたって自分の能力を磨き自己を高めていく能力・態度を育成します。

したがって、理学療学科では理学療法士として、作業療学科では作業療法士として、医療・保健・福祉などの分野に貢献しようという意志を有し、以下の<必要な素養と能力>を有する人を求めます。

#### **必要な素養と能力**

##### **知識・技能**

- ・理学療法学あるいは作業療法学を学ぶための高等学校卒業レベルの基礎的な学力がある。

##### **思考力・判断力・表現力**

- ・物事を論理的に考えるための基本的思考力がある。
- ・自分なりに物事を判断し、その理由を説明することができる。
- ・自分の気持ちや考えを人に伝えることができる。

##### **主体性・多様性・協働性**

- ・目的意識をもち続け自分から能動的に学修する。
- ・自分と異なる意見や気持ちをもっている人に関する興味と、そのような相手を理解しようとする姿勢をもっている。
- ・人とのコミュニケーションを大切にする。

## **2. 大学院**

### **1) 薬学研究科**

#### **アドミッションポリシー（学生受け入れ方針）**

本研究科の理念に共感し、高度な研究能力を有する医療専門職者、そして医療薬学の問題を解決したいと願う薬学研究者を目指す以下のような人材を求めます。

1. 高度な研究能力を獲得する基盤となる薬学に関する基礎知識を有する人。
2. 薬学に関する最先端の情報を獲得するために必要な外国語の能力を有する人。
3. 医療の現場における問題点を明確化し、それを解決する研究能力を身につけたいという意欲を有する人。

#### 入試との連関

1. 専門科目：高度な研究能力を獲得する基盤となる薬学に関する基礎知識を判定する。
2. 外国語：薬学に関する最先端の情報を獲得するために必要な外国語の能力を判定する。
3. 面接：医療現場における問題点を明確化し、それを解決する研究能力を身につけたいという意欲を持っているかどうかについて判定する。

## 2) 看護学研究科

### アドミッションポリシー（学生受け入れ方針）

生命と人権を尊重し、医療・保健・福祉および社会の変動に対応し、創造的かつ科学的に看護が実践できる能力をもち、人々の健康と quality of life の向上および看護学の発展に寄与できる高度専門職業人、研究者、教育者、管理者を育成します。本研究科では、以下のような人材を求めます。

1. 主体的に学び、目標に向かって邁進できる人。
2. 看護専門職者として高度看護実践・看護学の発展に貢献する意欲を有する人。
3. 志望する専門分野に必要な基礎的知識と技術を有する人。
4. 国際的視野に立ち、柔軟な発想ならびに論理的思考で課題を探究する姿勢を有する人。
5. 倫理的な感受性と想像力をもって行動できる人。

#### 入試との連関

1. 専門科目：志望する分野の専門的知識と専門分野の動向と現状の理解と課題を明確にできる能力を判定する。
2. 外国語：最新の知見を各種論文から読み取るための能力を判定する。
3. 面接：志望動機、学修準備状況、自主性、学習意欲、心構えを判定する。

## 3) 医療科学研究科

### アドミッションポリシー（学生受け入れ方針）

高度な研究能力を有する医療専門職者ならびに高度な実践能力を有する医療専門職者を強く目指す以下のような人材を求めます。

1. 自ら積極的に学び、目標に向かって邁進できる人。
2. 自らの臨床的知識・技能を積極的に高めたいという意欲を有する人。
3. 先駆的・学際的・発展的研究に取り組み、医療科学の発展に寄与する姿勢を有する人。
4. 自らが修得した臨床的知識・技術、発展的知見を臨床実習教育・新人教育を通じて後進へ伝え、専門職業人としての発展に寄与しようとする人。

#### リハビリテーション科学研究コース

1. リハビリテーション科学領域において、先駆的・学際的・発展的な研究を展開しようとする志向性を有する人。
2. 将来、本領域において研究・教育を牽引していく意欲を有する人。



## リハビリテーション科学課題研究コース

1. 自らの臨床的知識・技術を積極的に高めたい人。
2. 本研究科で培った臨床的知識・技術を活用してリハビリテーション医療の向上に貢献しようとする人。

## 入試科目との関連

1. 専門科目：各専門領域に関する基礎的な知識を判定する。
2. 外国語：最新の知見を各種論文から読み取るための能力を判定する。
3. 面接：主体的・協調的に研究活動に取り組もうとする姿勢を判定する。

## 3. 入学者選抜および入試結果

### 1) 学部

平成29年度学生募集は、推薦入学試験（専願公募制・指定校推薦・公募制S日程・公募制A日程・公募制B日程）、一般入学試験（前期A日程・前期B日程・前期C日程・後期日程・大学入試センター試験利用入学試験前期日程・大学入試センター試験利用入学試験中期日程・大学入試センター試験利用入学試験後期日程）を次のとおり実施した。

### 特記事項

主な変更点として、推薦入学試験では公募制S日程（薬学部・看護学部）を新設し、公募制A日程はリハビリテーション学部を追加して全学部対象とした。また、一般入学試験では看護学部の前期日程を前期A日程に統合し、前期B日程は看護学部を追加して全学部対象とした。さらに、薬学部のセンター試験利用入学試験後期日程をセンター試験利用入学試験中期日程として実施時期を変更した。

なお、学外会場を設けた入学試験については、前年度は前期B日程のみの実施であったが、平成29年度は前期A日程と前期B日程の2日間連続で実施した。志願者数は、全学部で両日合わせ大阪会場264名、岡山会場68名であった。

### 1. 推薦入学試験（専願公募制）

- |       |             |                    |
|-------|-------------|--------------------|
| ①選抜方法 | ：薬学部        | 外国語、理科、調査書         |
|       | 看護学部        | 外国語、小論文、調査書        |
|       | リハビリテーション学部 | 理学療法学科 外国語、小論文、調査書 |
|       | リハビリテーション学部 | 作業療法学科 外国語、小論文、調査書 |

②試験 日：平成28年11月12日（土）

③合格発表日：平成28年11月21日（月）

④募集人員等：

区 分	薬学部	看護学部	リハビリテーション学部	
			理学療法学科	作業療法学科
募集人員	20	20	10	13
出願者数	49	155	75	44
受験者数	49	154	75	44
合格者数	32	20	11	13
入学者数	32	20	11	13

## 2. 推薦入学試験（指定校推薦入学制度）

①合格発表日：平成28年11月21日（月）

②募集人員等：

区 分	薬学部
募集人員	5
出願者数	5
受験者数	5
合格者数	5
入学者数	5

## 3. 推薦入学試験（公募制S日程）

①選抜方法：薬学部 外国語、理科、調査書  
看護学部 外国語、調査書

②試 験 日：平成28年11月12日（土）

③合格発表日：平成28年11月21日（月）

④募集人員等：

区 分	薬学部	看護学部
募集人員	10	7
出願者数	53	149
受験者数	53	149
合格者数	31	18
入学者数	19	14

## 4. 推薦入学試験（公募制A日程）

①選抜方法：薬学部 外国語、理科、調査書  
看護学部 外国語、数学、調査書  
リハビリテーション学部 理学療法学科 外国語、数学、調査書  
リハビリテーション学部 作業療法学科 外国語、数学、調査書

②試 験 日：平成28年11月19日（土）

③合格発表日：平成28年11月29日（火）

④募集人員等：

区 分	薬学部	看護学部	リハビリテーション学部	
			理学療法学科	作業療法学科
募集人員	10	10	4	4
出願者数	141	249	114	37
受験者数	140	248	114	37
合格者数	61	42	7	9
入学者数	25	25	5	6

## 5. 推薦入学試験（公募制B日程）

- ①選抜方法：薬学部 理科、調査書  
 ②試験日：平成28年12月10日（土）  
 ③合格発表日：平成28年12月16日（金）  
 ④募集人員等：

区 分	薬学部
募集人員	10
出願者数	86
受験者数	85
合格者数	12
入学者数	9

## 6. 一般入学試験（前期A日程）

- ①選抜方法：薬学部 外国語、数学、理科  
 看護学部 外国語、国語、理科  
 リハビリテーション学部 理学療法学科 外国語、数学、理科  
 リハビリテーション学部 作業療法学科 外国語、国語、理科  
 ②試験日：平成29年2月2日（木）  
 ③合格発表日：平成29年2月10日（金）  
 ④募集人員等：

区 分	薬学部	看護学部	リハビリテーション学部	
			理学療法学科	作業療法学科
募集人員	35	35	16	13
出願者数	255	353	145	51
受験者数	248	351	144	51
合格者数	101	78	39	25
入学者数	22	46	20	16

## 7. 一般入学試験（前期B日程）

- ①選抜方法：薬学部 外国語、理科  
 看護学部 外国語、数学  
 リハビリテーション学部 理学療法学科 外国語、数学  
 リハビリテーション学部 作業療法学科 外国語、数学  
 ②試験日：平成29年2月3日（金）  
 ③合格発表日：平成29年2月10日（金）  
 ④募集人員等：

区 分	薬学部	看護学部	リハビリテーション学部	
			理学療法学科	作業療法学科
募集人員	25	15	8	8
出願者数	153	284	152	38
受験者数	146	278	151	38
合格者数	59	32	23	17
入学者数	25	11	12	7

## 8. 一般入学試験（前期C日程）

- ①選抜方法：薬学部 理科（必須）、外国語・数学（1教科選択）  
 ②試 験 日：平成29年2月18日（土）  
 ③合格発表日：平成29年2月24日（金）  
 ④募集人員等：

区 分	薬学部
募集人員	15
出願者数	117
受験者数	108
合格者数	33
入学者数	18

## 9. 一般入学試験（後期日程）

- ①選抜方法：薬学部 外国語、理科  
看護学部 外国語、理科、国語  
 ②試 験 日：平成29年3月4日（土）  
 ③合格発表日：平成29年3月10日（金）  
 ④募集人員等：

区 分	薬学部	看護学部
募集人員	10	5
出願者数	90	88
受験者数	84	88
合格者数	36	5
入学者数	24	5

## 10. 大学入試センター試験利用入学試験前期日程

- ①選抜方法：薬学部 理科①、理科②、外国語  
看護学部 国語、理科、外国語  
リハビリテーション学部 理学療法学科 国語、数学①・数学②、理科、外国語  
リハビリテーション学部 作業療法学科 国語、数学、理科、外国語  
 ②試 験 日：本学独自の学力試験は行わない。  
 ③合格発表日：平成29年2月10日（金）

④募集人員等：

区 分	薬学部	看護学部	リハビリテーション学部	
			理学療法学科	作業療法学科
募集人員	7	5	2	2
出願者数	28	48	40	15
受験者数	25	48	40	15
合格者数	7	10	13	5
入学者数	1	1	0	1

# 11. 大学入試センター試験利用入学試験中期日程

- ①選抜方法：薬学部 理科①、理科②  
 ②試 験 日：本学独自の学力試験は行わない。  
 ③合格発表日：平成29年 3月10日（金）  
 ④募集人員等：

区 分	薬学部
募集人員	3
出願者数	8
受験者数	8
合格者数	3
入学者数	2

# 12. 大学入試センター試験利用入学試験後期日程

- ①選抜方法：看護学部 国語、理科、外国語  
 ②試 験 日：本学独自の学力試験は行わない。  
 ③合格発表日：平成29年 3月24日（金）  
 ④募集人員等：

区 分	薬学部
募集人員	35
出願者数	5
受験者数	5
合格者数	1
入学者数	1

# 13. 合計

区 分	薬学部	看護学部	リハビリテーション学部	
			理学療法学科	作業療法学科
募集人員	150	100	40	40
出願者数	985	1331	526	185
受験者数	951	1321	524	185
合格者数	380	206	93	69
入学者数	182	123	48	43



## 2) 大学院

平成29年度学生募集は、Ⅰ期（薬学研究科・看護学研究科・医療科学研究科）、Ⅱ期（薬学研究科・看護学研究科）を実施し、出願人数が少なかった薬学研究科においては、追加募集としてⅢ期入試を予定していたが、出願者がいなかったために実施には至らなかった。

### 入学試験 Ⅰ期（薬学研究科、看護学研究科、医療科学研究科）

- ①選抜方法：外国語（英語）、専門科目、面接
- ②試験日：平成28年9月24日（土）
- ③合格発表日：平成28年10月5日（水）午後3時
- ④募集人員等：

区 分	薬学研究科	看護学研究科	医療科学研究科
募集人員	3	8	8
出願者数	0	3	12
受験者数	0	3	11
合格者数	0	3	9
入学者数	0	3	9

### 入学試験 Ⅱ期（薬学研究科、看護学研究科）

- ①選抜方法：外国語（英語）、専門科目、面接
- ②試験日：平成29年1月28日（土）
- ③合格発表日：平成29年2月8日（水）午後3時
- ④募集人員等：

区 分	薬学研究科	看護学研究科
募集人員	若干名	若干名
出願者数	1	2
受験者数	1	2
合格者数	1	1
入学者数	1	1

## 4. 学生募集（入試関連広報）

### オープンキャンパス

平成28年度は平成28年8月6日（土）・7日（日）・20日（土）・21日（日）の計4日間開催し、1,984名（受験生・高校生ベース）の参加者を得て、盛況に終えることができた。

大学全体ガイダンスを午前10時30分から実施したほか、各学部学科イベント（実習室における体験実習等）、在学生によるキャンパスツアー、在学生・教員との交流コーナー、入試相談コーナーなどのプログラムに加えて、次の特別プログラムを実施した。

また、昨年に引き続き岡山方面からの無料送迎バスの運行を実施した。

- 8月6日（土）：チーム医療特別講義
- 8月7日（日）：入試対策講座「生物」
- 8月20日（土）：クラブサークル紹介
- 8月21日（日）：入試対策講座「英語」

(各日程参加者数)

8月6日

志望学科	受験生数	同伴者数
医療薬学科	74	50
看護学科	206	122
理学療法学科	117	55
作業療法学科	33	24
未定	9	5
合計	439	256

8月7日

志望学科	受験生数	同伴者数
医療薬学科	96	83
看護学科	314	153
理学療法学科	114	65
作業療法学科	31	30
未定	21	8
合計	576	339

8月20日

志望学科	受験生数	同伴者数
医療薬学科	36	19
看護学科	213	73
理学療法学科	81	50
作業療法学科	24	16
未定	13	3
合計	367	161

8月21日

志望学科	受験生数	同伴者数
医療薬学科	79	39
看護学科	343	165
理学療法学科	138	82
作業療法学科	53	40
未定	15	7
合計	628	333

4日間合計

志望学科	受験生数	同伴者数
医療薬学科	285	191
看護学科	1076	513
理学療法学科	450	252
作業療法学科	141	110
未定	58	23
合計	2,010	1,086

※複数学科を志望している生徒は、重複カウントしているため、上記の4日間の合計参加者数とは数  
が異なる。

#### 兵庫医療大学薬学部・兵庫医科大学病院薬剤部合同イベント

平成28年6月5日(日)、兵庫医科大学病院薬剤部との合同イベント「薬剤師への道」を開催した。このイベントは、薬学部を目指す高校生を対象に、より一層薬学に興味を持ってもらいたいという想いから、合同で企画・実施しているもので、7回目となる今回は、「大学病院での薬剤師としての仕事を知る」、「医療大学での学びを経験する」をテーマに開催し、高校生48名の参加を得た。

午前中は、兵庫医科大学病院において、現役薬剤師(卒業生)による1日の業務についての説明および薬剤部見学を通して薬剤師の仕事を知ってもらい、午後からは、バス2台で兵庫医療大学に移動して、薬学部での学びを体験できるプログラム(本学教員による講義、臨床薬学研修センターでの体験実習)を実施した。

#### 看護職への道イベント

平成28年6月12日(日)、「看護職への道」を開催した。このイベントは、看護師・保健師・助産師を目指す高校生にキャリアの視点から看護職を知ってもらうことを目的としたもので、高校生168名の参加を得た。

3回目となる今回は、在学生による学部紹介・国際看護への取り組み紹介、卒業生による仕事紹介、講義体験「高齢者にとっての『食べること』を看護の視点で考えてみましょう!」、兵庫医科大学病院の紹介を実施した。

### 全学部生対象入試対策講座・薬学部受験生向け特別入試対策講座

平成28年12月11日（日）、午前に薬学部受験生向け特別入試対策講座、午後から入試対策講座を開催した。薬学部受験生向け特別入試対策講座「受験勉強って、薬（やく）に立つの?」は今年度初めての試みとして開催し、24名の参加があった。「化学」「生物」の特別講義と、キャンパスツアーを実施した。

午後からの全学部を対象とした入試対策講座は、本学の一般入学試験の受験を考えている高校生を対象に、入試ガイダンスの後、「英語」、「化学基礎・化学（薬学部対象）」、「生物基礎・生物（看護学部対象）」と、今年初めて開講した「数学Ⅰ・Ⅱ（看護学部・リハビリテーション学部対象）」の本学入試傾向および今後の対策に関する講義を行い、338名の参加があった。

なお、当日は、オープンキャンパスに参加できなかった受験生にキャンパスの見学や個別相談等を目的とした、在学生・教員交流コーナーやキャンパスツアー、入試個別相談も併せて実施した。

### 3学部合同1日体験入学イベント

平成29年3月20日（月・祝）、3学部合同1日体験入学イベントを開催した。このイベントは、一足早く兵庫医療大学生を体験できるイベントとして、医療系を志望する新高校2年生・3年生を対象に開催したもので、3学部合同開催としては5回目となる。参加は事前申込制となっており、抽選の結果176名の参加があった。

オープニングガイダンス、在学生スタッフによるキャンパスツアーの後、「チーム医療」を学ぶ特別講義とグループワーク（チームビルディングゲーム）を実施した。その後、在学生および教員と昼食を摂り、各学部学科に分かれ実験実習、体験実習等を行った。

○薬学部：実験実習「8の研究室に分かれて体験」

○看護学部：体験実習

「看護の力で、心と身体を温めよう!～手浴とハンドマッサージ～」

○理学療法学科：体験実習

「理学療法士への第一歩～身体機能のチェックと医学的観点から実施するストレッチ～」

○作業療法学科：体験実習「作業療法への入門～コミュニケーションと療法体験!～」

## 5. 定員数と在籍学生数

### 学部定員数

学 部	学 科	修業年限	入学定員	収容定員	学位または称号
薬学部	医療薬学科	6	150	900	学士（薬学）
看護学部	看護学科	4	100	400	学士（看護学）
リハビリテーション学部	理学療法学科	4	40	160	学士（理学療法学）
リハビリテーション学部	作業療法学科	4	40	160	学士（作業療法学）

### 学部学生数

学 部	学 科	第1学年次	第2学年次	第3学年次	第4学年次	第5学年次	第6学年次	計
薬学部	医療薬学科	157	160	158	143	140	118	876
看護学部	看護学科	117	110	97	93			417
リハビリテーション学部	理学療法学科	48	46	43	41			178
	作業療法学科	42	49	44	53			188
合 計		364	365	342	330	140	118	1,659

### 進級認定数

学部・学科	学 年	学生数	進 級 (卒業)	留 年	退 学	除 籍
薬学部 医療薬学科	1	157	144	6	7	0
	2	160	143	13	4	0
	3	158	151	5	2	0
	4	143	138	5	0	0
	5	140	139	1	0	0
	6	118	(118)	0	0	0
看護学部 看護学科	1	117	110	4	3	0
	2	110	109	1	0	0
	3	97	91	5	1	0
	4	93	(93)	0	0	0
リハビリテーション学部 理学療法学科	1	48	47	1	0	0
	2	46	42	1	3	0
	3	43	41	1	1	0
	4	41	(40)	1	0	0
リハビリテーション学部 作業療法学科	1	42	41	0	1	0
	2	49	46	2	1	0
	3	44	42	1	1	0
	4	53	(51)	2	0	0
計		1,659	1,284 (302)	49	24	0

### 大学院定員数

研究科	専 攻	修業年限	入学定員	収容定員	学位または称号
薬学研究科	医療薬学	4	3	12	博士
看護学研究科	看護学	2	8	16	修士
医療科学研究科	医療科学	2	8	16	修士

## 大学院生数

薬学研究科	研究指導科目分野	第1学年次	第2学年次	第3学年次	第4学年次
	臨床ゲノム薬理・分子薬物動態学	0	0	0	1
	分子循環器病治療学	0	1	0	1
	創薬化学	1	0	1	1
	臨床薬剤学	2	1	1	0
	分子イメージング科学	0	1	0	0
	合 計	3	3	2	3

看護学研究科	分 野	特定分野	第1学年次	第2学年次
	基盤	基礎看護学	0	1
		看護教育学	1	2
	療養支援	急性看護学	2	4
		がん看護学	0	1
		慢性看護学	1	1
		精神看護学	0	2
	家族支援	助産学	1	1
		小児看護学	0	0
		母性看護学	1	0
	生活支援	老年看護学	0	1
		在宅看護学	1	1
	合 計		7	14

医療科学研究科	分 野	コース	第1学年次	第2学年次
	病態運動学	神経障害	2	2
		運動器障害	1	2
		内部障害	4	4
	人間活動科学	身体・認知活動	1	0
		精神活動	0	1
		摂食嚥下障害	0	0
	合 計		8	9

## 職業実践力育成プログラム定員数

プログラム・コース	修業年限	入学定員	修 了
地域在宅看護実践力育成プログラム	1	20	履修証明
PT・OT 臨床カステップアッププログラム	1	10	履修証明
リハビリテーション科学課題研究コース	2	8	履修証明

## 職業実践力育成プログラム受講者数

プログラム・コース	人 数
地域在宅看護実践力育成プログラム	18
PT・OT 臨床カステップアッププログラム	14
合 計	32



## 第7章 学生支援

### 1. 修学支援

#### 1) 教育支援室

##### 概要

各学部および共通教育センターにおける教育体制の支援を目的として、「IR部門」、「履修支援・国試対策支援部門」、「チーム医療教育支援部門」の3部門による教育支援活動を行っている。

##### ECE（早期臨床体験実習）

平成28年6月3日・10日・17日・24日の計4日間、薬学部・看護学部・リハビリテーション学部の第1学年次を対象に、兵庫医科大学病院において早期臨床体験実習を実施した。この実習では、早期に医療の実際に直接触れ医療専門職者になるための自覚を培い、勉学のモチベーションを高めることを目標としており、3学部4学科の学生の混成による80グループを編成し、各グループは延べ2日間に亘って、各病棟の見学実習を半日、薬剤部およびリハビリテーション部の講義と見学実習を半日行った。

##### 4学部合同チュートリアル（第1学年次）

平成28年9月12日・13日・14日、本学において兵庫医科大学第1学年次と本学の第1学年次を対象に、4学部混成の60グループでTBL形式の合同チュートリアルを行った。あらかじめ全員に予習資料を配付し、最初に個人テスト、次いでクリッカーを用いたグループテストを実施した。その後グループ討議を経て、グループ発表を行った。最後に成績優秀グループおよび個人を表彰した。学生にとっては、授業でまだ扱っていない臨床症例について自分たちで調査し検討することを通して、他学部学生との意見交換の機会となる教育企画であった。

##### 4学部合同チーム医療演習（第3、第4学年次）

平成28年9月5日から9日の5日間に渡り、西宮キャンパスにおいて兵庫医科大学第3学年次と本学第4学年次を対象に合同のチーム医療演習を行った。医学部の第3学年次は第1学年次の時にもチーム医療演習を行っており、薬学部・看護学部・リハビリテーション学部第4学年次は、既に臨床での実習を経験している。それぞれの学生がTBL形式で症例の問題解決を一緒に考え、実践に即した討論が行われた。この教育を通じて短期間ではあるが、将来一緒に働く医療人としてお互いを意識し、チーム医療について更に考える機会となった。

##### 特記事項

「IR部門」では、全学生を対象に修学動態調査を実施した。また、入試データと入学後の成績データをリンクさせ、入学から国試までの学生データを関連付けることを可能にするデータベース構築の検討を行った。

「履修支援・国試対策支援部門」の履修支援では、第1学年次前期のリメディアル教育の他、20名の学習支援員（教育支援室兼務教員6名を含む。）が第1学年次生全員を対象にポートフォリオによる修学指導を行ったほか、低学年次の要履修支援学生に対し、個別面談および補習授業や勉強会を実施した。また、国試対策支援では、薬学部第6学年次を対象に5泊6日の合宿を2回（8/22～8/27：参加者41名、11/28～12/3：参加者27名）実施した。

「チーム医療教育支援部門」では、第1学年次「早期臨床体験実習」、第2学年次「チーム医療概論」、

第4学年次「チーム医療論演習」の3授業科目において、チーム医療教育を支援した。

各部門による学部等の教育体制への支援に加え、教育委員会と連携し、授業改善を目的とした「学生による授業評価アンケート」を実施した。また、年間の授業評価アンケートの集計結果を基に、教育委員会との合同ワーキンググループにおいて、各学部開講科目の中からそれぞれ1授業科目を「レクチャー・オブ・ザ・イヤー2016」として選出した。

本学の重点課題の一つである履修支援対象者対策として、教育支援室履修支援・国試対策支援部門を活動拠点に当該学生への教育支援を行う教員（学習支援員）を募集し、今年度は20名の教員が活動に従事した。

当該教員の活動は、カリキュラム外での履修支援により、学生の学習改善を図り、進級支援およびドロップアウト防止に繋げることを目的としており、活動に対して教育助成金を配分した。

#### <学習支援員内訳>

薬学部	10
看護学部	2
リハビリテーション学部	2
共通教育センター	6
計	20

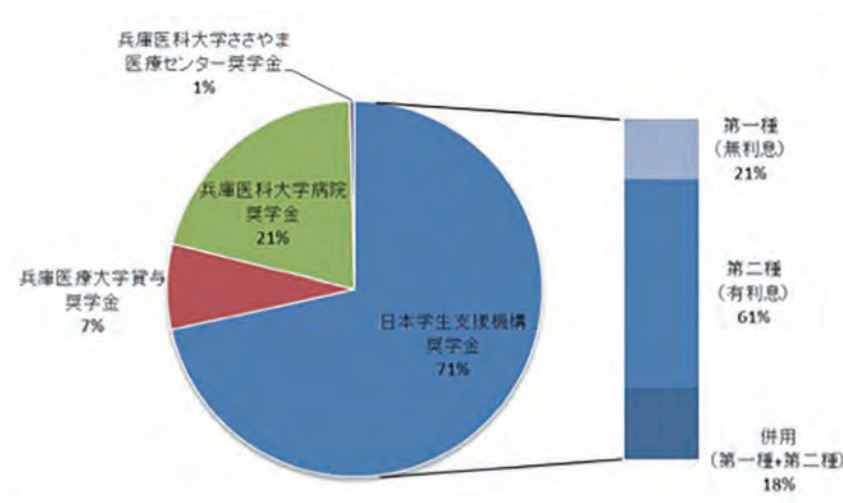
## 2) 奨学金

### 概要

本学では、学生全体の学習意欲を高め、優秀な学生を輩出し、次代の医療をリードする人材の育成を目指すことを目的とし、入学試験において優秀な成績を修めた入学生に対し、また、入学後に優秀な成績を修め、他の規範となる資質を有すると認められた在学生に対し、兵庫医療大学入学生・在学生特別奨学金制度を設置するとともに、学生が大学生活を送るにあたり、意欲的に学業に専念できるよう、経済的なサポートを行うため、次の奨学金を取り扱っている。

- ・兵庫医療大学貸与奨学金
- ・兵庫医科大学病院奨学金
- ・兵庫医科大学ささやま医療センター奨学金
- ・日本学生支援機構奨学金

#### 平成28年度奨学金貸与者種類別割合



## 特記事項

- ・兵庫医療大学入学生・在学生特別奨学生選考要領について、GPA制度導入に伴い選考方法を変更した。

## 3) 学内広報

### 広報誌「HUHS NOW」

大学執行部の活動状況をはじめ、大学全体がどのように動いているのか、保護者、在学生および教職員により一層理解いただくことを目的とした大学広報誌「HUHS NOW」を次のとおり発行した。

#### <保護者版>

○平成28年10月発行（Vol. 4）

- ・学長メッセージ「“医療大10年！”－次なる10年へ向けて！－」
- ・開学10年目を迎えた本学のブランドイメージ
- ・各学部長・共通教育センター長メッセージ「今後の展望」
- ・キャリア・就職支援
- ・大規模災害に対する危機管理体制 など

#### <在学生版>

○平成28年7月発行（Vol. 5）

- ・夏休み、何する？
- ・オープンキャンパス2016在学生スタッフ募集について
- ・キャリアガイダンスの予定
- ・リーダーズキャンペンレポート など

#### <教職員版>

○平成28年4月発行（Vol. 5）

- ・学長メッセージ「次なる10年に向けて」
- ・開学10年目を迎えて
- ・新任役職者あいさつ（学生部長・キャリアデザインセンター長）
- ・平成28年度新任教職員の紹介
- ・社会学連携事業
- ・SD・FD報告 など

## 2. 生活支援

### 保健管理センター

#### 概要

保健管理センターは、保健室（医師1名、保健師3名）と学生相談室（医師1名、臨床心理士2名）の2部門より構成され、学生を対象として体調の変化や心の悩みの相談に応じている。定期健康診断および予防接種の実施、感染症の集団発生や事故の予防など、学生の健康管理やメンタルヘルスケアの積極的支援を心がけている。また、病気や事故が発生しないよう、何らかの徴候を自覚した時点で気楽に相談してもらえよう努めている。

#### 1) 保健室

##### ①健康診断の実施

健康診断実施時に学生から提出のあった「健康調査票」に基づき、相談希望または医師が必要

と判断した学生に対して、医師・保健師による面談を行い、学生生活での健康管理に役立つように指導や助言を行った。

健康診断の結果、「要治療」、「要精密検査」となった学生には、医療機関での受診および精密検査を勧め、当該結果について確認を行うとともに、生活習慣を改善する必要のある学生には、保健指導を行った。

#### 定期健康診断実施状況

実施日	対象学生	
4月7日（木）	看護学部	第2～4学年次
	リハビリテーション学部*	
4月8日（金）	薬学部	第2～6学年次
4月9日（土）	全学部	第1学年次

会場：G棟アリーナ1階、2階 健康診断実施機関：近畿健康管理センター

※実習日時の都合により、一部4月2日（土）に実施

#### 定期健康診断検査項目

学 年	第1学年次	第2～6学年次
身体計測（身長・体重・BMI）	○	○
腹囲測定	○	×
血圧測定	○	○
視力検査	○	○
聴力検査（オーディオメーター）	○	×
内科診察	○	○
胸部X線デジタル撮影	○	○
尿検査（潜血・蛋白・糖）	○	×
心電図検査	○	×
血液検査	○	×

※血液検査項目：RBC・Hb・Ht・WBC、AST・ALT・ $\gamma$ -GTP、TG・HDL-CHO・LDL-CHO、GLU

#### 定期健康診断実施者数

学 部	在学生数	健康診断	
		実施者数	受診率
薬学部	875	874	99.9
看護学部	416	416	100.0
リハビリテーション学部	365	365	100.0

#### ②抗体検査およびワクチン接種の実施

学外臨床実習等における感染予防対策として、平成28年度から日本環境感染学会の「医療関係者のためのワクチンガイドライン第2版」に沿って実施し、接種回数も原則2回とした。

第1学年次に対して、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘ウィルスのEIA法によるIgG抗体検査を実施し、抗体価が基準を満たさない学生にはワクチンを接種した。

また、第1学年次のワクチン接種後の抗体検査で基準を満たさない学生には、第2学年次に2回目のワクチン接種を行った。

## 抗体検査およびワクチン接種実施状況

実施日	抗体検査、ワクチン接種	対象学生
4月9日（土）	抗体検査(健康診断時の採血)	全学部第1学年次
5月19日（木）	ワクチン接種	看護学部・リハビリテーション学部第1学年次接種対象者
5月26日（木）	ワクチン接種	薬学部第1学年次接種対象者
6月16日（木）	ワクチン接種	看護学部・リハビリテーション学部第1・2学年次接種対象者
6月23日（木）	ワクチン接種	薬学部第1・2学年次接種対象者
7月21日（木）	ワクチン接種	全学部第1・2学年次接種対象者
10月4日（火）	ワクチン接種後の抗体検査	薬学部第2学年次
10月13日（木）	ワクチン接種後の抗体検査	リハビリテーション学部第1学年次、理学療法学科第2学年次
10月18日（火）	ワクチン接種後の抗体検査	薬学部第1学年次
10月24日（月）	ワクチン接種後の抗体検査	看護学部・作業療法学科第2学年次
10月26日（水）	ワクチン接種後の抗体検査	看護学部第1学年次

会場：G棟アリーナ1階、2階      健康診断実施機関：近畿健康管理センター

## ワクチン接種後の抗体獲得率

（平成29年3月末現在）

	麻 疹	風 疹	流行性耳下腺炎	水 痘
第1学年次 （平成28年度入学）	70.5 (41.5)	88.9 (61.0)	87.2 (62.4)	97.2 (92.2)
第2学年次 （平成27年度入学）	71.0 (47.1)	87.6 (68.2)	94.7 (63.3)	98.5 (92.8)

※基準は、EIA法（IgG）麻疹16.0、風疹8.0、流行性耳下腺炎4.0、水痘4.0

※（ ）内は入学時の抗体検査において基準を満たす率

## ③利用状況

### 症状別保健室利用者数

月別	内科	外科	他科	再掲（内科・外科・他科のいずれか）			医師相談 保健師相談	面談・ 説明	測定	その他	合計
				ベッド休養	医療機関 タクシー搬送	救急車搬送					
4月	25	8	14	12	0	1	14	238	17	9	325
5月	35	8	9	14	1	0	27	310	3	27	419
6月	14	14	11	8	0	0	26	401	10	15	491
7月	29	7	11	12	0	0	7	181	6	15	256
8月	16	6	1	10	0	0	1	99	2	1	126
9月	14	2	1	5	1	0	1	63	3	1	85
10月	28	3	6	11	0	0	2	89	9	10	147
11月	23	9	7	10	0	0	4	65	9	13	130
12月	18	8	5	5	0	0	0	86	1	8	126
1月	18	3	2	8	0	0	0	127	4	9	163
2月	12	1	1	3	0	0	0	84	0	2	100
3月	2	8	1	1	0	0	1	100	4	6	122
合計	234	77	69	99	2	1	83	1,843	68	116	2,490



## 2) 学生相談室

### ①利用状況

学生相談室は、臨床心理士2名体制、開室日は月・火・木・金の週4日である。相談室では、新入学オリエンテーション時において、パワーポイントでの施設案内や相談員の紹介および学生相談室春のイベント案内など相談室の広報活動を行っている。相談内容を区分的にみると「授業などの学業」が上位に位置しており、合理的配慮のための障がいのある学生の支援が増えたことが一因と考えられる。また、学生を取り巻く関係者（教職員・保護者）とのコンサルテーションを中心とした支援では、発達障がい学生、聴覚障がい学生の支援において連携を行っている。

### 利用件数

相談内容		学 生	教職員	保護者	その他	合 計
健康		1				1
授業など学業		205				205
就職や将来の進路		16				16
性格		36				36
友人等との対人関係		26				26
課外活動		2				2
その他	電話	20	96	28	5	149
	メール	48	810	33	14	905
	その他	16	610	11		637
合 計		370	1,516	72	19	1,977

### 学生利用件数

相談内容		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
就職や将来の進路		2	0	0	0	0	1	0	0	0	2	4	7	16
異性問題		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
授業など学業		8	20	18	15	16	15	22	18	23	19	19	12	205
友人等との対人関係		3	4	5	1	1	3	4	2	1	1	1	0	26
性格		6	4	5	9	3	0	0	2	4	2	0	1	36
経済問題		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(家計・学費・ローン)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
価値観		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
健康		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
課外活動		0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
家族や家庭内のこと		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	電話	2	0	3	0	2	1	2	2	1	1	1	5	20
	メール	5	2	1	7	2	4	2	8	5	1	6	5	48
	その他	5	0	0	2	1	3	2	1	1	0	1	0	16
合 計		31	30	32	35	25	27	32	34	36	26	32	30	370

### ②イベントの開催

イベント開催は、学生が、学生生活において、悩んだり困ったりした時に相談室に来談しやすいように、相談員との交流を図り、相談室の敷居を低くする広報活動の一環として行っている。

### 学生相談室イベント

開催日	内容	参加者数（人）
4月26日	自分を知ろう ～仲間作りのヒント発見～	7
11月15日	手話でティーブレイク コミュニケーションを楽しもう	17
12月20日	クリスマスキャンドル作り	12
2月14日	デコチョコ作り	37

開催場所：くつろぎスペースひだまり

### ③保健管理センター便り

保健管理センター便り「ぱたぱた幸せふくろう便」を保健管理センターから年間1回（春）発行した。

### ④障がい学生支援

#### ・発達障がい学生支援

相談窓口を当該学生に伝えるための「発達障がい学生支援のしおり」と、支援実施のための「発達障がい学生支援フローチャート」を作成しており、随時対応した。

#### ・聴覚障がい学生支援

手話通訳士資格があり臨床心理士である学生相談員が、聴覚障がいのある学生の合理的配慮提供のための面接、教職員コンサルテーションを行った。

### 教職員等コンサルテーション件数

	教職員	保護者	その他	合 計
件 数	1,516	72	19	1,607

## 3. 進路支援

### キャリアデザインセンター

#### 概要

社会で活躍できる卒業生の輩出を目的とする専門職種教育支援の拠点として、平成21年4月からキャリアデザインセンターをM棟1階に設置している。また、その円滑な運用のためキャリアデザイン委員会を制定し、各月1回の委員会を開催している。主に卒業年次を対象とした合同病院説明会および企業説明会の企画・運営をはじめ、各種講座・ガイダンスの実施、求人情報の提供、応募書類の作成、面接指導などの「就職支援」や、学生が自己の能力や適性、志望に応じて卒後の進路を主体的に選択できる能力を培うことのできる「キャリア支援」を行うことにより、学生の卒業後の充実した進路選択をサポートしている。

#### 説明会・ガイダンス・講座等

##### <学校法人兵庫医科大学連携病院の会合同病院説明会の開催>

平成28年4月23日（土）、本学体育館アリーナにおいて、薬学部第6学年次、看護学部およびリハビリテーション学部第4学年次と、全学部・全学年の学生（希望者）を対象に病院説明会を開催した。兵庫、大阪の41法人46病院が各々のブースを設けて、436名の参加学生が希望のブースを回り、病院の基本情報、特色・理念や教育システム等についての説明を熱心に聞いた。また、この合同病院説明会は、本格的な就職活動が近づく最終学年だけでなく、それ以外の学年においても計196名が参加し、就職活動支援だけではなく、キャリア形成の支援として貴重な機会となった。

#### <薬学部就職ガイダンス・企業説明会の開催>

薬学部生の就職活動開始に合わせ、平成29年3月28日（火）に薬学部第5学年次を対象に神戸サンボーホールで第6回就職ガイダンスを開催した（午前）。午後からは外部の合同企業説明会に参加し、121名の学生が、参加38社（企業3社、病院2グループ、調剤ドラッグストア33社）のブースを訪問し、企業情報、理念、特色等について17時まで説明を聞いた。

#### <登録販売者資格取得支援の実施>

薬学部生へのエクステンションとしての取組みとして、「登録販売者資格」の取得を促進、支援するため、平成28年4月14日（木）に薬学部第2、3学年次を対象に受験ガイダンスを開催した。109名の学生が参加し、同資格の概要やメリット、また、受験手続の代行やテキストの貸出しなどキャリアデザインセンターで行うサポートの説明を聞いた。参加者のうち、35名の学生が資格試験を受験した。

#### <内部質保証の点検・評価のためのDMの実施>

大学は、理念や目的の実現のために教育の質を保証する制度を整備し、定期的に点検・評価、公表する内部質保証が求められている。本学のディプロマポリシーが、「医療を担う医療専門職者の資質を持った学生に学位を授与する」であることから、就職先および卒業生に医療専門職者として従事しているか、本学の教育が社会および卒業生に役立ったかを問うDMを実施した。過去に3名以上の卒業生が就職した107の病院や企業と、看護学部の卒業生に実施した。

#### <仕事研究セミナーの開催>

キャリア形成支援として、様々な医療専門職者の方々に、実習ではなかなか聞くことができない現場の話や、医療専門職としての心構えや学生時代にしておくべきことなど講演いただく、仕事研究セミナーを開催した。

開催日	内 容	対 象	参加者数（人）
4月23日（土）	卒業生による業界、職種説明（人生の大切な選択、仕事選び）	薬学部 第1～5学年次	75
6月7日（火）	卒業生からのメッセージ（県立こども病院）	看護学部	10
6月7日（火）	ドナルド・マクドナルドハウスの活動	全学部	24
7月11日（月）	病院薬剤師のやりがい	薬学部	36
10月31日（月）	急性期の作業療法について	作業療法学科	27
11月14日（月）	回復期病院での仕事について	理学療法学科	131

#### <兵庫医科大学病院・ささやま医療センター説明会の開催>

就職支援として、各学部の就職活動時期に合わせて兵庫医科大学病院、ささやま医療センターの担当者による病院概要や教育体制についての説明のほか、先輩の就業体験、採用に関する説明、個別相談会を開催した。

開催日	対 象	参加者数（人）
1月6日（金）	リハビリテーション学部 第3学年次	75
2月21日（火）	看護学部 第3学年次	85
2月28日（火）	薬学部 第4学年次	141

### <就職支援講座・セミナー>

主に就職試験前の学生を対象として、履歴書の書き方や面接対策に関する講座を開催した。また、保健師や公務員等を希望する学生についても、就職活動の現状等把握のため、各種ガイダンスや対策講座を開催した。

開催日	内 容	対 象	参加者数(人)
4月8日(金)	社会人スキル対策講座	看護学部 第4学年次	92
4月23日(土)	自己分析講座	看護学部 第1～3学年次	45
4月23日(土)	面接対策講座	薬学部 第6学年次、看護学部 第4学年次	155
8月5日(金)	グループディスカッション対策講座	全学部	26
8月8日(月)	保健師ガイダンス	看護学部	12
8月8日(月)	公務員採用試験対策講座	全学部	31
8月9日(火)	社会人スキル対策講座	リハビリテーション学部 第4学年次	94
3月28日(火)	就職ガイダンス	薬学部 第5学年次	121

### <社会人スキルガイダンスの開催>

主に病院実習等に参加する前の学生に対して、社会人としてのマナーに関する講座を開催した。

開催日	対 象	参加者数 (人)
9月2日(金)	看護学部 第3学年次	87
1月6日(金)	リハビリテーション学部 第3学年次	75
2月21日(火)	看護学部 第3学年次	85

### <キャリアデザインセンターの利用>

キャリアデザインセンターの利用は、延べ2,506件であった。利用目的は、主に応募書類の履歴書の指導・添削、進路などの相談、模擬面接および証明書など各種発行で、その内訳は下表のとおりであった。

(単位：件)

履歴書添削	各種相談	模擬面接	その他	合 計
869	516	306	815	2,506

### 就職状況

学 部		薬学部	看護学部	リハビリテーション学部	
学 科		医療薬学科	看護学科	理学療法学科	作業療法学科
卒業生数		118	93	40	51
内 訳	就職者数	51	92	40	51
	進学者数	1	1	—	—
	その他	66*	—	—	—

※国家試験の結果などで就職に向けて準備中の者  
(平成29年5月31日現在)

## 就職先一覧

薬学部	
病院	兵庫医科大学病院 大阪府済生会茨木病院 関西ろうさい病院 思温病院 中東遠総合医療センター 兵庫県立尼崎総合医療センター 兵庫県立がんセンター 星ヶ丘医療センター 宝塚三田病院 武田病院 西宮協立脳神経外科病院 東住吉森本病院 姫路聖マリア病院 ベリタス病院 ペルランド総合病院 南大阪病院
調剤・ ドラッ グストア	あおぞら調剤薬局 (株) アカカベ (株) アマノ ウエルシア薬局 (株) (株) グッドプランニング (株) クリエイトエス・ディー (株) コクミン (株) サンドラッグ (有) サンミ企画 (株) スギ薬局 トリニティー (株) 日本調剤 (株) フタツカ薬局グループ (株) マツモトキヨシ ゆう薬局グループ (株) レデイ薬局
企業	科研製薬 (株) (株) ツムラ
進学	埼玉大学大学院

看護学部	
	兵庫医科大学病院 兵庫医科大学ささやま医療センター 大阪市立大学医学部附属病院 大阪大学医学部附属病院 京都大学医学部附属病院 神戸大学医学部附属病院 市立伊丹病院 大阪急性期・総合医療センター 大阪府済生会吹田病院 関西ろうさい病院 北播磨総合医療センター 済生会兵庫県病院 市立豊中病院 西神戸医療センター 姫路赤十字病院 兵庫県立淡路医療センター 兵庫県立がんセンター 兵庫県立こども病院 明石医療センター 入江病院 香芝生喜病院 甲南病院 神戸アドベンチスト病院 高槻病院 ツカザキ病院 中村病院 広畑病院 三菱神戸病院 明和病院 淀川キリスト教病院 加古川市 (保健師) 篠山市 (保健師) 三田市 (保健師) 宝塚市 (保健師) N T T 西日本 (保健師)
進学	兵庫県立総合衛生学院



リハビリテーション学部	
理学療法学科	兵庫医科大学病院
	兵庫医科大学ささやま医療センター
	大阪医科大学附属病院
	大垣市民病院
	岡山済生会総合病院
	関西ろうさい病院
	西脇市立西脇病院
	星ヶ丘医療センター
	りんくう総合医療センター
	明石リハビリテーション病院
	赤穂中央病院
	尼崎中央病院
	関西リハビリテーション病院
	協和会病院
	神戸海星病院
	神戸マリナーズ厚生会病院
	神戸リハビリテーション病院
	順心リハビリテーション病院
	新須磨リハビリテーション病院
	高槻病院
	ときわ病院
	西記念ポートアイランドリハビリテーション病院
	馬場記念病院
	東大阪病院
	姫路聖マリア病院
	広畑センチュリー病院
	ポートアイランド病院
	松下記念病院
	耳原総合病院
	森之宮病院
	吉田病院 附属脳血管研究所
	あんしんクリニック
	西川整形外科リハビリクリニック

リハビリテーション学部	
作業療法学科	兵庫医科大学ささやま医療センター
	神戸市立医療センター中央市民病院
	明石市立市民病院
	石川病院
	大池病院
	大阪府済生会泉尾病院
	大村病院
	大山病院
	関西サナトリウム
	岸和田盈進会病院
	神戸協同病院
	神戸ゆうこう病院
	向陽病院
	五条山病院
	仁恵病院
	新生病院
	摂津医誠会病院
	宝塚三田病院
	丹後中央病院
	ときわ病院
	登美ヶ丘リハビリテーション病院
	ハートランドしぎさん
	萩原みさき病院
	はくほう会セントラル病院
	馬場記念病院
	播磨大塩病院
	播磨サナトリウム
	半田中央病院
	東加古川病院
	姫路中央病院
	松本病院
	みきやまりリハビリテーション病院
	名谷病院
	吉田病院 附属脳血管研究所
	吉田病院
	六甲アイランド甲南病院
	分野病院
	介護老人保健施設 ウエルハウス清和台
	児童発達支援センター 浜松市根洗学園
	西宮すなご医療福祉センター
	フローリス介護老人保健施設
	みなとのこども診療所

#### 4. 学生会・課外活動

##### ①活動状況

平成28年4月の時点で、学生会組織3団体、部活動8団体、同好会3団体、登録団体（サークル）19団体が公認を受けて活動している。その後、10月に登録団体3団体が新たに公認を受けた。

##### 大学公認課外活動団体一覧

団体区分	団体名称	所属人数（人）
学生会組織	兵庫医療大学 学生会	33
	兵庫医療大学 大学行事实行委員会	14
	兵庫医療大学 部会	21
小 計		68
部活動団体	兵庫医療大学 バスケットボール部	39
	兵庫医療大学 バドミントン部	52
	兵庫医療大学 野球部	40
	兵庫医療大学 硬式テニス部	39
	兵庫医療大学 サッカー部	38
	兵庫医療大学 卓球部	40
	兵庫医療大学 軽音楽部	132
	兵庫医療大学 Jazz バンド部	81
小 計		461
同好会団体	兵庫医療大学 アーチェリー同好会	11
	兵庫医療大学 バレーボール同好会	86
	兵庫医療大学 剣技同好会	41
小 計		138
登録団体	HUHS バスケットボールサークル	65
	兵庫医療大学 フットサルサークル	66
	兵庫医療大学 ダンスサークル	93
	兵庫医療大学 陸上競技サークル	28
	兵庫医療大学 ヨガサークル	33
	兵庫医療大学 柔道サークル	2
	兵庫医療大学 ソフトテニスサークル	44
	兵庫医療大学 アウトドアサークル	91
	兵庫医療大学 ダーツサークル	24
	兵庫医療大学 水泳サークル	23
	兵庫医療大学 コピーダンスサークル	17
	兵庫医療大学 バドミントンサークル	45
	兵庫医療大学 ソフトボールサークル	14
	兵庫医療大学 ハンドボールサークル	11
	兵庫医療大学 フットサル・ハンドボールサークル	38
	兵庫医療大学 漫画研究サークル	20
	兵庫医療大学 写真サークル	47
	兵庫医療大学 医療研究サークル	24
	兵庫医療大学 書道華道茶道サークル	18
	兵庫医療大学 室内楽団サークル	8
	兵庫医療大学 手話サークル	78
	兵庫医療大学 ボランティアサークル	21
	兵庫医療大学 ポーアイ多職種連携学生ネットワーク	34
小 計		844
合 計		1,511

## 学生会および課外活動関連行事

開催日		行事内容
4月	5日	新入生歓迎会
5月	18日	スポーツ大会
6月	18～19日	課外活動リーダーズキャンプ
	28日	学生総会
7月		
8月		
9月		
10月	9～10日	第9回兵庫医療大学大学祭（海梟祭）
11月	21日	臨時学生総会
		学生会等役員選挙公示
12月	14日	クリスマスイルミネーション点灯式
1月		
2月		
3月	1～2日	公認課外活動団体更新・昇格ヒアリング
	15日	卒業記念パーティー

## ②活動支援

### （１）リーダーズキャンプの実施

各団体の幹部学生に対し、各団体の役割や在り方について理解を深め、学生会を中心とした組織作りを行うことを目的として、リーダーズキャンプを実施した。

### （２）表彰

在学期間中に学生会活動、課外活動等を通じて本学の発展に功労のあった学生に対し、課外活動功労賞を設け、平成28年度卒業生2名を学位授与式にて表彰した。

また、課外活動等において優れた功績のあった個人または団体に対し、課外活動奨励賞を設け、3団体を大学祭にて表彰した。

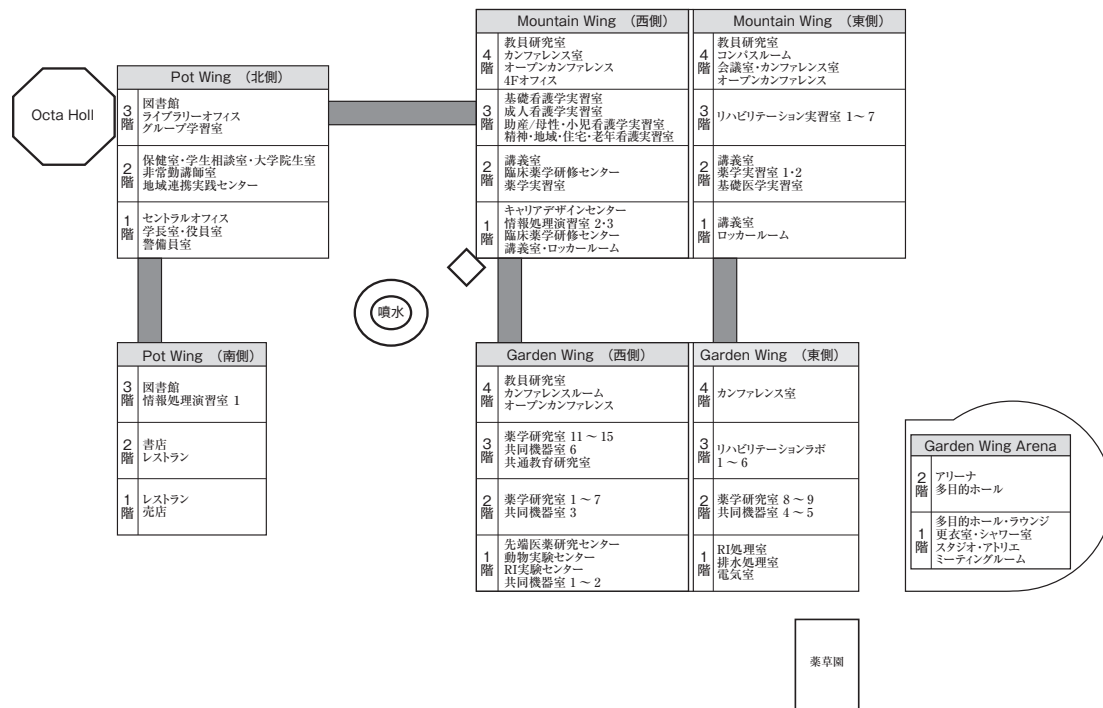
## 課外活動奨励賞受賞団体一覧

対象団体	表彰理由
兵庫医療大学 卓球部	関西医歯薬学生卓球大会、全日本薬学生卓球大会、関西薬学生卓球大会男子個人において、優秀な成績を修めた。
兵庫医療大学 バスケットボール部	フレンズ杯、春季石神杯、全日本薬学生バスケットボール大会において優秀な成績を修めた。また、フレンズ杯では最優秀選手賞を獲得した。
兵庫医療大学 バドミントン部	近畿医歯薬バドミントン秋季リーグにて、女子が1部で優勝、また関西薬学生バドミントン大会女子個人において優秀な成績を修めた。

## 第8章 教育研究等環境（教育研究等環境の整備に関する方針）

### 1. 校地・校舎・施設設備

建物区分	規模・構造	延床面積 (㎡)	使用区分	敷地面積 (㎡)
P 棟	SRC 造 3 階	8,753.86	管理部門、講堂、図書館、食堂、売店、グループ学習室、保健室、地域連携実践センター、大学院生室	49,138
M 棟	SRC 造 4 階	17,025.71	講義室、学生実習室、教員研究室、カンファレンス室、臨床薬学研修センター、キャリアデザインセンター	
G 棟	SRC 造 4 階	9,296.26	研究室、動物実験室、R I 実験室、先端医薬研究センター、リハビリテーションラボ、教員研究室、カンファレンス室	
G棟アリーナ (体育館)	SRC 造 2 階	2,792.26	アリーナ、部室、多目的室	
附属棟	RC 造平屋建	125.06	倉庫	
守衛所	RC 造平屋建	4.2	警備員詰所	49,138
合 計		37,997.35		



### 2. 図書館

#### 概要

図書館面積	2,305㎡
グループ学習室面積	437㎡
閲覧席	408席
グループ学習室	20室
教育用端末	22台
蔵書検索専用端末	2台
視聴覚機器	4台
コイン式コピー機	2台
複合機	1台

## 統計

### ・蔵書数

図書（冊）	30,490
雑誌（種）	463
視聴覚資料（タイトル）	1,632
電子ジャーナル（利用可能種数）	6,959
電子書籍（タイトル）	54

（平成28年度末現在）

### ・年間受入数

	和		洋		合 計	
	冊・点数	金 額	冊・点数	金 額	冊・点数	金 額
図 書	856	2,085,925	5	52,722	861	2,138,647
製本雑誌	590	1,113,912	356	316,872	946	1,430,784
視聴覚資料	6	136,357	0	0	6	136,357
合 計	1,452	3,336,194	361	369,594	1,813	3,705,788

雑誌211種

### ・開館日数・入館者

開館日数	302
入館者数（延数）	116,822

### ・貸出冊数

	学部学生	大学院生	教職員	非常勤講師	PI 4 大学連携	その他	合 計
和 書	10,991	651	546	7	100	121	12,416
洋 書	14	3	9	0	0	0	26
製本雑誌	31	14	7	0	0	0	52
視聴覚資料	10	1	60	0	0	1	72

### ・グループ学習室（20室）の利用

利用総時間数（時間）	7,224
講義利用数（コマ）	92

### ・相互利用

		件 数	複写枚数
依 頼	文献複写	373	1,727
	貸借（図書の借受）	2	—
受 付	文献複写	544	2,395
	貸借（図書の貸出）	0	—

### ・電子ジャーナル利用状況

ダウンロード数	9,215
---------	-------

データベースモデル除く（平成28年1月～12月）



・機関リポジトリ利用状況

アクセス数	2,038
ダウンロード数	2,166

## 特記事項

- ・「兵庫医療大学機関リポジトリ」を公開した。
- ・京都薬科大学教授より雑誌の寄贈があった。
- ・私立大学図書館協会阪神地区協議会研究会を開催した。
- ・グループ学習室廊下側扉の電子錠取り外し工事が行われ、シリンダー錠による開閉とした。
- ・機関リポジトリから、年報および研究業績を公開した。
- ・ブラウジングゾーン教育用端末の椅子を買い替えた。
- ・神戸市立医療センター中央市民病院看護部より、図書・雑誌の寄贈があった。
- ・蔵書点検を行った。

## 3. 先端医薬研究センター

### 概要

兵庫医療大学先端医薬研究センターは、医学および薬学の関連分野の研究推進を図るため、医薬・医療に関する先端的な研究開発を行い、その成果を疾病の予防および治療に反映させることを目的として、薬学部を設置されている。同センターは、G棟1階に配置された薬学部研究室と同様な研究環境をもつ3室の実験室から構成され、それぞれの実験室で特色ある研究プロジェクトが実施されている。このうち、先端医薬研究センター1では、大学発の創薬をめざす研究プロジェクトが実施され、独自の先端技術を活用した外部機関との共同研究が展開されている。先端医薬研究センター2では、学校法人兵庫医科大学中医薬孔子学院の研究部門として中医薬に関する法人内の共同研究活動が実施されている。先端医薬研究センター3では、兵庫医科大学との研究プロジェクトが新たに開始されている。

## 4. RI実験センター

### 概要

RI実験センターは放射性同位元素（ラジオアイソトープ）を用いたトレーサー実験を安全に行うための実験施設である。本センターでは $^3\text{H}$ 、 $^{14}\text{C}$ 、 $^{32}\text{P}$ および $^{125}\text{I}$ 等ベータ線またはガンマ線放出核種の使用が許可されており、生化学実験または分析化学実験に対応した実験器具および放射線計測器が設置されている。本センターは平成20年1月に放射線管理区域として認可され、翌年4月に放射線取扱主任者が選任され、同年9月より稼働している。本センターは放射線障害防止について総括的な監督を行う放射線取扱主任者の他、管理区域責任者、安全管理責任者および施設管理責任者より構成された管理組織にて運営されている。この他に各学部より選出された委員で構成された組織として放射線障害予防委員会およびRI実験センター運営委員会を設置している。前者の委員会では放射線予防規程の改定や放射線管理状況報告書について、後者では本センターの運営および放射線管理に必要な事項についてそれぞれ審議を行っている。

## 特記事項

- ・点検実施  
年2回実施している施設点検では補修等の措置を講ずべき不具合は認められなかった。
- ・非密封RIの保管状況

11品目の<sup>14</sup>C標識化合物として計18. 3 MBq、2品目の<sup>3</sup>H標識化合物および<sup>45</sup>Ca標識化合物36.8MBqの放射性同位元素を保管している。

・放射線業務従事者数

放射線業務従事者の登録者は9名（含む女子登録者2名）であった。いずれも年間被ばく線量は検出限界以下であり、個人実効線量分布は5 mSv/年以下であった。

・放射線管理状況報告書の提出

前年度の放射線管理の記録類を管理状況報告書（許可使用者）として原子力規制委員会へ提出した。

## 5. 動物実験センター

### 概要

動物実験センターおよび同分室は、「動物の愛護および管理に関する法律」、「動物の愛護および管理に関する条例」、「実験動物の飼養および保管ならびに苦痛の軽減に関する基準」、および「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」を厳密に遵守し、適正な実験動物の飼養と動物実験を行うための支援的機能をもつ施設として運営されている。実験動物学を科学的基盤とした薬理学的実験、生理機能実験、行動実験などのバイオサイエンス研究を行う研究者に利用されており、疾病の病態解明や難病の治療法開発などを支援している。

### 統計

・利用者人数（延べ人数）

動物実験センター	8,034
動物実験センター分室	750
計	8,784

・飼育ケージ数（延べ個数）

種	エリア	SPF	CNV	分 室
組換マウス		13,150	—	—
マウス		7,024	8,750	2,821
ラット		0	13,942	—
ハムスター		—	0	1,967
モルモット		—	68	—
ウサギ		—	0	—

・搬入動物数

種	エリア	SPF	CNV	分 室
組換マウス		165※	0	0
マウス		882	911	61
ラット		0	1,596	0
ハムスター		0	0	8
モルモット		0	8	0
ウサギ		0	0	0
ウシガエル		0	66	0

※自家繁殖

## 特記事項

- ・ボイラーおよびオートクレーブ性能検査（日本ボイラー協会）実施
- ・実験動物飼養（保管）施設管理責任者講習会（神戸市）出席
- ・『特定外来生物の飼養等をする数量の増加、減少等の届出（報告）について』提出
- ・エンリッチメント材の使用を開始
- ・微生物統御の質保証の為、モニター動物の飼育期間を延長
- ・モニタリング検査（12月実施）で*S.aureus*が検出された為、クリーンアップを実施
- ・SPFエリアを免疫不全動物飼育室と通常動物飼育室とに分けた運用を開始
- ・CNVラット飼育室における再搬入区域の拡充を実施

## 6. 共同機器室

### 概要

本学の研究・教育活動を推進するための共同利用施設として、高度な研究機器を配した共同機器室がG棟に設置されている。核磁気共鳴装置やフローサイトメーターをはじめとする研究機器が導入され、ライフサイエンスを広くカバーする本学の研究・教育の基盤として重要な役割を担っている。

共同機器室は研究活動の場を提供するばかりでなく、本学研究者の活発な交流や次世代の医療科学を担う学生の教育にも重要な役割を担うことが期待されている。共同機器室の管理・運営は共同機器室運営委員会と共同機器室利用者が連携してこれにあたっている。

共同機器室に設置されている主な研究設備機器を表1. に示す。また平成27年度より共同機器室4と共同機器室6に私立大学等教育研究活性化設備整備事業補助金（文部科学省）の支援を受けたPBLラボラトリを併設している。

表1. 共同機器室研究設備機器一覧

共同機器室 1	超伝導フーリエ変換核磁気共鳴装置（NMR）
	・ NMR system PS600型（600MHz）（Agilent Technologies 社）
	・ JNM-ECX400PKS 型（400MHz）（日本電子（株））
共同機器室 2	・ 生体成分相互作用解析装置 Biacore 3000 システム（GE Healthcare 社）
	・ 走査型電子顕微鏡 SU1510（日立ハイテクノロジーズ社）
共同機器室 3	・ 共焦点レーザー顕微鏡 FV1000-D（オリンパス社）
	・ 正立蛍光顕微鏡 BX51-FL（オリンパス）
	・ Ca <sup>2+</sup> イメージング装置 Fura2 レシオイメージングシステム（浜松ホトニクス社）
	・ マルチガスインキュベーター（TAITEC 社）
	・ HS オールインワン蛍光顕微鏡 BZ-9000（キーエンス社）
	・ 実体顕微鏡 SZ61（オリンパス社）SZX10（オリンパス社）
	・ 倒立ルーチン顕微鏡 CKX41（オリンパス社）
	・ 磁気細胞分離システム AutoMACS（ミルテニー社）
	・ 超音波洗浄機 AU-507CB（EYELA 社）
	・ セルソーター FACS Aria II（ベクトンディッキンソン社）
	・ フローサイトメーター Accuri C6（ベクトンディッキンソン社）
	・ P2 実験室（細胞）

共同機器室 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サーマルサイクラー PCR system 9700 (Applied Biosystems 社)</li> <li>・サーマルサイクラー Veriti (Applied Biosystems 社)</li> <li>・RealTime PCR StepOnePlus-01 (Applied Biosystems 社)</li> <li>・RealTime PCR 7500Fast (Applied Biosystems 社)</li> <li>・レーザースキャナ型イメージアナライザー Typhoon Trio (GE Healthcare 社)</li> <li>・CCD カメラ型イメージアナライザー Image Quant400 (GE Healthcare 社)</li> <li>・卓上超遠心機 OptimaMax-XP (ベックマン社)</li> <li>・高速冷却遠心機 Avanti HP-30I (ベックマン社)</li> <li>・多本架け冷却遠心機 CF12RX (日立工機社)</li> <li>・非観血式自動血圧測定装置 (ラット、マウス) BP-98A-L ((株) ソフトロン)</li> <li>・クリオスタット HYRAX-C-50 (ZEISS 社)</li> <li>・ABI PRISM 310 GENETIC ANALYZER (Applied Biosystems 社)</li> <li>・振動刃ミクロトーム VT1200S (ライカ社)</li> <li>・ポリトロンホモジナイザー PT3100/PT1200E (kinematica 社)</li> <li>・超音波破碎装置 Model 250D-Advanced (Branson 社)</li> <li>・遺伝子導入装置 Xcell コンプリートシステム (Bio-Rad 社)</li> <li>・遺伝子導入装置 スクレオフェクター (Amaga 社)</li> <li>・超純水製造装置 Milli-Q Integral (Merck Millipore 社)</li> <li>・MAXART 大判インクジェットプリンター PX-9550S (EPSON 社)</li> <li>・分光光度計 Nanodrop 1000 (Thermo Scientific 社)</li> <li>・サイトスピン CYTOSPIN4 (ThermoScientific 社)</li> <li>・クロマトグラフィシステム AKTAprime (GE Healthcare 社)</li> </ul>
共同機器室 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低温室</li> <li>・P2実験室 (微生物)</li> <li>・LOCATOR 8 PLUS Rack and Box Systems (Thermo Scientific 社)</li> <li>・超低温フリーザー (-80° C) MDF-U383 (三洋電機社)</li> </ul>
共同機器室 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・超高精度ESI-Q TOF/LC-MS/MS システム micro TOF-Q (Bruker Daltonics 社)</li> <li>・高速液体クロマトグラフ・三次元分析システム La Chrom Elite 2000 三次元分析システム (日立ハイテック社)</li> <li>・高速液体クロマトグラフ・分取分析用システム La Chrom Elite200 分取分析用システム (日立ハイテック社) *紫外吸収検出器セットおよび示差屈折検出器セット</li> <li>・フーリエ変換赤外分光光度計 FT/IR-4100 (日本分光社)</li> <li>・旋光度計 P-2100 (日本分光社)</li> <li>・吸光/蛍光プレートリーダー Spectra Max M2e (Molecular Devices 社)</li> <li>・発光プレートリーダー Spectra Max L Dual Injectors (Molecular Devices 社)</li> <li>・ウルトラマイクロ天秤 XP26 (メトラートレド社)</li> <li>・ロータリーエバポレーター (減圧ポンプ、冷却水循環装置付き) R-210V (ビュッヒ社)</li> <li>・接触還元装置 (水素発生装置付き) CH-100 (石井理化機器)</li> <li>・試料水平型多目的 X 線回折装置 Ultima IV (リガク社)</li> <li>・超純水製造装置 Milli-Q Integral (Merck Millipore 社)</li> <li>・凍結乾燥装置 FDU-2100 (EYELA 社)</li> <li>・角型ドライチャンバー DRC-1000 (EYELA 社)</li> </ul>

## 7. 情報センター

### 概要

情報センターは、担当副学長と学長により指名された情報センター長、各学部・共通教育センターからそれぞれ2名選出された教員、入試・広報課情報系の事務職員で構成される組織である。兵庫医療大学の情報ネットワークを含む情報システムの企画・整備・運用により、本学の教育・研究を支援し、本学の発展に資することを目的としている。

## 8. 医療人育成センター

### 概要

医療人育成センターは、学校法人兵庫医科大学のチーム医療の基本理念を踏まえて、多職種連携のチーム医療研修や医療従事者のスキルアップの支援、兵庫医療大学学生の兵庫医科大学病院ならびにささやま医療センターでの実習支援、兵庫医療大学大学院生の講義支援、兵庫医科大学学生の実習支援、兵庫医療大学と兵庫医科大学の合同授業の支援、臨床研修医・新人看護師の実践能力向上研修および学外からの看護実習生を受入れ支援など、学校法人兵庫医科大学における医療人育成への幅広い取り組みを実施している。

## 9. 臨床薬学研修センター

### 概要

臨床薬学研修センターは、M棟の1階（M-105）と2階（M-205）に位置しており、保険薬局や病院薬局における薬剤師業務を模擬的に演習・実習できるように設置された施設である。施設の構成は、学生が臨場感をもって臨床現場での薬剤師業務の実習ができるように、室内デザイン、設置機器およびシステムなどに工夫が施されており、調剤はもちろんのこと服薬指導やバイタルチェックなどの実習も可能になっている。

本センターは、実務実習事前学習の実習室として中心的な役割を果たしているほか、第4学年次に受験する全国統一薬学共用試験（OSCE）の試験会場の一部に充てている。さらに、学内のゼミナールとしても活用している。

### 病院・薬局実務実習

薬学部の6年制教育において臨床に係る実践的能力を培うためには、実務実習の効果的な実行が不可欠であり、病院および薬局においてそれぞれ11週間の実務実習が義務づけられている。本学では、第5学年次140名が3期（一部は4期）に分かれて、平成28年4月11日から平成29年3月27日の期間で実習施設（病院：77、薬局：125）において、それぞれ11週にわたる実務実習を終了した。

区 分	第1期	第2期	第3期	第4期
病院（4期）	4/11～7/3：6	7/4～9/25：3	9/26～12/11：21	1/10～3/27：3
病院（3期）	5/9～7/24：24	9/5～11/20：56	1/10～3/27：26	
薬局（3期）	5/9～7/24：49	9/5～11/20：54	1/10～3/27：36	



## 10. 薬用植物園

### 概要

セルフメディケーションや全人的医療が重要視され、その目的に適する漢方薬の需要が高まっている。それに伴い、原料として使用される生薬量は年々増加している。また、薬用植物に含有される化合物は現在でも医薬品としての活用が多数見られ、したがって、薬学教育において医薬品原料となる薬用植物や漢方生薬の基原植物を知ることは大変重要である。

本学でも開学時より「薬学部附属薬用植物園」の整備を進め、医療用生薬等の基原植物を観察できる環境を整え学生の教育に寄与している。以下にこれまでの整備状況を記す。

### 施設

兵庫県「大学等との連携による地域創生拠点形成支援事業」に採択され、その中で特に丹波地方で生産される生薬トウキを活かした活動が行われた。それに伴い、活動に用いるトウキの葉の採集のため、標本用とは別にトウキ40株を栽培するスペースを整備した。

### 植物

日本薬局方収載生薬の基原植物を中心に、現在約150種の薬用植物を栽培している。以下にそのリストを示す。(50音順)

### 薬用植物栽培リスト

アカネ、アカメガシワ、アキノワスレグサ、アジサイ、アシタバ、アセロラ、アフラチャン、アマ、アマチャ、アミガサユリ、アロエ、アンズ、イチヨウ、イブキジャコウソウ、ウイキョウ、ウコン、ウスバサイシン、ウツボグサ、ウド、ウマノスズクサ、ウメ、ウンシュウミカン、エビスグサ、エンジュ、オウレン、オオバコ、オケラ、オタネニンジン、オミナエシ、オリーブ、カカオ、カキ（マメガキ）、ガジュツ、カラスビシャク、カリン、カルダモン、カロライナジャスミン、カワラナデシコ、カワラヨモギ、キキョウ、キク、キササゲ、キツピ、キハダ、ギボウシ、キンミズヒキ、クコ、クサノオウ、クスノキ、クチナシ、クヌギ、クララ、クリスマスローズ、クロタネソウ、クロモジ、クワ、ケジギタリス、ケットウ、ゲンノショウコ、コウホネ、コガネバナ、ゴシュユ、コノテガシワ、コンフリー、サイカチ、サクラ、ザクロ、サボンソウ、サラシナショウマ、サンザシ、サンシュユ、サンショウ、ジギタリス、シデコブシ、シナマオウ、シナレンギョウ、シャクナゲ、シャクヤク、ジャノヒゲ、シラン、ジロボウエンゴサク、スイセン、ストロファンツス、セネガ、センキュウ、センダン、センナ、センリョウ、タイサンボク、ダイダイ、タケニグサ、タチバナ、タマスダレ、タムシバ、タラノキ、チガヤ、チャ、チョウセンゴミシ、ツワブキ、テンダイウヤク、トウキ、トウネズミモチ、トキワイカリソウ、トクサ、ドクダミ、トチバニンジン、トチュウ、トリカブト、ナツメ、ナルコユリ、ナ、テン、ニガキ、日本ハッカ、ニラ、ニワトコ、ヌルデ、ノイバラ、ビル、ハゴロモジャスミン、ハ、リドコロ、ハス、ハトムギ、ハナスゲ、バナナ、ハナミョウガ、パパイア、ハブソウ、ハマゴウ、ハマナス、ハマボウフウ、ビャクブ、ヒヨス、ビワ、フキノトウ、ヘラオオバコ、ホウノキ、ボタン、マルバアイ、マンゴー、マンリョウ、ミシマサイコ、ミラクルフルーツムラサキ、メハジキ、モモ、ヤブツバキ、ヤマコウバシ、ヤマゴボウ、ヤマザクラ、ヤマノイモ、ヤマボウシ、ヤマモモ、レモン、グラス、ワタ（計154種）

## 11. 教育研究等の支援

### 概要

本学では、研究活動を支援するため、毎年度「科学研究費補助金公募要領等説明会」「科学研究費補助金執行に関する説明会」を開催し、公募促進と研究費の適正執行を推進している。平成28年度に実施した説明会等を次表に記す。また、その他の競争的資金についても、研究支援体制を確立しながら教員への本学ホームページにて公募情報を提供している。

### 研究倫理啓蒙・研究支援説明会

開催日	内 容	対 象	参加者数（人）
7月21日	平成28年度公的研究費執行に関する説明会	研究者・事務職員	83
10月7日	平成29年度科学研究費助成事業公募要領等説明会	研究者・事務職員	19
1月30日	平成28年度研究に関するコンプライアンス研修会	研究者・事務職員	142

## 第9章 社会連携・社会貢献（社会との連携・協力に関する方針）

### 1. 地域連携実践センター

#### 概要

地域連携実践センターは、本学の開学と同時にP棟の2階に設置され、地域連携推進委員会を中心に、本学教員がそれぞれの専門分野に則して、地域住民の方々が参加しやすい公開講座や健康相談事業などを実施している。平成20年度からは「ポーアイ4大学連携事業」の一つとして本学に設置された「ポーアイ健康・生活支援ステーション」と連動する実践活動と地域連携実践センター独自の活動を行っている。

本学の特色として、教育研究分野すべてが生活と密接にかかわる分野であることから、地域連携を重視し、地域連携を推進するため「地域連携推進委員会」を組織、「地域連携実践センター」をその活動主体としている。本委員会は地域連携実践センターの運営および本学の地域連携に関する企画を立案し、本学教員による市民健康公開講座の開催および個別の健康相談事業、地域交流プロジェクト等を実施している。

地域連携実践センターでは、「公開講座・健康相談」、「地域交流プロジェクト」、「講演会・ワークショップ」の3つのカテゴリーの企画を実施している。また、イベント開催時以外にも地域住民に同センターを開放し、本学教員の教育研究活動成果のポスター、漢方薬処方や生薬標本も展示して、医療に関するさまざまな情報を公開している。また、医療関係から子供の絵本に至るまで200冊以上の書籍を購入し、地域住民の方々が閲覧できるように図書を開架している。ホームページ上に蔵書リストを公開し、蔵書の貸出しやコピーサービスも行っている。この他、健康や医療などに関する情報検索ができるようにインターネットに接続した2台のパソコンを設置したり、子供が自由に遊べるように玩具を備えた部屋を設置したりしている。

#### 特記事項

##### ・ナレッジキャピタル事業

神戸市による「大学都市神戸」のイメージ戦略としてスタートした「大学都市！KOBE発信プロジェクト」は、平成28年度で3年目を迎える。兵庫医療大学は、市内の8大学と共に当該事業に参画し、平成28年4月22日（金）～5月21日（土）、「ナレッジキャピタル」内の「アクティブラボ」において展示を行い、土・日・祝日には、イベントを開催した。また、「アクティブスタジオ」において公開セミナー等を開催した。

参画大学：兵庫医療大学、甲南大学、神戸学院大学、神戸常盤大学、神戸女子大学、神戸親和女子大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸市外国語大学

## イベント・講演会一覧表

### ナレッジキャピタル事業・公開講座等 一覧表

アクティブラボ イベント（平成28年4月22日（金）～5月21日（土））

開催日	内 容	参加者数(人)
4月24日（日）	血管年齢測定	267
4月30日（土）		
5月8日（日）		
5月14日（土）		
4月23日～5月21日 土日祝（計13日）	ボードトレーナー	1,026
4月24日（日）	からだ成分分析 （インボディ）	312
4月30日（土）		
5月1日（日）		
5月5日（木・祝）		
5月8日（日）		
5月14日（土）		
5月15日（日）		
4月23日（土）	漢方茶	533
4月29日（金・祝）		
5月3日（火・祝）		
5月7日（土）		
5月21日（土）		

### アクティブスタジオ イベント

開催日	内 容	担当者	参加者数(人)
4月10日（日）	薬学部生涯学習セミナー 武庫川・ボーアイ EBM 倶楽部	薬学部 講師 清水 忠	約170
4月30日（土）	光と色の不思議な世界へようこそ！	薬学部 非常勤講師 石崎 真紀子	
7月30日（土）	災害におけるリュウマチ看護と支援の方法	看護学部 教授 神崎 初美	
10月22日（土）	薬学部生涯学習セミナー 服薬指導に活かせる薬物動態	薬学部 教授 天野 学	
1月9日（月・祝）	薬学部生涯学習セミナー 武庫川・ボーアイ EBM 倶楽部	薬学部 講師 清水 忠	

## ・地域交流プロジェクト一覧表

### ポーボキ・ピース・ネットワーク

開催日	内 容	担当者	参加者数(人)
10月15日	あなたも、平和のねと一緒に健康・安全・安心と平和について感じたり、考えたりしませんか？	薬学部 准教授 桂木聡子	11

### がんグループサポートプログラム「おしゃべりカフェ」

開催日	内 容	担当者	参加者数(人)
8月27日	がんの体験と私の気持ち	看護学部 講師 府川晃子	26
9月3日	日々の健康と生活への対応		
9月10日	さまざまな資源と役立つ情報		

いつまでも自分の口から食べ続けるために

開催日	内 容	担当者	参加者数(人)
11月8日	嚥下機能低下予防講座と検診	薬学部 准教授 桂木聡子	66
12月17日	やわらか食クリスマス～ホテルのやわらかコース料理～		

クリニカル・カフェ：対話の中で考える生老病死

開催日	内 容	担当者	参加者数(人)
6月11日	健康ってどういうこと？	共通教育センター 教授 紀平知樹	73
7月9日	老いること		
10月15日	自立できるって？		
12月17日	生きることの意味		
3月22日	生きがいは無くてはならないか？		

歩数を増やして健康になりましょう！

開催日	内 容	担当者	参加者数(人)
7月7日	身体活動量増加プロジェクト	リハビリテーション学部 講師 森沢知之	74

いつまでもキレイにあるきましょう！

開催日	内 容	担当者	参加者数(人)
5月14日	股関節疾患に対する運動療法 ～筋トレとストレッチ、歩行練習の実践～	リハビリテーション学部 講師 塚越果	40

地域における介護予防推進サポーターの養成プロジェクト

開催日	内 容	担当者	参加者数(人)
2月16日	介護予防概論 介護予防のために知っておきたい体力の知識 講師：リハビリテーション学部 講師 永井宏達	リハビリテーション学部 講師 永井宏達	85
3月2日	介護予防のための知っておきたいうちの知識 講師：リハビリテーション学部 教授 松井徳造		
3月9日	介護予防のための知っておきたい関節痛の知識 講師：リハビリテーション学部 教授 藤岡宏幸		
3月16日	介護予防のための知っておきたい生活習慣病の知識 講師：リハビリテーション学部 講師 宮本俊明		
3月23日	介護予防のための知っておきたい心肺機能の知識 講師：リハビリテーション学部 教授 玉木彰		

ナイチンゲールの「看護覚え書」を読む

開催日	内 容	担当者	参加者数(人)
7月2日	ナイチンゲールの7つの素顔と「看護覚え書」	看護学部 講師 魚崎 須美	57
7月9日	ホームホスピス「神戸なごみの家」の7年		
9月3日	ナイチンゲールの「看護覚え書」を読む～看護の原点～		
9月24日	ナイチンゲールの「看護覚え書」を読む～具体的な看護～		

リラクゼーションを取り入れた健やかな生活を目指して

開催日	内 容	担当者	参加者数(人)
10月22日	・手浴とハンドマッサージ ・リラクゼーションを取り入れた健やかな生活のポイントについてミニレクチャー	看護学部 講師 鈴木みゆき	40
12月3日			
1月28日			

全国同時七夕講演会2014

開催日	内 容	担当者	参加者数(人)
7月8日	惑星のふしぎ	共通教育センター 教授 加藤精一	50



## 2. 社会学連携推進機構

### 概要

本機構は、医療、福祉、介護、健康づくり、未病などの観点から、地域の住民、地方自治体、公共団体、医療福祉施設、各種企業など、つまり、地域の社会と医療総合大学である本学との連携活動において、異なる分野の人たちをつなぐプラットフォームとしての役割を担うとともに、社会学連携に関するノウハウの蓄積、新しい社会学連携形態の企画立案にも取り組むために平成27年4月1日に発足した。本機構の目的は、以下に記した地域社会と本学の連携活動に関わる方針「社会学連携ポリシー」に基づき、本学の教育・研究成果を広く社会に還元し、大学の重要な使命の一つである「社会貢献」を精力的に実践することである。

### 特記事項

自治体・企業および地域医療コミュニティとの連携を基盤とした本学の教学活動に対して助言を行う組織として、平成28年7月に「社会学連携アドバイザーボード」を設置した。

#### ・地方創生を目指して

兵庫県「平成28年度学生等による地域貢献活動推進事業」に、薬学部東洋医薬部門の研究室やゼミに所属する学生達の企画が採択された。薬学部5年・池田実姫さんをリーダーとする21人の学生達が、丹波市山南町において、トウキ栽培を体験したり、「さんなん和田漢方の里まつり」の運営を支援したりした。新聞記事によると、学生達は、漢方紹介ポスターの展示と創作トウキ料理の試食会を行い、漢方の里まつりを大いに盛り上げたようである。

また、薬学部・教員チーム「薬活オウルズ」（代表・前田初男、青木俊二、戴毅、岩岡恵実子、石崎真紀子）の「もっと兵庫の薬草を知ろう・広めよう・味わおうプロジェクト」が兵庫県「平成28年度大学等との連携による地域創生拠点形成支援事業」に採択された。同プロジェクトの拠点を丹波市薬草薬樹公園内に開設し、平成29年度から本格的に活動に取り組む。なお、平成29年3月5日に同公園内にて開催したキックオフ・シンポジウムには約350名の地域住民が集い、同プロジェクトの活動目的などについて地域との情報共有が図られた。

#### ・地域医療を担う人材の育成

兵庫医療大学ポーアイ・コモンズおよび篠山コモンズをサービス・ラーニングの場として活用し、地域医療を担う人材の育成に取り組んでいる。ポーアイ・コモンズでは「兵庫医療大生による健康チェック体験」を本学主催の公開講座後に開催した。篠山コモンズでは篠山市主催の健康教室「お試しクラブ～いきいきデカボー体操～」などを支援した。これらの活動には、毎回20名以上の地域住民が参加した。表1は平成28年度サービス・ラーニングの実施実績である。なお、篠山コモンズでの活動は、篠山市におけるサービス・ラーニングの実践について、平成28年8月1日に本学と篠山市健康福祉部とが締結した協定に基づくものである。

表 1. 平成28年度 兵庫医療大学ポーアイ・コモنز/篠山コモنزにおけるサービス・ラーニングの実施実績

日 時	コモنز	参加学生数
6月25日（土）	ポーアイ	7
8月12日（金）	篠 山	5
9月2日（金）	篠 山	1
9月6日（火）	篠 山	1
9月16日（金）	篠 山	3
9月17日（土）	ポーアイ	4
3月12日（日）	篠 山	4
3月18日（土）	ポーアイ	4

平成28年度も「私立大学等改革総合支援事業タイプ2」に採択されたので、「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」により両コモنزを整備した。篠山コモنزには全自動血圧計と内臓脂肪計を新たに設置し、本学だけでなく篠山市健康福祉部の活動環境をより一層充実した。また、本学と神戸市中央区保健福祉部との連携に基づいたサービス・ラーニングを実践するため、物忘れ相談プログラムを導入した。

#### ・共同研究・受託研究の推進

表2に平成28年度に実施した共同研究・受託研究をまとめた。平成27年度からの継続研究が5件、平成28年度から開始した新規の共同研究8件と受託研究2件である。

その中で、摂南大学との共同研究は、本学初の取り組みである。この研究により開発されたチーム・ベイスド・ラーニング（TBL）プログラムは、薬学部の初年次教育に活用されている。また、研究担当者の薬学部・清水忠と摂南大学・薬学部・安原智久先生は、日本薬学会第132年会において、平成29年3月25日（土）に開催されたシンポジウム「薬学生・薬剤師に実践的なEBM教育を進めていこう！」のオーガナイザーを務めた。TBLなどの新しい教育方法が注目される中、本シンポジウムは、立ち見が出るほど大盛況であった。

表 2. 平成28年度 共同・受託研究一覧

	共同・受託研究機関	学内担当者*
平成27年度	国立研究開発法人 理化学研究所 (共同研究)	薬・教授 戴 毅
	サントリーグローバル イノベーションセンター (共同研究)	共セ・講師 土江 伸誉
	国立大学法人 浜松医科大学 (共同研究・課題1)	薬・講師 中野 博明
	国立大学法人 浜松医科大学 (共同研究・課題2)	薬・講師 中野 博明
	寺尾製粉所 (受託研究)	薬・教授 青木 俊二

	共同・受託研究機関	学内担当者*
平成28年度	株式会社 西山酒造場 (共同研究)	薬・教授 前田 初男
	摂南大学 (共同研究)	薬・講師 清水 忠
	千寿製薬 (共同研究)	薬・教授 田中 明人
	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (受託研究)	薬・教授 田中 明人
	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (受託研究)	看・准教授 田中 登美
	株式会社 パナソニック (共同研究)	リハ・准教授 坂口 顯
	ユニ・チャーム株式会社 (共同研究)	リハ・教授 川口 浩太郎
	株式会社ユニバル (共同研究)	リハ・講師 塚越 累
	白鷗株式会社 (受託研究)	薬・准教授 前田 拓也
	株式会社ビーテンド (受託研究)	リハ・教授 川口 浩太郎
	クオール株式会社 (共同研究)	薬・教授 天野 学
	株式会社 阪神調剤薬局 (共同研究)	薬・教授 天野 学

\*薬：薬学部、リハ：リハビリテーション学部、共セ：共通教育センター

#### ・「ものづくり」支援

平成27年度「私立大学等改革総合支援事業タイプ3」に採択された。それに伴い、「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」としてLC/MSとGC/MSを新たに導入し、学内にプロジェクト・ベースド・ラーニング（PBL）ラボラトリーを開設した。平成28年度も同ラボラトリーを卒業研究に取り組んでいる薬学部第5・6学年次生のPBLの場として活用した。題材としては、黒豆茶、キンセンカ茶、トマトパウダーなどを扱った。

一方、本学と株式会社ワールドは、平成27年度に医療ウェア開発に関する連携協定を締結し、ワールドと社学連携推進機構および看護学部が「神戸スクラブ」の協働開発に挑んだ。この取り組みに、平成28年度から株式会社ナガサワ文具センターも参画し、神戸ボルドーと港島ブルーの2色からなる「神戸スクラブ」の共同開発に成功した。平成28年10月から販売が開始され、現在も、好評販売中である。

#### ・「まちづくり」支援

平成28年5月に兵庫県立こども病院がポートアイランドに移転してきた。これに伴い、ドナルド・マクドナルド・ハウス神戸が、同病院に隣接して設立された。本学公認サークル「ポーアイ多職種連携学生ネットワーク（ポーアイネット）」の学生達がボランティアとして同ハウスの運営を支援している。また、ポーアイネットの学生達は、ポートアイランド内のチャイルド・ケモ・ハウスの活動も支援している。10月13日に開催された小児がん患者さん17組の「キッザニア甲子園」訪問を15名の学生たちがサポートした。これからも、学生達による「医療のまち」づくりを、社学連携推進機構として支援していく予定である。

なお、チャイルド・ケモ・ハウスとは、平成29年2月1日に連携協定を締結した。

### 3. 高大連携

#### 2016年度 進学相談会

	開催日	ガイダンス名称	会 場
1	4月9日	梅田：看護進学相談会	グランフロント
2	4月16日	ココロとカラダを考える進学相談会（天王寺）	天王寺ミオ
3	4月16日	看護学部進学フェア	ヒルトンプラザウェスト・オフィスタワー
4	4月17日	ココロとカラダを考える進学相談会（神戸）	三宮研修センター
5	4月19日	会場進学相談会（加古川）	加古川プラザホテル
6	4月20日	医歯薬・看護・医療系進学相談会（天王寺）	天王寺都ホテル
7	4月20日	篠山地区合同ガイダンス	篠山地区合同ガイダンス
8	4月24日	ココロとカラダを考える進学相談会（梅田）	ABC-MART 梅田ビル
9	4月27日	医歯薬・看護・医療系進学相談会（岡山）	岡山コンベンションセンター
10	4月27日	明石地区合同ガイダンス	明石市立産業交流センター
11	4月29日	ココロとカラダを考える進学相談会（京都）	メルパルク京都
12	4月30日	医歯薬・看護・医療系進学相談会（京都）	メルパルク京都
13	5月2日	三田地区合同ガイダンス	キッピーモール
14	5月10日	会場進学相談会（高槻）	高槻現代劇場文化ホール
15	5月13日	進路・進学ガイダンス（徳島）	あわぎんホール
16	5月14日	医歯薬・看護・医療系進学相談会（高松）	サンポートホール高松
17	5月14日	大学・短期大学進学相談会（天王寺）	天王寺ミオ
18	5月15日	看護系学校合同説明会in中・西播磨	イーグレひめじ地下2F
19	5月24日	マイナビ進学FESTA2016（岡山）	岡山コンベンションセンター
20	5月25日	大学・短期大学進学相談会（姫路）	ホテル日航姫路
21	5月25日	会場進学相談会（洲本）	洲本市文化体育館
22	5月25日	赤穂地区合同ガイダンス	赤穂市文化会館
23	5月29日	大学フェア2016（福岡）	福岡ファッションビル
24	5月30日	会場形式進学相談会（津山）	津山国際ホテル
25	5月31日	進路・進学ガイダンス（三木）	三木市立市民活動センター
26	6月1日	看護・医療系会場説明会（姫路会場）	姫路・西はりま地場産業センター
27	6月2日	看護・医療系会場説明会（明石会場）	明石商工会議所
28	6月4日	医療・教育・福祉・健康系進学ガイダンス（梅田）	阪急うめだホール
29	6月5日	進学ラボフェア 歯・薬・看護分野大学進学説明会（梅田）	アクセス梅田フォーラム
30	6月8日	大学・短期大学進学相談会（徳島）	ホテルクレメント徳島
31	6月9日	大学・短期大学進学相談会（高知）	ザクラウンパレス新阪急高知
32	6月11日	薬学部進学相談会	梅田スカイビルタワーウェスト
33	6月12日	医歯薬・看護・医療系進学相談会（梅田）	梅田スカイビルタワーウェスト
34	6月13日	看護・医療・福祉系進学相談会（住吉地区）	住吉区民センター
35	6月14日	大学・短期大学進学相談会（神戸）	生田神社会館
36	6月16日	医療・教育・福祉・健康系進学ガイダンス（高松）	高松商工会議所
37	6月18日	医歯薬・看護・医療系進学相談会（姫路）	ピオレ姫路
38	6月18日	夢ナビライブ	インテックス大阪

	開催日	ガイダンス名称	会 場
39	6月19日	医歯薬・看護・医療系進学相談会（神戸）	神戸国際会館
40	6月20日	会場形式進学相談会（堺）	堺市産業振興センター
41	6月21日	医療・教育・福祉・健康系進学ガイダンス（岡山）	岡山コンベンションセンター
42	6月22日	マイナビ進学FESTA2016（広島）	グリーンアリーナ広島
43	6月22日	看護・医療・福祉系進学相談会（神戸地区）	生田神社会館
44	6月23日	看護・医療・福祉系進学相談会（姫路地区）	じばさんびる
45	6月26日	医歯薬・看護・医療系進学相談会（広島）	TKPガーデンシティ広島
46	7月4日	進路総合研究ゼミナール（高校教員対象）	大阪商工会議所
47	7月8日	学び博（明石）	明石市立産業交流センター
48	7月9日	進学ラボフェア 歯・薬・看護分野大学進学説明会（梅田）	アクセス梅田フォーラム
49	7月9日	医療系学部・大学セミナー&進学ガイダンス（梅田）	梅田スカイビルタワーウエスト
50	7月10日	大学フェア2016（大阪）	グランフロント大阪
51	7月10日	看護医療系学校合同説明会	東京アカデミー神戸校
52	7月12日	マイナビ進学フェスタ（大阪会場）	インテックス大阪
53	7月21日	会場形式進学相談会（尼崎）	あましんアルカイックホール・オクト
54	7月23日	全国国公立・有名私大相談会2015	大阪国際会議場
55	7月23日	進学説明会	兵庫県看護協会
56	7月27日	高松高等予備校主催進学ガイダンス（高松）	高松高等予備校
57	7月31日	薬学部進学セミナー	和歌山ビック愛
58	9月3日	大学・短期大学進学相談会（天王寺）	天王寺ミオ
59	9月3日	看護・医療系7大学合同入試相談会	梅田スカイビルタワーウエスト
60	9月4日	大学・短期大学進学相談会（神戸）	ラッセホール
61	9月11日	薬学部進学セミナー	ふれあいの里
62	9月13日	関西地区看護系学部・学科入試説明会 （高校教員対象）	あべのハルカス貸し会議室
63	9月14日	関西地区看護系学部・学科入試説明会 （高校教員対象）	梅田センタービル貸会議室
64	9月13日	2016秋季進学ガイダンス	生田神社会館
65	9月15日	大学・短期大学進学相談会（岡山）	岡山コンベンションセンター
66	9月21日	大学・短期大学進学相談会（高松）	レグザムホール
67	9月21日	大学・短期大学進学相談会（福山）	福山ニューキャッスル
68	10月7日	看護・医療系会場説明会（姫路会場）	姫路・西はりま地場産業センター
69	11月2日	看護・医療系進学相談会（奈良会場）	奈良商工会議所
70	11月9日	看護・医療系進学相談会（西宮会場）	西宮市民会館
71	11月15日	大学・短期大学進学相談会（岡山）	岡山コンベンションセンター
72	11月15日	看護・医療系進学相談会（泉南会場）	貝塚市民会館
73	11月16日	大学入試・入学説明会	三宮コンベンションセンター
74	11月17日	鈴蘭台地区合同ガイダンス	すずらんホール
75	11月18日	看護・医療系進学相談会（高槻会場）	高槻現代劇場文化ホール
76	11月26日	一般入試直前進学相談会（大阪会場）	難波御堂筋ホール
77	12月13日	看護・医療系進学相談会（和歌山会場）	和歌山JAビル
78	12月14日	進路フェスタ2016（神戸会場）	神戸国際展示場



	開催日	ガイダンス名称	会 場
79	12月14日	看護・医療系進学相談会（京都会場）	メルパルク京都
80	12月17日	医歯薬・看護・医療系進学相談会（梅田）	阪急グランドビル
81	12月20日	会場形式進学相談会（西神会場）	キャンパススクエア
82	12月21日	看護・医療系進学相談会（堺会場）	国際障害者交流センター ビッグ・アイ
83	12月21日	高砂地区合同ガイダンス	高砂市文化保健センター
84	1月31日	会場形式進学相談会（篠山会場）	篠山総合スポーツセンター
85	2月8日	会場形式進学相談会（茨木会場）	茨木市福祉文化会館
86	2月21日	看護・医療系進学相談会（姫路会場）	じばさんびる
87	3月3日	宝塚地区合同ガイダンス	アピアホール
88	3月6日	福崎地区合同ガイダンス	福崎町エルデホール
89	3月8日	看護・医療系進学相談会（大阪会場）	難波御堂筋ホール
90	3月10日	看護・医療系進学相談会（伊丹会場）	いたみホール
91	3月18日	看護・医療系学校説明会	関西看護医療予備校 天王寺校
92	3月22日	看護医療系会場説明会	じばさんびる
93	3月28日	会場形式進学相談会（神戸会場）	生田神社会館
94	3月30日	会場形式進学相談会（なんば会場）	難波御堂筋ホール

## 2016年度 高校内ガイダンス

	開催日	高校名	分類タグ
1	4月14日	松蔭高等学校	学校別/2年生
2	4月18日	姫路市立琴丘高等学校	学校別/3年生
3	4月20日	兵庫県立西宮甲山高等学校	学校別/3年生
4	4月25日	兵庫県立伊川谷高等学校	学校別/3年生
5	4月26日	神戸市立神港高等学校	学校別オープン形式/3年生
6	4月27日	兵庫県立西宮今津高等学校	2年生/薬学分野別/看護分野別
7	5月2日	兵庫県立北須磨高等学校	3年生/薬学分野別
8	5月2日	神戸龍谷高等学校	学校別/3年生
9	5月6日	兵庫県立北須磨高等学校	3年生/リハビリテーション分野別
10	5月10日	愛徳学園高等学校	学校別/3年生/2年生
11	5月12日	兵庫県立加古川南高等学校	学校別/3年生
12	5月13日	兵庫県立北須磨高等学校	3年生/看護分野別
13	5月13日	兵庫県立尼崎北高等学校	学校別/3年生
14	5月19日	大阪府立柴島高等学校	学校別/3年生
15	5月25日	兵庫県立川西緑台高等学校	3年生/リハビリテーション分野別
16	5月26日	梅花高等学校	学校別/3年生
17	5月26日	兵庫県立柏原高等学校	学校別/3年生/2年生
18	5月27日	兵庫県立北須磨高等学校	3年生/リハビリテーション分野別
19	5月27日	兵庫県立伊川谷北高等学校	学校別/3年生
20	5月30日	夙川学院高等学校	学校別/3年生
21	6月2日	大阪高等学校	学校別/3年生
22	6月3日	兵庫県立北須磨高等学校	3年生/看護分野別
23	6月11日	甲南女子高等学校	学校別/3年生/2年生/1年生/保護者



	開催日	高校名	分類タグ
24	6月14日	兵庫県立加古川南高等学校	2年生/看護分野別
25	6月14日	兵庫県立加古川南高等学校	2年生/リハビリテーション分野別
26	6月15日	松蔭高等学校	学校別/3年生
27	6月16日	兵庫県立伊丹高等学校	学校別/3年生
28	6月16日	兵庫県立網干高等学校	学校別/3年生
29	6月17日	兵庫県立北須磨高等学校	3年生/リハビリテーション分野別
30	6月22日	兵庫県立高砂南高等学校	学校別/3年生
31	6月22日	兵庫県立尼崎小田高等学校	学校別/3年生
32	6月23日	兵庫県立三田西陵高等学校	学校別/3年生
33	6月23日	兵庫県立神戸甲北高等学校	学校別/3年生
34	6月24日	兵庫県立加古川北高等学校	1年生/看護分野別
35	6月27日	姫路市立琴丘高等学校	2年生/看護分野別/職業理解
36	6月27日	浪速高等学校	学校別オープン形式/3年生
37	7月1日	神戸市立六甲アイランド高等学校	2年生/リハビリテーション分野別
38	7月4日	大阪府立山田高等学校【保護者向け】	学校別オープン形式/保護者
39	7月6日	兵庫県立川西緑台高等学校	模擬授業/2年生/1年生/薬学分野別
40	7月6日	兵庫県立生野高等学校	学校別/3年生/2年生
41	7月8日	愛徳学園高等学校	1年生/中学生/薬学分野別
42	7月8日	兵庫県立西宮今津高等学校	1年生/職業理解/リハビリテーション分野別
43	7月8日	兵庫県立西宮今津高等学校	学校別オープン形式/2年生
44	7月11日	兵庫県立東播磨高等学校	模擬授業/2年生/薬学分野別
45	7月11日	兵庫県立三木北高等学校	模擬授業/2年生/リハビリテーション分野別
46	7月11日	兵庫県立明石北高等学校	1年生/リハビリテーション分野別
47	7月11日	大阪府立桜塚高等学校	学校別/2年生
48	7月12日	兵庫県立明石北高等学校	模擬授業/2年生/薬学分野別
49	7月12日	兵庫県立明石南高等学校	2年生/看護分野別
50	7月12日	兵庫県立明石城西高等学校	1年生/リハビリテーション分野別
51	7月12日	兵庫県立宝塚北高等学校	学校別/3年生
52	7月13日	兵庫県立尼崎小田高等学校	2年生/薬学分野別
53	7月13日	兵庫県立武庫荘総合高等学校	学校別オープン形式/2年生
54	7月14日	兵庫県立高砂南高等学校	1年生/リハビリテーション分野別
55	7月14日	兵庫県立加古川北高等学校ガイダンス	学校別/3年生/2年生
56	7月15日	兵庫県立三木高等学校	模擬授業/1年生/リハビリテーション分野別
57	7月15日	兵庫県立川西北陵高等学校	2年生/リハビリテーション分野別
58	7月15日	兵庫県立芦屋高等学校	学校別/3年生
59	7月15日	兵庫県立西宮南高等学校	学校別/3年生
60	7月27日	報徳学園高等学校	学校別/3年生
61	9月5日	兵庫県立明石清水高等学校	1年生/看護分野別
62	9月7日	兵庫県立宝塚西高等学校	1年生/リハビリテーション分野別
63	9月23日	兵庫県立明石西高等学校	学校別オープン形式/2年生
64	9月26日	兵庫県立伊川谷高等学校	模擬授業/2年生/薬学分野別
65	10月3日	兵庫県立柏原高等学校	3年生/2年生/1年生/薬学分野別

	開催日	高校名	分類タグ
66	10月3日	西宮市立西宮東高等学校	2年生/1年生/看護分野別
67	10月7日	大阪女学院高等学校	学校別/2年生
68	10月12日	兵庫県立神戸甲北高等学校	模擬授業/1年生/薬学分野別
69	10月13日	兵庫県立夢野台高等学校	職業理解/看護分野別/ リハビリテーション分野別
70	10月18日	兵庫県立西宮甲山高等学校	1年生/リハビリテーション分野別
71	10月20日	神戸市立六甲アイランド高等学校 (SSH)	模擬授業/2年生/看護分野別
72	10月20日	神戸市立六甲アイランド高等学校 (SSH)	模擬授業/2年生/薬学分野別
73	10月31日	大阪市立桜宮高等学校	模擬授業/2年生/薬学分野別
74	11月9日	兵庫県立尼崎小田高等学校	2年生/1年生/リハビリテーション分野別
75	11月10日	神戸市立六甲アイランド高等学校 (SSH)	2年生/体験実習/薬学分野別
76	11月11日	梅花高等学校	1年生/薬学分野別
77	11月11日	兵庫県立網干高等学校	模擬授業/2年生/リハビリテーション分野別
78	11月16日	神戸常盤女子高等学校	学校別オープン形式/2年生
79	11月17日	兵庫県立芦屋高等学校	模擬授業/2年生/1年生/リハビリテーション 分野別
80	11月17日	兵庫県立網干高等学校	学校別
81	11月17日	姫路市立飾磨高等学校	学校別/2年生
82	11月19日	育英高等学校	1年生/職業理解/看護分野別
83	12月9日	兵庫県立高砂南高等学校 (保護者対象)	学校別/2年生/保護者
84	12月13日	兵庫県立福崎高等学校	模擬授業/2年生/リハビリテーション分野別
85	12月14日	兵庫県立三木高等学校	模擬授業/2年生/リハビリテーション分野別
86	12月14日	兵庫県立明石高等学校	学校別/2年生
87	12月15日	尼崎市立尼崎高等学校	学校別/2年生
88	12月16日	兵庫県立伊川谷北高等学校	模擬授業/2年生/薬学分野別
89	12月16日	兵庫県立舞子高等学校	学校別/2年生
90	12月19日	兵庫県立三田西陵高等学校	模擬授業/2年生/薬学分野別
91	12月19日	兵庫県立篠山鳳鳴高等学校	1年生/看護分野別
92	12月19日	兵庫県立高砂高等学校	1年生/リハビリテーション分野別/職業理解
93	12月19日	兵庫県立西宮南高等学校	模擬授業/2年生/リハビリテーション分野別
94	12月19日	兵庫県立北条高等学校	2年生/リハビリテーション分野別
95	12月19日	兵庫県立神戸高塚高等学校	学校別/2年生
96	12月20日	兵庫県立尼崎高等学校	模擬授業/2年生/リハビリテーション分野別
97	12月20日	兵庫県立宝塚高等学校	模擬授業/1年生/リハビリテーション分野別
98	12月21日	兵庫県立尼崎北高等学校	模擬授業/1年生/看護分野別
99	12月21日	兵庫県立津名高等学校	模擬授業/2年生/1年生/リハビリテーション 分野別
100	1月30日	夙川学院高等学校	学校別/2年生
101	1月31日	大阪府立鳳高等学校	2年生/1年生/リハビリテーション分野別/ 体験実習
102	2月10日	兵庫県立高砂南高等学校	2年生/薬学分野別
103	3月3日	兵庫県立明石清水高等学校	模擬授業/2年生/1年生/ リハビリテーション分野別
104	3月3日	兵庫県立三木北高等学校	学校別/2年生

	開催日	高校名	分類タグ
105	3月6日	兵庫県立東播磨高等学校	学校別/2年生/1年生
106	3月7日	兵庫県立神戸高塚高等学校	模擬授業/2年生/リハビリテーション分野別
107	3月7日	兵庫県立有馬高等学校	模擬授業/1年生/リハビリテーション分野別
108	3月7日	兵庫県立相生高等学校	学校別
109	3月7日	兵庫県立有馬高等学校	学校別/2年生
110	3月8日	兵庫県立尼崎小田高等学校	学校別/2年生
111	3月9日	兵庫県立尼崎北高等学校	学校別/2年生
112	3月9日	報徳学園高等学校	学校別/2年生
113	3月10日	神戸市立須磨翔風高等学校	学校別
114	3月16日	兵庫県立伊丹北高等学校	学校別/2年生
115	3月17日	兵庫県立須磨友が丘高等学校	学校別/2年生

## 見学会

	開催日	高校名/組織名	分類タグ
1	6月3日	兵庫県立有馬高等学校	1年生/施設見学(学校説明含む)
2	6月21日	兵庫県立高砂南高等学校	1年生/施設見学(学校説明含む)
3	7月7日	兵庫県立生野高等学校	2年生/施設見学(学校説明含む)
4	7月8日	兵庫県立加古川南高等学校	1年生/施設見学(学校説明含む)
5	7月14日	兵庫県立神戸高塚高等学校	1年生/施設見学(学校説明含む)
6	7月15日	兵庫県立尼崎北高等学校	模擬授業/2年生/施設見学(学校説明含む)
7	9月23日	兵庫県立明石西高等学校	2年生/リハビリテーション分野別/施設見学(学校説明含む)/体験実習
8	9月27日	大阪府立高槻北高等学校	1年生/施設見学(学校説明含む)
9	9月30日	兵庫県立西宮高等学校	2年生/看護分野別/施設見学(学校説明含む)
10	10月6日	島根県立松江南高等学校	施設見学(学校説明含む)
11	10月7日	兵庫県立播磨南高等学校	2年生/施設見学(学校説明含む)
12	10月20日	兵庫県立西宮今津高等学校	1年生/施設見学(学校説明含む)
13	10月21日	兵庫県立伊川谷高等学校	1年生/施設見学(学校説明含む)
14	10月25日	兵庫県立高砂高校	1年生/看護分野別/施設見学(学校説明含む)
15	10月27日	百合学院高等学校	1年生/施設見学(学校説明含む)
16	10月27日	神戸市立六甲アイランド高等学校(SSH)	2年生/薬学分野別/施設見学(学校説明含む)/体験実習
17	11月1日	仁川学院高等学校	2年生/薬学分野別/施設見学(学校説明含む)/体験実習
18	11月16日	神戸常盤女子高等学校 見学会	2年生/施設見学(学校説明含む)
19	12月19日	兵庫県立神戸甲北高等学校	1年生/施設見学(学校説明含む)

## 兵庫県教育研究会

	開催日		分類タグ
1	12月8日	兵庫県教育研究会 生物研究部会 (キャンパス案内)	施設見学(学校説明含む)

## 高大連携

### ・兵庫県立明石南高等学校

	開催日	高校名	分類タグ
1	4月27日	兵庫県立明石南高等学校	3年生/薬学分野別/高大連携
2	5月11日	兵庫県立明石南高等学校	2年生/薬学分野別/高大連携
3	5月25日	兵庫県立明石南高等学校	2年生/薬学分野別/高大連携
4	6月1日	兵庫県立明石南高等学校	2年生/リハビリテーション分野別/高大連携
5	6月15日	兵庫県立明石南高等学校	2年生/リハビリテーション分野別/高大連携
6	6月29日	兵庫県立明石南高等学校	2年生/リハビリテーション分野別/高大連携
7	9月7日	兵庫県立明石南高等学校	2年生/リハビリテーション分野別/高大連携
8	9月21日	兵庫県立明石南高等学校	2年生/リハビリテーション分野別/高大連携
9	10月12日	兵庫県立明石南高等学校	2年生/リハビリテーション分野別/高大連携
10	11月30日	兵庫県立明石南高等学校	2年生/薬学分野別/高大連携
11	1月18日	兵庫県立明石南高等学校	2年生/薬学分野別/高大連携
12	2月1日	兵庫県立明石南高等学校	2年生/薬学分野別/高大連携

### ・帝塚山学院高等学校

	開催日	高校名	分類タグ
1	4月23日	帝塚山学院高等学校	1年生/薬学分野別/高大連携
2	4月30日	帝塚山学院高等学校	1年生/薬学分野別/高大連携
3	5月14日	帝塚山学院高等学校	2年生/薬学分野別/高大連携
4	5月28日	帝塚山学院高等学校	1年生/看護分野別/高大連携
5	6月18日	帝塚山学院高等学校	2年生/薬学分野別/高大連携
6	6月18日	帝塚山学院高等学校	1年生/薬学分野別/高大連携
7	6月25日	帝塚山学院高等学校	1年生/リハビリテーション分野別/高大連携
8	7月2日	帝塚山学院高等学校	1年生/薬学分野別/高大連携
9	10月8日	帝塚山学院高等学校	1年生/薬学分野別/高大連携
10	10月29日	帝塚山学院高等学校	1年生/薬学分野別/高大連携
11	11月19日	帝塚山学院高等学校	2年生/薬学分野別/高大連携
12	11月26日	帝塚山学院高等学校	1年生/薬学分野別/高大連携
13	1月21日	帝塚山学院高等学校	1年生/看護分野別/高大連携
14	1月28日	帝塚山学院高等学校	1年生/リハビリテーション分野別/高大連携
15	2月4日	帝塚山学院高等学校	1年生/薬学分野別/高大連携
16	2月18日	帝塚山学院高等学校	2年生/薬学分野別/高大連携
17	2月25日	帝塚山学院高等学校	2年生/薬学分野別/高大連携

### ・兵庫県立伊丹西高等学校

	開催日	高校名	分類タグ
1	11月15日	兵庫県立伊丹西高等学校	2年生/リハビリテーション分野別/高大連携
2	6月2日	兵庫県立伊丹西高等学校	1年生/看護分野別/高大連携
3	4月26日	兵庫県立伊丹西高等学校	2年生/看護分野別/高大連携
4	7月26日	兵庫県立伊丹西高等学校	1年生/リハビリテーション分野別/高大連携
5	10月26日	兵庫県立伊丹西高等学校	1年生/看護分野別/高大連携

#### 4. ポーアイ4大学による連携事業

平成20年に締結した「神戸ポートアイランド4大学連携協定」から10年を迎えるのを機に、教職員研修の共同実施や、大学間単位互換などといった連携事業を継続的に実施するとともに、現状に合わせて、大学間の教育研究の交流、地域活性化等をさらに深めていくため、5大学の連携として平成29年3月10日に神戸学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、夙川学院短期大学との連携協定を締結した。

##### 1) ポーアイ健康・生活支援ステーション

###### 概要

平成20年10月に文部科学省「戦略的大学連携支援事業」の第1期事業として実施してきた神戸学院大学、神戸女子大学、兵庫医療大学および神戸女子短期大学の4大学の取組む総合的連携事業「ポーアイ4大学連携事業」は、平成22年度末にて文部科学省の支援事業としての活動は終了した。その連携事業の一つとして、地域住民の健康維持・増進活動や生活支援活動そして病気の予防推進を目的として、「ポーアイ健康・生活支援ステーション」が健康に強みのある本学内に設置された。

平成23年度以降は新たな局面として、本ステーションがこの3年間の経験に基づき、啓蒙活動、リカレント教育、情報公開等に取り組んできた。

###### 特記事項

###### ・公開講座・個別健康相談

開催日	内 容	担当者	参加者数(人)
6月25日	地域住民の健康は薬剤師が守ります！ ～かかりつけ薬剤師の使命～	薬学部 助 教 村上 雅裕	46
9月17日	脳卒中予防 ～生活の中の工夫～	看護学部 講師 鈴木千枝 他教員	76
10月29日	介護する人・される人から「おたがいさま」の関係へ	リハビリテーション学部 准教授 佐野恭子	38
3月18日	健やかに生きる ～病気の予防こそ最善の医療～	共通教育センター 教授 末廣 謙	92

###### ・介護支援プログラム ～健康・生活・安心サポート～

開催日	内 容	担当者	参加者数(人)
7月14日 15日	体力測定 —自分の今の体を知り、健康生活に生かしましょう！—	看護学部 准教授土井有羽子	98
10月15日	認知症になってもできるだけ自分らしく過ごすために —もちつ もたれつ お互いさま—	看護学部 准教授土井有羽子	54
1月28日	人生最終段階の過ごし方 —本人の表明と周囲の理解/支援—	看護学部 准教授土井有羽子	65



・花俱樂部 2016

担当者	リハビリテーション学部 准教授 伊藤 斉子
大学会場 開催日	7月22日、11月4日、11月25日、11月6日、11月20日、3月17日
三宮会場 開催日	7月17日、9月18日、10月16日、11月7日、12月18日、3月17日
テーマ	シニアライフの新たな魅力を見つけ、さらに健康…
参加人数（人）	延べ238

・ポーアイ65歳大学 2016

担当者	リハビリテーション学部 講師 有吉 正則
開催日	10月16日～2月25日（全15回）
テーマ	介護予防・生きがいづくりを応援する。
参加人数（人）	延べ519

・禁煙地区を目指した禁煙支援活動

担当者	共通教育センター 准教授 賀屋 光晴
吸殻収集日	4月23日～1月12日（全9回）
テーマ	クリーンなキャンパス地区を目指してポイ捨て吸殻収集活動
参加人数（人）	延べ156

・ユーザー参加型 医療デザインワークショップ

開催日	テーマ	担当者	参加者数(人)
12月17日	「さまざまな人に優しいお薬手帳をデザインで解決する」の巻	薬学部 教授 前田初男	19

## 2) 実務者会議

### 概要

ポートアイランド4大学連携事業では、神戸市ポートアイランドにキャンパスを置く神戸学院・神戸女子大学・神戸女子短期大学・兵庫医療大学の4大学は、隣接しているという利点と各大学の特色を活かしつつ、高度な教育・研究活動で連携し、さらには地域・企業・自治体などとも交流を図ることで、地域社会に貢献することを目的としている。

この4大学連携事業は、具体的には「縦軸のプロジェクト連携」と「横軸のベース連携」のコンセプトから構成されている。

大学の使命である「研究」、「教育」、「学生支援」、「社会貢献」、「生涯学習」も各フェイズにおいても有効に機能して行くことを目指しており、縦軸に4大学共通の課題、地域社会からの要請に沿ったプロジェクト「ポーアイ健康推進プロジェクト」と「ポーアイ防災推進プロジェクト」の2つの事業を立ち上げている。横軸には各大学連携ベースとなる「入試広報」、「図書館」、「学生支援」、「教務」、「キャリア支援」、「社会貢献」といった専門部会を立ち上げている。

### 特記事項

ポートアイランド4大学連携が翌年に10年を迎えるのを機に、現状に合わせてこれまでの連携事業を継続的に実施し、具体的な連携事項に係る諸施策を通じて大学間の教育研究の交流、地域活性化等をさらに深めていくため、平成29年3月10日付で、「神戸学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、夙川学院短期大学および兵庫医療大学の連携協力に関する協定」を締結した。



### 3) 部会活動

#### ①入試広報部会

##### 概要

ポートアイランド内にある4大学が連携して、学生募集広報、オープンキャンパスおよび大学説明会等を合同で実施することについて協議を行う目的で、入試広報部会が設置された。

現状、本部会では入試情報やオープンキャンパス等の広報活動についての情報交換を中心に活動を行っている。

毎年オープンキャンパスの同時開催の実現にむけて、各大学の開催日程を基に検討を行っているが、日程が合わず同時開催には至っていない。

オープンキャンパス合同告知については、例年どおり4大学合同により開催案内チラシを制作し、近畿、中国、四国地方の高等学校に配布を行っている。

##### 特記事項

- ・入学試験結果
- ・オープンキャンパス実施結果
- ・オープンキャンパス合同告知について

#### ②教務部会

##### 概要

平成21年4月より、神戸ポートアイランド4大学連携協定に基づく連携活動の一環として、教育の交流と充実を図る目的で単位互換制度を実施している。本学、神戸学院大学、夙川学院短期大学、神戸女子大学・神戸女子短期大学が同制度に参加しており、他大学学生にも公開可能な講義が対象となっている。今年度は、4大学合計42科目が同制度の対象となり、本学からは13科目を対象とした。

##### 単位互換本学提供科目一覧

提供科目	授業担当者	単位数	開講期
医療概論	末廣 謙 他	1	前期
心理学	土江 伸誉	2	前期
生物学	伊東 久男、柏村 信一郎	2	後期
化学入門	芝崎 誠司	2	前期
生命・医療倫理学	紀平 知樹	2	後期
哲学	紀平 知樹	2	前期
人間発達学	土江 伸誉	2	前期
臨床心理学 (カウンセリング論を含む)	土江 伸誉	2	後期
リハビリテーション概論	山崎 せつ子	1	前期
運動発達論	有吉 正則	1	前期
東洋医学入門	戴 毅	1	後期
災害看護	神崎 初美、千島 佳也子	1	後期
認知障害治療学	山崎 せつ子	1	前期

### ③学生部会

#### 概要

ポートアイランド内の4大学学生部会の連携により、4大学に関連した学生生活環境の改善、学生会活動および課外活動を含む学生生活に関することを協議し、問題の解決に当たっている。

#### 特記事項

- ・ボーアイ4大学連携事業として、留学生異文化体験プログラム（国際交流ツアー2回）および合同スポーツ大会（4大学マラソン大会）を実施した。
- ・各大学が輪番にて交差点信号無視学生への啓発・指導を実施した。

### ④図書館部会

#### 概要

4大学間で、来館利用および資料の貸出等相互利用を行っており、6月～12月には合同巡回展示を開催している。また、平成25年度からは、4大学の学生がお互いに他の連携大学図書館を知るための取り組みとして、スタンプラリー（スタンプを4つ集めれば大学グッズと交換）を開始した。

#### 統計

登録者数	56
入館者数（延数）	145

貸出人数（延数）	58
貸出冊数（延数）	100

スタンプカード発行数	9
スタンプ押印数	41
グッズ交換数	7

#### 特記事項

- ・巡回展示を行った

#### 出展テーマ

	出展テーマ
兵庫医療大学	医療ユニバーサルデザイン
神戸学院大学	防災・減災を学ぶ
神戸女子大学・神戸女子短期大学	平和社会の実現
夙川学院短期大学	長新太の世界

## 展示会場および出展期間

	兵庫医療大学	神戸学院大学	神戸女子大学・ 神戸女子短期大学	夙川学院短期大学
6～9月	医療ユニバーサルデザイン	防災・減災を学ぶ	平和社会の実現	長新太の世界
10月	防災・減災を学ぶ	医療ユニバーサルデザイン	長新太の世界	平和社会の実現
11月	平和社会の実現	長新太の世界	医療ユニバーサルデザイン	防災・減災を学ぶ
12月	長新太の世界	平和社会の実現	防災・減災を学ぶ	医療ユニバーサルデザイン

## ⑤キャリア支援部会

### 概要

当初は就職対象の学年が在籍しておらず、エクステンション（課外）講座を中心にエクステンション部会として資格取得を共同で実施する目的で結成された。他大学からも受講可能な独自資格講座（資格取得やキャリアアップの講座）として設置し、連携を進めていった。その後、平成21年度末より就職対象の学年の在籍に伴いキャリア支援の内容も議論されるようになり、平成22年度よりキャリア支援部会という名称に変更した。部会は隔月の第2、3週の火曜日に4大学が順番で幹事を行い開催している。部会では主に各校の予定行事や資格講座を報告した後に、連携可能なもの（事業）を検討している。将来的には生涯学習やインターンシップに関しても、共同で取り組もうという方向で検討を重ねている。

## ⑥社会貢献部会

### 概要

ボーアイ4大学連携事業の一環として、ポートアイランド地域住民を中心とした社会貢献を軸とし、神戸マラソンのボランティア、環境整備、地域に対する安全や安心、健康生活に関するボランティア活動や講演会などを実施している。

### 特記事項

- ・神戸マラソンボランティア参加学生数：約100名
- ・ボーアイ4大学クリーン作戦※JAF兵庫支部との共催  
日 時：平成28年11月17日（木）  
参加者数：兵庫医療大学学生・教職員60名を含め、  
その他大学等計215名

## 第10章 国際交流

### 1. 北京中医薬大学との学術交流・短期留学プログラム

#### 概要

学校法人兵庫医科大学と北京中医薬大学との中医薬の教育研究における交流協定に基づき、本学は薬学部を中心に北京中医薬大学と教職員の学術交流や学生短期留学などを行っている。

平成27年12月6日、兵庫医療大学と北京中医薬大学の学術交流に関する協定書が調印された。H28年9月7日～11日、学長、本学国際交流委員長と薬学部国際交流担当教員3名が北京中医薬大学に訪問し、今後の学術交流について協議した。現在、北京中医薬大学とのダブルディグリー教育やポスト・ドクターの受入、共同研究の実施を目指し具体的な調整を進めている。

#### 短期留学プログラム学生参加状況

日 程	参加者数（人）
3月21日～3月29日 8泊9日	薬学部 第2～4学年次：10
	看護学部 第1学年次：1
	リハビリテーション学部 第2学年次：1

### 2. アデレード大学看護学部学術交換留学プログラム

#### 概要

兵庫医療大学看護学部の学生10名は、アデレード大学看護学部との相互学術交流の3年目として、平成28年8月13日（土）～同年9月4日（日）の3週間、アデレード大学看護学部において学術交流を図るための短期留学を行った。3週間にわたる語学研修では、日常会話以外に医療英語も学び、看護学部では、現地の看護学生と一緒に看護学の講義を受け、看護技術演習（点滴準備や滴下数の計算）を行った。隣接するアデレード大学病院では、オーストラリアの特徴的な疾病と看護に関する講義を受け、異文化での医療と看護への理解を深め、最後に修了証が授与された。

アデレード大学看護学部の学生10名は、平成29年2月20日（月）～同年3月3日（金）の3週間、兵庫医療大学の留学生として来学した。内容は、3週間にわたる日本語研修以外に、看護学部では、日本における看護教育、各看護学領域による講義、災害看護の講義、看護技術演習（急変対応、和式寝衣交換）であった。薬学部・リハビリテーション学部による講義・演習も行った。また、日本文化・伝統技術を学ぶための見学研修、兵庫医科大学病院における実習等を体験した。

日本文化の理解や日本の医療・看護の理解を深め、最後に修了証を授与した。

#### 参加状況

日 程	参加者数（人）
8月13日（土）～9月4日（日）	看護学部：10

#### 受入状況

日 程	受入数（人）
2月20日（月）～3月3日（金）	看護学部：10

### 3. 欧州研修

#### 概要

デンマーク王国における医療・福祉・教育の実際を知り、日本の医療・福祉の現状を見つめ直すとともに、グローバルな視野を養うことを目的として実施している。

研修先は、日欧文化交流学院を拠点に、重度身体障がい者入居施設や高齢者センター、州立病院、トレーニングセンター、認知症対策班、保育園、看護大学等の施設が主である。

#### 参加状況

欧州情勢不安定により中止

### 4. JBI-Kobe Center

#### 概要

アデレード大学と兵庫医療大学看護学部との学術交流協定締結（平成26年3月31日）を機に、JBI Kobe Linguistic Translation Center（JBI 神戸日本語翻訳センター：助産学領域）を開設し、地域の医療従事者にも還元できる情報を発信する役割を担い、日本における国際学術交流活動の推進にも寄与することを方針としている。JBI本部の改組に伴い、平成28年からはJBI-Kobe Centerとして、システマティックレビュー（SR）研究を発信する研究活動を行っている。11月に開催されたDirector meetingに出席し特にアジア地域のSR研究の普及について情報を交換した。

### 5. トウルク応用科学大学学術交流協定

#### 概要

平成23年6月1日に本学との学術交流協定が締結された。平成26年5月には、同大とJSPSストックホルムセンター共催のFuture Diagnosesセミナーに共通教育センターの芝崎准教授が参加し、講演を行った。平成28年2月には同大にて、研究関連の交流として、感染症学領域における共同研究の可能性について打ち合わせた。教育関連の交流として、卒業生にインタビューを行い、同大学生の進路について聴取したところ、多くの学生が日本への留学に関心を寄せていることが明らかとなった。同大の国際交流部門のスタッフとも意見交換を行い、今後、双方の学生を対象とした教育面での交流についての検討ができるよう、情報交換を継続することとした。

#### 特記事項

- ・平成29年3月27日～31日 International week for teachersが開催され、共通教育センターの芝崎准教授が参加した。

## 第11章 管理運営

### 1. 事務組織

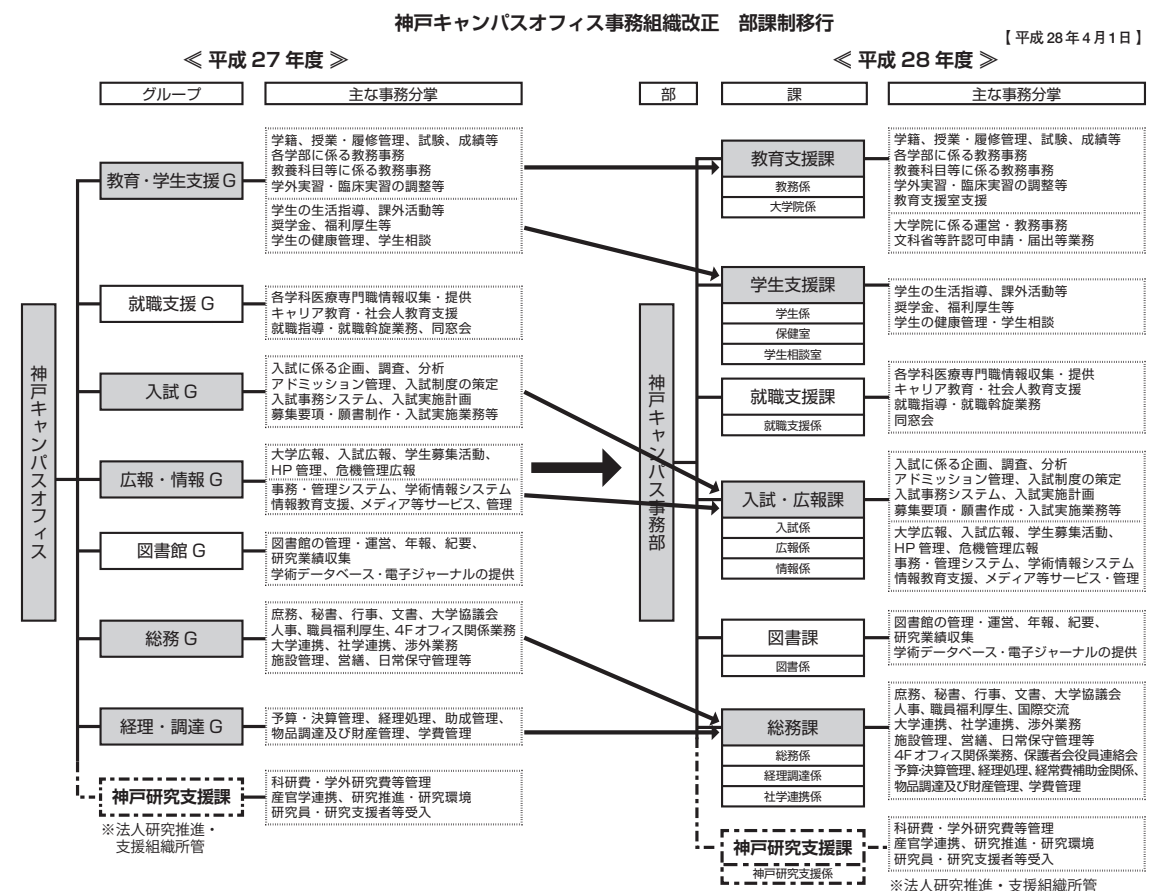
#### 概要

本学の事務組織は、開学時より縦割り組織（部課係制）ではなく、類似性のある業務を横断的かつ機動的に遂行していくグループ制を取り入れ、当初は4グループ（教育・学生支援、入試・広報、図書館・情報、管理・運営）でスタートした。その後、学年進行、教学組織の拡大、教育研究活動の展開等に合わせて組織再編を行い、平成26・27年度では8グループ（教育・学生支援、入試・広報・情報、図書館、総務、経理・調達、研究支援、就職支援）編成により、本学の教育研究活動および管理運営を支援してきた。

平成26年8月1日付の事務局組織の再編により、法人部門に学術研究支援部が新設され、本学の研究支援グループ所管の研究に関する業務が同部に包含されたため、教育・学生支援グループが学部教育に加えて大学院教育の業務を所管することに変更した。

#### 特記事項

平成28年4月1日付で、法人全体での人件費抑制、経費削減等の取組みとしての事務局組織のスリム化（スモール組織の統廃合）、および神戸キャンパスでのグループ制を部課制へ移行（他のキャンパスとの統一）する目的で次のとおり改組された。また、本学の社会学連携のプラットフォームとしての社会学連携推進機構の実務担当として、神戸キャンパス事務局総務課内に「社会学連携係」を設置し、事務的支援体制を強化した。





## 2. 学内委員会

### 学内委員会 委員一覧

(太字：委員長)

自己点検・評価委員会	
馬場 明道	学長
末廣 謙	副学長・図書館長
前田 初男	副学長
藤田 幸久	副学長
藤岡 宏幸	副学長
西山 信好	薬学部長
網島ひづる	看護学部長
山崎せつ子	リハビリテーション学部長
伊東 久男	共通教育センター長
岩佐 義久	事務部長

学生委員会	
竹田千佐子	学生部長
九川 文彦	薬学部教授
大河原知水	薬学部教授
中野 博明	薬学部講師
岡田 公江	看護学部准教授
山田 千春	看護学部講師
柏村信一郎	共通教育センター教授
賀屋 光晴	共通教育センター准教授
坂口 顕	リハビリテーション学部准教授
塚越 累	リハビリテーション学部講師
有吉 正則	リハビリテーション学部講師
岩崎 剛	学校医
岩佐 義久	事務部長
赤井 一之	学生支援課長

教育委員会	
川口浩太郎	教務部長
清宮 健一	薬学部教授
上田 晴康	薬学部教授
細見 明代	看護学部教授
石原 あや	看護学部准教授
森沢 知之	リハビリテーション学部講師
伊藤 斉子	リハビリテーション学部准教授
紀平 知樹	共通教育センター教授
加藤 精一	共通教育センター教授
岡田 成弘	教育支援課長

入試センター運営会議	
日高 正巳	入試センター長
甲谷 繁	薬学部准教授
伊藤 崇志	薬学部講師
松本 麻里	看護学部准教授
土井有羽子	看護学部准教授
佐野 恭子	リハビリテーション学部准教授
森 明子	リハビリテーション学部講師 ※
芝崎 誠司	共通教育センター准教授
加藤 慎司	入試・広報課長

※11月1日付准教授に昇任

図書館委員会	
末廣 謙	図書館長
上田 寛樹	薬学部講師
立垣 祐子	看護学部講師
坂本 利恵 (～10.31)	リハビリテーション学部講師
坂本 浩 (11.1～)	リハビリテーション学部講師
福田 範子	共通教育センター講師
後藤 伸光	図書課長

ファカルティ・ディベロップメント委員会	
紀平 知樹	共通教育センター教授
田中 稔之	薬学部教授
伊藤 崇志	薬学部講師
神崎 初美	看護学部教授
堀口 和子	看護学部准教授
山田 大豪	リハビリテーション学部教授
坂口 顕	リハビリテーション学部准教授
土江 伸誉	共通教育センター講師
西田喜平次	共通教育センター講師

地域連携推進委員会		
神崎 初美	地域連携実践センター長	
藤野 秀樹	薬学部講師	
魚崎 須美	看護学部講師	
永井 宏達	リハビリテーション学部講師	
常見 幸	共通教育センター講師	
上田 晴之	総務課長	

広報委員会		
鈴井江三子	看護学部教授	
上田 晴康	薬学部教授	
桂木 聡子	薬学部講師 ※	
岸 あゆみ	看護学部講師	
府川 晃子	看護学部講師	
宮本 俊朗	リハビリテーション学部講師	
櫛邊 勇	リハビリテーション学部講師	
賀屋 光晴	共通教育センター准教授	
加藤 慎司	入試・広報課長	

※11月1日付准教授に昇任

情報倫理委員会		
田中 明人	薬学部教授	
飯尾 祐加	看護学部講師	
山田 大豪	リハビリテーション学部教授	
加藤 精一	共通教育センター教授	
岩佐 義久	事務部長	
上田 晴之	総務課長	
加藤 慎司	入試・広報課長	

国際交流委員会		
辻野 健	薬学部教授	
戴 毅	薬学部教授	
鈴井江三子	看護学部教授	
秦 正哲	共通教育センター教授	
山崎せつ子	リハビリテーション学部教授	

キャリアデザイン委員会		
青木 俊二	キャリアデザインセンター長	
天野 学	薬学部教授	
上田 寛樹	薬学部講師	
新井 信之	看護学部教授	
笹川 寿美	看護学部准教授	
森 明子	リハビリテーション学部講師※	
奥谷 研	リハビリテーション学部助教	
芝崎 誠司	共通教育センター准教授	
後藤 伸光	就職支援課長	

※11月1日付准教授に昇任

研究推進委員会		
前田 初男	研究担当副学長	
藤野 秀樹	RI実験センター長	
田中 稔之	共同機器室長	
山本 悟史	動物実験センター長	
田中 明人	薬学部教授	
西村 明子	看護学部教授	
森 明子	リハビリテーション学部講師※	
加藤 精一	共通教育センター教授	
岩佐 義久	事務部長	

※11月1日付准教授に昇任

先端医薬研究センター運営委員会		
西山 信好	先端医薬研究センター長	
前田 初男	薬学部教授	
田中 稔之	薬学部教授	
辻野 健	薬学部教授	
小林雄一郎	研究支援課長	

先端医薬研究センター研究プロジェクト選考委員会		
西山 信好	先端医薬研究センター長	
前田 初男	副学長	
田中 稔之	薬学部教授	
山本 悟史	薬学部教授	
柏村信一郎	共通教育センター教授	

RI実験センター運営委員会	
藤野 秀樹	RI実験センター放射線取扱主任者
長野 基子	薬学部講師
魚崎 須美	看護学部講師
坂本 浩	リハビリテーション学部講師
伊東 久男	共通教育センター教授
前田 拓也	RI実験センター管理区域責任者
上田 寛樹	RI実験センター安全管理責任者
小林雄一郎	研究支援課長

放射線障害予防委員会	
藤野 秀樹	RI実験センター放射線取扱主任者
前田 拓也	薬学部准教授 ※
上田 寛樹	薬学部講師
荻野 待子	看護学部講師
松井 徳造	リハビリテーション学部教授
末廣 謙	共通教育センター教授
小林雄一郎	研究支援課長

※12月1日教授に昇任

動物実験センター運営委員会	
山本 悟史	動物実験センター長
清水 忠	薬学部講師
藤井加那子	看護学部講師
坂口 顕	リハビリテーション学部准教授
伊東 久男	共通教育センター教授
土江 伸登	共通教育センター講師
三浦 大作	動物実験センター実験動物管理者
小林雄一郎	研究支援課長

動物実験委員会	
大河原知水	薬学部教授
長野 基子	薬学部講師
大野 喜也	薬学部助教
藤井加那子	看護学部講師
坂口 顕	リハビリテーション学部准教授
山本 英幸	共通教育センター講師
山本 悟史	動物実験センター長
三浦 大作	動物実験センター実験動物管理者
小林雄一郎	研究支援課長
廣田 誠一	学識経験者

遺伝子組換え実験安全委員会	
田中 稔之	遺伝子組換え実験安全主任者
大河原知水	薬学部教授
三浦 大作	薬学部講師
鈴木みゆき	看護学部講師
柏村信一郎	共通教育センター教授
岩崎 剛	保健管理センター長
小林雄一郎	研究支援課長

環境安全委員会	
西山 信好	薬学部長
宮部 豪人	薬学部教授
齋藤あつ子	薬学部教授
鈴木 千枝	看護学部講師
坂本 浩	リハビリテーション学部講師
芝崎 誠司	共通教育センター准教授
小林雄一郎	研究支援課長

共同研究の受入れに関する審査専門委員会	
馬場 明道	学長
前田 初男	研究担当副学長
田中 明人	薬学部教授
青木 俊二	薬学部教授
土田 敏恵	看護学部教授
土江 伸登	共通教育センター講師
上田 晴之	事務次長

ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理審査専門委員会	
大河原知水	薬学部教授
大野 雅子	薬学部講師 ※
南畝 晋平	薬学部講師 ※
田中 登美	看護学部准教授
松井 徳造	リハビリテーション学部教授
紀平 知樹	共通教育センター教授
大橋 範子	人文・社会科学の有識者
竹内 勝一	一般の立場を代表する者

※11月1日付准教授に昇任

病原体等安全管理委員会	
齋藤あつ子	薬学部教授
前田 拓也	薬学部准教授 ※
山本 英幸	共通教育センター講師
岩崎 剛	保健管理センター長
小林雄一郎	研究支援課長

※12月1日付教授に昇任

利益相反マネジメント委員会	
田中 稔之	薬学部教授
鈴井江三子	看護学部教授
松井 徳造	リハビリテーション学部教授
秦 正哲	共通教育センター教授
坂元 譲次	財務担当理事
多田 宏幸	事務局長
岩佐 義久	事務部長
佐々木周一	学術研究支援部長
塩野 悟	学外有識者

倫理審査委員会	
玉木 彰	リハビリテーション学部教授
岩崎 剛	薬学部教授
土田 敏恵	看護学部教授
佐野 恭子	リハビリテーション学部准教授
土江 伸誉	共通教育センター講師
加藤 雅之	学外学識経験者
中畠ちせ子	一般の立場を代表する者
岩佐 義久	事務部長

共同機器室運営委員会	
田中 稔之	共同機器室長
清宮 健一	薬学部教授
田中 明人	薬学部教授
坂本 利恵 (～10.31)	リハビリテーション学部講師
坂口 顕 (11.1～)	リハビリテーション学部准教授
小林雄一郎	研究支援課長

情報センター運営委員会	
末廣 謙	情報担当副学長
加藤 精一	情報センター長
藤野 秀樹	薬学部講師
中野 博明	薬学部講師
飯尾 祐加	看護学部講師
坂本 浩	リハビリテーション学部講師
宮本 俊朗	リハビリテーション学部講師
西田喜平次	共通教育センター講師
加藤 慎司	入試・広報課長

紀要委員会	
末廣 謙	図書館長
森山 雅弘	薬学部教授
大野 雅子	薬学部講師※
鈴井江三子	看護学部教授
貞永千佳生	看護学部講師
川口浩太郎	リハビリテーション学部教授
平上 尚吾	リハビリテーション学部講師
紀平 知樹	共通教育センター教授
後藤 伸光	図書課長

※11月1日付准教授に昇任

キャンパス有効利用委員会	
藤岡 宏幸	リハビリテーション学部教授
前田 初男	薬学部教授
新井 信之	看護学部教授
松井 徳造	リハビリテーション学部教授
福田 範子	共通教育センター講師
上田 晴之	総務課長
岩佐 義久	事務部長

将来構想委員会	
山本 悟史	薬学部教授
森山 雅弘	薬学部教授
青木 俊二	薬学部教授
伊藤 崇志	薬学部講師
神崎 初美	看護学部教授
網島ひづる	看護学部教授
西村 明子	看護学部教授
日高 正巳	リハビリテーション学部教授
山田 大豪	リハビリテーション学部教授
加藤 精一	共通教育センター教授

防火防災対策委員会	
馬場 明道	学長
前田 初男	副学長
末廣 謙	副学長
藤田 幸久	副学長
藤岡 宏幸	副学長
西山 信好	薬学部長
網島ひづる	看護学部長
山崎せつ子	リハビリテーション学部長
伊東 久男	共通教育センター長
竹田千佐子	学生部長
岩佐 義久	事務部長

衛生委員会	
末廣 謙	共通教育センター教授
岩崎 剛	衛生管理者・産業医
上田 寛樹	薬学部講師
増田富美子	看護学部助教
奥谷 研	リハビリテーション学部助教
岩佐 義久	事務 部長
安部 恵美	教育支援課長補佐

医療人育成センター運営委員会	
末廣 謙	副センター長・教育支援室長
川口浩太郎	教務部長
大河原知水	薬学部教授
土田 敏恵	看護学部教授
山崎せつ子	リハビリテーション学部教授
常見 幸	共通教育センター講師

社会学連携推進機構運営委員会	
前田 初男	社会学連携推進機構長
神崎 初美	社会学連携推進副機構長・地域連携実践センター長
天野 学	薬学部教授
桂木 聡子	薬学部講師 ※
土井有羽子	看護学部准教授
土井有羽子	看護学部准教授
山崎せつ子	リハビリテーション学部教授
日高 正巳	リハビリテーション学部教授
常見 幸	共通教育センター講師
上田 晴之	総務課長

※11月1日付准教授に昇任

## 1) 自己点検・評価委員会

### 概要

本学は、平成23年度の自己点検・評価報告書について、財団法人大学基準協会の平成24年度大学評価を受審し、平成25年4月1日より7年間の適合認定を受けた。以降、各評価・点検項目を主に、PDCA サイクルを回しながら、改善すべき課題等に取り組んでいる。

平成26・27年度では、各年度の本学事業計画について、自己点検・評価委員会の所管部会長が当該事業の各取組みの実施、進捗状況を確認する等で、当該事業の推進を図った。

平成28年度には、自己点検・評価委員会規程を一部改正し、自己点検・評価体制について、学内各組織（各学部、大学院各研究科、共通教育センター、神戸キャンパス事務部他）が教学・研究を主とした自己点検・評価を実施し、その統括等を大学協議会構成員からなる全体の自己点検・評価委員会が行う方向とした。

### 特記事項

- ・平成28年度の自己点検・評価について、卒業生の就職先に対する調査を実施し、内部質保証の点検・評価を行った。
- ・平成29年度に向けた自己点検・評価体制として、各学部・センターに自己点検・評価委員会を設置することとした。

## 2) 学生委員会

### 概要

学生委員会は、人間形成を目的として行われる課程外の教育活動および大学教育に対する適応を図り学習効果を高めることを目的とし活動を行っており、学生委員会規程に基づいて学生の修学に係る指導・助言や学生の生活相談、学生の健康管理、奨学金、学生会活動や課外活動に関すること、その他学生生活における諸問題について協議し、問題の解決に当たっている。

なお、兵庫医療大学貸与奨学金の選考、学生会および課外活動団体への対応など、継続的な調整や詳細な検討が必要な事項については、担当委員を当て対応を行うとともに、必要に応じてワーキンググループを設置し対応している。

委員会は、学生部長、薬学部教員2名、看護学部教員2名、リハビリテーション学部教員2名、共通教育センター教員1名、学校医、事務部長、学生支援課長および学生部長が必要と認め、所属教授会が承認した教員若干名で構成しており、委員長は学生部長が務めている。

### 主な審議事項

- ・事業計画・予算について
- ・新入生・在学生オリエンテーションの実施について
- ・障がい学生支援について
- ・学生相談室イベントの実施について
- ・ワクチン接種および抗体検査の実施について
- ・定期健康診断の実施について
- ・兵庫医療大学入学生・在学生特別奨学金の選考等について
- ・兵庫医療大学貸与奨学金の選考等について
- ・兵庫医科大学病院奨学金およびささやま医療センター奨学金の選考等について
- ・日本学生支援機構奨学金に関することについて
- ・アドバイザー制度による学生生活支援について
- ・公認課外活動団体の認定・更新、課外活動支援の実施等について
- ・リーダーズキャンプの実施について
- ・卒業生に対するアンケート

### 特記事項

- ・学生委員会の専門部会として、「障がい学生支援部会」を設置した。
- ・聴覚に障がいのある学生への支援として、コミュニケーションツール「Live Talk」を導入した。

## 3) 教育委員会

### 概要

教育委員会では、学則、教務に関する規程および教育委員会規程に基づき、教務に関する基本方針や全学部共通課題について協議している。平成28年度においては、大学全体の教務運営に関する重要事項をはじめ、平成30年度に向けた教務事務システムの更新、在学年限および休学の取り扱いについて協議した。これら協議した事項については、各教授会や大学協議会で審議、報告される。

また、教育委員会では、PDCAサイクルが確立するように、年度初めに教務運営、教務システムに関する課題を明確にし、年度中にそれぞれの課題の解決を図り、翌年度初めに進捗状況を確認することとしている。



委員会は、教務部長、共通教育センター教員2名、薬学部教員2名、看護学部教員2名、リハビリテーション学部教員2名、教育支援課長で構成しており、委員長は教務部長が務めている。

#### 主な審議事項

- ・年間行事予定、授業日カレンダー、成績判定、定期試験等のスケジュールに関すること
- ・履修登録に関すること
- ・試験に関すること
- ・成績判定に関すること
- ・教務便覧に関すること
- ・神戸ポートアイランド4大学連携単位互換提供科目およびボーアイ教養科目に関すること
- ・教務事務システムの更新に関すること
- ・在学年限および休学の取り扱いに関すること
- ・シラバス作成要領の作成、学生教育ハンドブックの改訂
- ・障がい学生支援について

#### 特記事項

- ・平成29年4月より、看護学部の教育課程が変更することに伴い、教務に関する規程を一部改正した。
- ・委員会委員の弾力化を図るために、教育委員会規程を一部改正した。
- ・授業科目の不開講条件を定めた。

### 4) 入試センター運営会議

#### 概要

入試センター運営会議は、入学者選抜要領の作成および入学試験実施に関する業務等について協議するとともに、志願者数および入学者数の確保を図るための最善な入試制度について協議している。平成27年10月に、今後の高大接続改革への対応ならびに入学試験関連業務の充実を図り、入試運営のみならず入試センターとしての機能の充実を図るため、入試センター規程を制定し、平成27年10月の第6回の会議より、従来の入試運営委員会を入試センター運営会議として開催している。

当センターは、入試センター規程に基づき、入試センター長、薬学部教員2名、看護学部教員2名、リハビリテーション学部教員2名、共通教育センター教員1名および入試・広報課長の9名の教職員をもって構成されている。

なお、入試センター長は、引き続き、リハビリテーション学部 日高正巳教授が務めている。

#### 主な審議事項

- ・入試問題作成体制および検証体制
- ・入試データの分析
- ・当該年度の入学試験実施体制
- ・次年度入学試験

#### 特記事項

- ・過去問活用宣言について
- ・入試データブックの作成について
- ・多様性入試について

## 5) 図書館委員会

### 概要

図書館委員会は、学習支援・研究支援のためにより良い図書館運営を図ることについて協議するとともに、図書館資料や学術情報の選定・収集・管理に関することについて協議している。

当委員会は、図書館長、薬学部教員1名、看護学部教員1名、リハビリテーション学部教員1名、共通教育センター教員1名および図書課長の5名の委員をもって構成され、委員長は図書館長が務めている。

### 主な審議事項

- ・ 図書館経費および図書購入費予算について
- ・ 年間開館予定
- ・ 教員選書依頼と選書図書購入について
- ・ シラバス掲載の教科書・参考書の購入について
- ・ 学生からの希望図書購入について
- ・ 購読雑誌（電子ジャーナル含む）契約・データベース契約について
- ・ 寄贈図書・寄贈雑誌の受入について
- ・ 除籍について
- ・ ポーアイ4大学連携図書館巡回展示の展示内容について

### 特記事項

- ・ 兵庫医療大学機関リポジトリ運用規程が承認された。
- ・ ポーアイ4大学連携図書館巡回展示について、薬学部・看護学部・リハビリテーション学部・共通教育センターの順の持回りで本学担当テーマを決めることとなった。
- ・ 熊本地震被災地域（熊本県、大分県）にある大学機関からの相互利用文献複写依頼について、当面無償提供とすることが承認された。
- ・ 土・日・祝日の開館日において、午前7時現在、暴風警報または特別警報が発令中の場合は休館とし、午前7時以降、暴風警報または特別警報が解除になっても、時間指定での開館は実施しないことが承認された。
- ・ 国家試験問題集・対策本と本学在籍教員の著書については、寄贈後速やかに受入・配架し、次の図書館委員会で報告とすることが承認された。
- ・ 神戸薬科大学教授および神戸市医療センター中央市民病院看護部からの寄贈が承認された。

## 6) ファカルティ・ディベロップメント委員会

### 概要

ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会の目的は、教員個人および教員組織としての教育能力を開発・改善し、兵庫医療大学の教育研究機能の向上を図ることであり、以下を具体的な目標としている。①教員個々の教育力の向上、②集団・組織としての教育力の向上、③学部間の相互理解力の向上、④教員の研究力の向上および相互協力体制による研究力の向上、⑤本学としての教育および研究の質の向上、⑥教員と協働する職員の資質の向上である。

3学部・共通教育センターから選出された教員各2名ずつと委員長の計9名により組織され、全学FD活動の企画・運営に当たっている。また、学部・センターから選出された教員は、3学部および共通教育センターがそれぞれ独自に企画・運営するFD・SD活動との連携を責務としている。

## 特記事項

平成29年3月8日（水）「兵庫医療大学のこれまでとこれから」というテーマに基づき、午前中は私立大学等改革総合支援事業タイプ1・2・3に関する概要説明とこれまでの取組状況を各担当教員から説明し、午後からは「私の教育、研究活動と私立大学等改革総合支援事業の接点」をテーマにグループワークを行い、教職員136名が参加した。

## 7) 地域連携推進委員会

### 概要

本学では、地域との連携を推進するために地域連携推進委員会を設置している。本委員会は地域連携実践センター長と薬学部、看護学部、リハビリテーション学部、共通教育センターからそれぞれ1名ずつ選出された教員（計4名）と事務職員1名で構成し、地域連携実践センターの運営および本学の地域連携に関する企画立案を行っている。本委員会を中心に各学部、共通教育センターの教員による市民健康公開講座の開催、および個別の健康相談事業、地域交流プロジェクト等を実施している。

### 特記事項

公開講座・個別健康相談、講演会、地域交流プロジェクト、ボーアイ健康推進プロジェクト、ナレッジキャピタル等の活動内容については、第9章の1. 地域連携実践センターの項、および4. ボーアイ4大学による連携事業に掲載する。

## 8) 広報委員会

### 概要

広報委員会は、下記事項に関して協議し、課題解決に当ることを目的として、活動するものである。

1. 本学の大学広報の企画・立案に関すること
2. 入試広報施策の企画・立案および実施に関すること
3. 大学のホームページの運用方針および内容の企画・立案に関すること
4. 法人の広報関連部署および広報戦略との連携、強調、情報の共有等に関すること
5. その他本学の広報全般に関すること

当委員会は、委員長、薬学部教員2名、看護学部教員2名、リハビリテーション学部教員2名、共通教育センター教員1名および入試・広報課長の9名の委員をもって構成されている。

平成28年度については、看護学部の鈴井江三子教授がオープンキャンパス終了後まで委員長を務め、それ以後については藤岡宏幸副学長が広報委員長を務めた。

当委員会は、オープンキャンパス等イベントの企画・運営、大学案内やWebサイト等各種広報媒体の企画・編集・制作、高等学校への出張講義・ガイダンスやキャンパス見学会・体験実習の企画調整・実施等を行っており、各委員は日常的にこれらの業務に携わっている。

### 主な審議事項

- ・学生募集広報計画について
- ・学生募集用広報媒体について
- ・大学案内およびパンフレットの作成について
- ・オープンキャンパスおよびイベントの実施について

## 特記事項

- ・ ホームページのリニューアルについて
- ・ 広報戦略の方向性について
- ・ 広報イベント学生スタッフの募集体制について

## 9) 情報倫理委員会

### 概要

本学システムが倫理的配慮のもとに利用されることを目的として、情報倫理委員会が置かれている。禁止事項第3条に該当する事態が起こった場合の対応と行為者およびその関係者に対する措置、その他、本学における情報倫理確立に必要な事項が審議される。

委員会は、薬学部教授会で選出された教員1名、看護学部教授会で選出された教員1名、リハビリテーション学部教授会で選出された教員1名、共通教育センター教授会で選出された教員1名、兵庫医療大学情報ネットワーク委員会委員長、事務部長、総務課長、入試・広報課長、その他委員長が必要と認めた者をもって組織される。

## 10) 国際交流委員会

### 概要

国際交流委員会は、平成22年2月8日の大学協議会で制定された「兵庫医療大学国際交流委員会規程」に則り、外国の大学および教育研究機関との連携の下に、国際学術研究・国際教育および国際協力を推進することを目的とする。

### 特記事項

活動内容は第10章国際交流に掲載する。また、平成28年度に株式会社ベース商事様のご寄附による「兵庫医療大学国際教育交流基金」を新設した。

## 11) キャリアデザイン委員会

### 概要

本学は、学生のキャリアデザインを支援し、社会に有為な人材を送り出すことを目的に、キャリアデザインセンター（以下「センター」という。）を設置し、センターの活動推進と行事遂行のため、キャリアデザイン委員会（以下「委員会」という。）を毎月開催している。委員会は、キャリアデザイン支援に関する企画・調整・運営方針、センターが推進する就職活動支援、社会人教育支援、生涯学習支援等のキャリアデザイン業務に関すること、その他センターの活動に関することを協議している。

委員会は、センター長、共通教育センター教員1名、薬学部教員2名、看護学部教員2名、リハビリテーション学部教員2名、就職支援課長、その他委員長が必要と認めた者をもって構成している。

### 主な審議事項

- ・ 学校法人兵庫医療大学連携病院の会 合同病院説明会実施について
- ・ 兵庫医科大学病院・ささやま医療センター就職説明会について
- ・ セミナー、ガイダンス、対策講座の実施について  
(仕事研究セミナー・保健師ガイダンス・公務員試験対策講座・社会人スキル対策講座・グループディスカッション対策講座・社会人スキルガイダンス(接遇マナー)・就職・実務実習説明会等)
- ・ 登録販売者資格取得支援について(具体的施策、受験ガイダンス)

- ・ 合同企業説明会の実施について
- ・ 内部質保証の点検・評価のためのダイレクトメール実施について
- ・ 卒業生に対するアンケート調査の見直しについて
- ・ キャリア・就職支援行事日程について

## 12) 研究推進委員会

### 概要

研究推進委員会は、学術講演会、研究セミナーなどを企画開催するとともに、研究公正と競争的外部資金獲得の推進などを通して、本学の研究推進に取り組んでいる。

当委員会は、研究推進委員会規程に基づき、副学長（研究担当）、共同機器室長、動物実験センター長、RI 実験センター長と、看護学部、リハビリテーション学部および共通教育センターから各1名、事務部長の8名の委員により構成され、委員長は副学長（研究担当）が務めている。

### 主な審議事項

- ・ 間接経費の使用方法について
- ・ 平成28年度私立大学等改革総合支援事業への対応について
- ・ 研究用機器の申請戦略について
- ・ 学術講演会の取扱いについて
- ・ CITI Japan e-learning の取扱いについて
- ・ CITI Japan e-learning の有効期間および受講対象について
- ・ 科研費取得のための取組について
- ・ 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に基づく講習会について
- ・ 研究推進委員会規程の変更について（ブランディング事業に係る全学的な研究実施体制の整備）
- ・ 研究推進方針・評価指標の策定について
- ・ 研究業績の優れた教員への顕彰について

## 13) 先端医薬研究センター運営委員会・先端医薬研究センター研究プロジェクト選考委員会

### 概要

先端医薬研究センター運営委員会は、兵庫医療大学先端医薬研究センター規程第7条第2項の規程に基づき、先端医薬研究センターの運営に関する必要な事項を定める目的で設置されている。

先端医薬研究センター研究プロジェクト選考委員会は兵庫医療大学先端医薬研究センター規程第10条第2項の規定に基づき、研究プロジェクトの募集、選考等に関する事項について審議するために設置されている。

## 14) RI 実験センター運営委員会

### 概要

RI 実験センター運営委員会は、兵庫医療大学RI実験センター運営委員会規程第7条第2項に基づき、RI実験センター運営委員会に関する必要な事項を定める目的で設置されている。

RI実験センター運営委員会は、RI実験センターの管理運営について協議し、かつ具体的問題を処理するものとする。



## 特記事項

平成29年度 RI実験センター予算請求（持回り審査）

### 15) 放射線障害予防委員会

#### 概要

放射線障害予防委員会は、兵庫医療大学放射線障害予防委員会規程第9条に基づき、兵庫医療大学放射線障害予防委員会の構成および運営について定める。委員会は、次の事項について協議し、かつ具体的問題の処理をしている。

1. 放射線障害予防規程の運用および改廃
2. 放射線業務従事者の教育および訓練
3. 学長から諮問を受けた事項
4. 学長に対する放射線障害予防に関する意見具申
5. その他放射線障害防止についての必要事項

#### 特記事項

- ・平成28年度放射線管理状況報告書について
- ・平成29年度放射線業務従事者の登録状況について

### 16) 動物実験センター運営委員会

#### 概要

動物実験センター運営委員会は、兵庫医療大学動物実験センター規程第5条第2項の規定に基づき、兵庫医療大学動物実験センター運営委員会に関する必要な事項を定める。

動物実験センター委員会は、兵庫医療大学動物実験センターの運営に関する事項について協議し、かつ具体的問題を処理する。

#### 主な審議事項

- ・持込みケージの使用について
- ・エンリッチメント材の使用について
- ・実験動物発注時の利用者からの連絡事項（追加）について
- ・微生物モニタリング期間について
- ・平成29年度予算案について
- ・微生物モニタリングの結果について
- ・微生物モニタリング（英字版）について
- ・免疫不全動物の飼育室について
- ・微生物モニタリング結果の周知について
- ・動物実験センターの見学・入館に関する書類について
- ・CNVラット飼育室における再搬入区域の拡充について



## 特記事項

平成28年 4 月	第 1 回動物実験センター運営委員会 エンリッチメント材が使用可能に モニター動物の飼養期間を延長
平成28年 5 月	動物実験センター分室の空調機停止による差圧管理不全発生 動物実験センターおよび分室の空調フィルター交換実施 オートクレーブ性能検査実施 オートクレーブ再点検実施
平成28年 6 月	微生物モニタリング実施
平成28年 7 月	SPF 死体用フリーザー故障発生
平成28年 8 月	動物実験に関する情報を web 上に公開
平成28年 9 月	微生物モニタリング実施 動物実験センター関連排気ファンから異音発生 動物実験センターおよび分室消防設備点検実施
平成28年10月	第 2 回動物実験センター運営委員会 動物実験センターおよび分室の空調フィルター交換実施
平成28年11月	オートクレーブ部品交換実施
平成28年12月	第 3 回動物実験センター運営委員会 微生物モニタリング実施 SPF 飼育室にて S. aureus（カテゴリーD）を検出 SPF 飼育室のクリーンアップ開始 第 9 回実験動物慰霊祭挙行
平成29年 2 月	第 4 回動物実験センター運営委員会 CNV ラット飼育室における再搬入区域を拡充 SPF 飼育室のクリーンアップ完了 実験動物飼養（保管）施設管理責任者講習会（神戸市）について 動物実験に関する教育訓練および動物実験センター利用者講習会実施 動物実験センターおよび分室の空調フィルター交換実施
平成29年 3 月	動物実験センターおよび分室の消防設備点検実施 動物実験センター工事作業に係る要望書作成

## 17) 動物実験委員会

### 概要

動物実験委員会は、兵庫医療大学における動物実験に関する事項を審議し、科学的にはもとより、動物福祉、環境保全、ならびに動物実験に携わる者の安全確保等の観点から、適正な動物実験の実施を図ることを目的とする。

委員は、動物実験等に関して優れた識見を有する者として、各学部および共通教育センターの教員よりそれぞれ 3 名以内、学識経験を有する教員 1 名、実験動物管理者、兵庫医療大学動物実験センター長および研究支援課長で構成する。

動物実験の在り方を倫理面から審議する機関として、平成20年 7 月に「動物実験委員会」を設置し現在に至っている。平成18年 6 月に告示された「研究機関等における動物実験に関する基本指針」（文部科学省）に基づき Refinement（苦痛の軽減）、Replacement（代替法の利用）、Reduction（必要最少数利用）、「3R」に配慮しながら、適切に審査を行っている。

### 主な審議事項

委員会は、学長の委任を受け、次の事項を審議または調査し、学長に報告または助言する。

- ・動物実験計画が法令等および本規程に適合していること
- ・飼養保管責任者、動物実験責任者および動物実験実施者の承認に関すること
- ・動物実験計画の実施状況および結果に関すること
- ・施設等および実験動物の飼養保管状況に関すること

- ・動物実験および実験動物の適正な取扱いならびに法令等に関する教育訓練の内容または体制に関すること
  - ・自己点検・評価に関すること
- その他、動物実験等の適正な実施のための必要事項に関すること。

#### 実施審査一覧

審査内容	審査件数	承認件数
a. 動物実験責任者	1	0
b. 動物実験実施者	55	55
c. 実験室設置許可	0	0
d. 動物実験計画書	34	31
e. 動物実験計画変更	28	28
f. 実習室動物実験一時許可	3	3

#### 実験動物慰霊祭

全教職員・学生を対象に下記の実験動物慰霊祭を挙行し、本学における研究および教育のために犠牲となり、生命科学の研究に貢献された諸霊に対し心から慰霊の言葉を捧げた。

- ・平成28年12月21日（水） 第9回実験動物慰霊祭 参列者241名（教職員、学生）

### 18) 遺伝子組換え実験安全委員会

#### 概要

遺伝子組換え実験安全委員会は、遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律（平成15年6月18日法律第97号）および関係する政令・省令・告示等に定められる遺伝子組換え実験の安全な実施を確保することを目的とし、兵庫医療大学遺伝子組換え実験安全管理規程に基づいて設置されている。本委員会は、本学における遺伝子組換え実験の安全確保を総括する学長の諮問に応じ、実験計画の法令等に対する適合性、実験従事者の教育訓練と健康管理などにつき調査審議し、学長に対して答申または勧告を行っている。

本委員会には遺伝子組換え実験安全主任者を置き、委員として遺伝子組換え実験研究者である教員および遺伝子組換え実験研究者ではない自然科学系の教員とともに保健管理センター長と研究支援課長を構成員としている。

#### 主な審議事項

委員会は、学長の諮問に応じて次に掲げる事項について調査審議、および学長に対し答申または勧告する。

- ・実験計画の法令に対する適合性の審査に関すること
- ・実験従事者に係る教育訓練および健康管理に関すること
- ・危険時および事故時の必要な処置および改善策に関すること
- ・その他実験の安全確保に関する必要な事項

#### 実施審査一覧

審査内容	審査件数	承認件数
新 規	0	0
変 更	14	14

## 19) 環境安全委員会

### 概要

環境安全委員会は、兵庫医療大学の教育・実験や研究活動における安全確保ならびに環境保全を図ることを目的としている。

### 主な審議事項

委員会は、次の事項について協議し、かつ具体的問題の処理をしている。

- ・廃液処理に関する必要事項および運用
- ・毒物および劇物管理に関する必要事項および運用
- ・廃棄物（感染性含）処理に関する必要事項および運用
- ・その他環境安全に関する必要な事項

## 20) 共同研究の受入れに関する審査専門委員会

### 概要

共同研究の受入れに関する審査委員会は、平成24年5月15日に施行された「学校法人兵庫医科大学共同研究規程」に基づき、平成24年7月に発足した。本委員会は、企業、国、地方公共団体またはその他の機関との共同研究を対象に共同研究の受入れ事項について審議することを目的とする。

委員会は、学長、研究担当副学長、大学協議会において選出された者5名で構成される。委員長は、学長がこれに当る。

### 特記事項

申請のあった7件の共同研究計画について持回りにて審査を行った結果、受入れが承認された。

### 実施審査一覧

共同研究機関名	研究期間	本学研究者
(株) 西山酒造場	平成28年7月1日～平成29年3月31日	前田 初男（薬学部）
千寿製薬（株）	平成28年6月15日～平成29年3月31日	田中 明人（薬学部）
パナソニック（株） アプライアンス社	平成28年9月20日～平成29年3月31日	坂口 顕（リハビリテーション学部）
ユニチャーム（株）	平成28年10月20日～平成31年3月31日	川口 浩太郎（リハビリテーション学部）
公益財団法人兵庫科学技術協会 (株) ユニバル	平成28年7月8日～平成31年3月31日	塚越 累（リハビリテーション学部）
(株) 阪神調剤薬局	平成28年12月1日～平成30年9月30日	天野 学（薬学部）
クオール（株）	平成28年12月1日～平成30年9月30日	天野 学（薬学部）

## 21) ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理審査専門委員会

### 概要

ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理審査専門委員会では、兵庫医療大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理審査専門委員会規程に基づき、本学において行われるヒトゲノム・遺伝子解析研究が、兵庫医療大学におけるヒトゲノム/遺伝子解析研究に関する規程に合致し、文部科学省、厚生労働省の定める倫理指針、およびヘルシンキ宣言の趣旨に沿った倫理的配慮の下に行われるよう、実験計画書を審査し、計画の適否について学長に報告すること、および、承認された実験計画について適切に実施されているかどうかを調査し、報告を受けることにより本学におけるヒトゲノム・遺伝子

解析研究が円滑かつ適切に実施されることに資することを目的として設置されている。

当委員会は、兵庫医療大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理審査専門委員会規程に基づき、下記委員をもって構成されている。

①薬学部教員（3名）

②科学面から研究を総合的に審査するに必要な優れた知識と経験を有する者（2名）

③倫理面、法律面および社会面から研究を総合的に審査するに必要な優れた知識と経験を有する者（2名）

④一般の立場の者（1名）

②として看護学部、リハビリテーション学部の教員各1名、③として共通教育センター教員2名が指名され、任に就いている。

当委員会は平成23年に発足した。まず、申請書式および審査手続きを整え、その後、年4回を原則に申請課題の締め切りを設定し、申請があれば委員会を招集し課題審査を実施している。今までに、5つの新規課題の審査申請があり、審査の結果、当該研究の実施が適当である旨を学長に報告し、課題は承認された。課題審査に加えて、年度ごとに実験課題の査察を行った上、実施課題の報告書を受け取り、研究が適切に実施されていることを担保している。

## 特記事項

- ・平成28年度は新規ヒトゲノム・遺伝子解析研究計画1件が承認された。
- ・新規課題を含めて6件の研究課題が進行中である。
- ・各々の課題に対し査察を実施し、研究責任者より研究報告書が提出され、学長に報告している。

## 承認済課題一覧

課題番号	課題名	申請者	研究期間
15-001	ワルファリンの個別化適正投与に関する研究	南畝 晋平	承認日～平成29年3月31日
15-002	遺伝子多型情報に基づくワルファリンの適正投与量設定へ向けた前向き臨床試験（新規）	南畝 晋平	承認日～平成29年9月30日
15-003	統合失調症患者に対する個別化適正薬物投与のための薬物感受性遺伝子に関する研究（新規）	南畝 晋平	承認日～平成30年3月31日
15-004	うつ病患者に対する個別化適正薬物投与のための薬物感受性遺伝子に関する研究（新規）	南畝 晋平	承認日～平成29年3月31日
15-005-02	プリン代謝拮抗薬の臨床効果の個人差に関する研究	大野 雅子	承認日～平成30年3月31日
16-001	薬効ゲノム情報に基づく結核治療の個別適正化プロジェクト～結核治療薬の反応性の個人差に関わる薬剤反応性遺伝子の探索	大野 雅子	承認日～平成30年3月31日

## 22) 病原体等安全管理委員会

### 概要

病原体等安全管理委員会は、兵庫医療大学における研究および教育に利用する病原体等の実験、受入、保管、廃棄および分与/譲渡の安全管理を目的とし、設置されている。

平成21年8月21日に「病原体等安全管理委員会」を設置し、「兵庫医療大学における病原体等の安全管理に関する内規」を作成し、平成22年9月16日より運用を開始し、現在に至っている。研究および教育に利用する病原体等の実験、受入、保管、廃棄および分与/譲渡が安全に行われるよう、病原体等実験申請/届出、病原体等実験終了/届出、病原体等受入・保管申請、病原体等保管終了届出、病原体等分与/譲渡申請/届出、未知病原体等分離実験届出（平成27年度より追加）、感染動物実験申請について、安全面の審査を行っている。

### 主な審議事項

委員会は、次の事項について協議し、かつ具体的問題の処理をしている。

- ・病原体等の管理体制に関する事項
- ・病原体等の管理基準に関する事項
- ・病原体等の取扱い等の教育に関する事項
- ・病原体等による感染症の発生の予防に関する事項
- ・病原体等を使用する実験計画の審議に関する事項
- ・その他病原体等の取扱いに関し必要な事項

### 実施審査一覧

審査内容	審査件数	承認件数
病原体等実験申請/届出書（変更：従事者）	3	3
感染動物実験申請	1	1

## 23) 利益相反マネジメント委員会

### 概要

利益相反マネジメント委員会は、本学の教職員等の産学連携活動に関わる利益相反を適切に管理することを目的とし、学校法人兵庫医科大学利益相反ポリシーの下、学校法人兵庫医科大学利益相反マネジメント規程に基づいて設置されている。本委員会は教職員等の利益相反を未然に防止するために、利益相反に関する個々の案件の審査と必要な勧告や利益相反マネジメントのための調査や関連する情報公開に関する事項について審議する。

本委員会は各学部および共通教育センター教授会において選出された教授各1名、財務担当理事、事務局長、事務部長、法務・知的財産室長、学外有識者からなる委員で構成されている。

### 特記事項

回	申告数	助言数	審査結果
1	23	4	問題なし
2	71	41	問題なし
3	48	13	問題なし
4	28	21	問題なし
5	39	27	問題なし
6	30	15	問題なし
合計	239	121	

## 24) 倫理審査委員会

### 概要

倫理審査委員会は、本学および本学と連携した施設において行われる臨床研究、疫学研究、観察研究などが、ヘルシンキ宣言の趣旨にそって倫理的配慮の下に行われるように、研究実施計画の内容を学長の諮問に基づいて倫理的および社会的審査を行ってきた。

平成27年4月1日に施行された「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成26年文部科学省・厚生労働省公示第3号）による指針を遵守して、研究が遂行されるように平成27年度からは新しい規程および申請書を作成して倫理審査を行っている。



平成27年度以降、委員会構成は、副学長、学部長、研究科長から1名、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部、共通教育センター教員または倫理を専門とする教員から1名、人文社会科学の学外学識経験者1名、一般の立場を代表する学外者1名、事務局の者1名の8名で、委員長は学長指名で選出される。委員会の構成も「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守して行っている。

#### 特記事項

- ・倫理審査申請書の審議
- ・倫理審査（迅速審査）の判定報告
- ・「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」一部改正について

#### 承認済課題一覧

受付番号	所 属	職位	氏 名	研究課題名	実施期間
16001	看護学部	教授	神崎 初美	視覚障がい者が自覚している災害時の避難行動を妨げる要因と受けたい支援	平成28年6月6日 ～平成29年3月31日
16002	看護学部	教授	細見 明代	認知症高齢者を尊重した日常生活援助の実践につながった看護師の経験	平成28年5月31日 ～平成29年3月31日
15008-2	薬学部	教授	辻野 健	循環器外来通院中患者の好中球/リンパ球比に対する治療薬の影響に関する研究	平成28年5月16日 ～平成30年3月31日
15009-2	薬学部	教授	辻野 健	循環器内科外来受診患者におけるポリファーマシーの要因探索	平成28年5月16日 ～平成30年3月31日
16003	薬学部	教授	天野 学	糖尿病患者を対象としたインスリン自己注射の使用性に関する研究	平成28年5月31日 ～平成29年3月31日
16004	薬学部	教授	前田 初男	日本酒の味わいの新規表現方法の開発	平成28年5月31日 ～平成29年3月31日
16005	薬学部	教授	前田 初男	災害時に有効な直感でイメージできる薬剤色彩設計の考察—色彩連想調査から検証—	平成28年5月31日 ～平成30年3月31日
16006	看護学部	教授	竹田千佐子	臨床実習指導者が行う「看護学生の経験の意味づけ」へのかかわり	平成28年5月31日 ～平成29年3月31日
16007	リハビリテーション学部	准教授	佐野 恭子	脳損傷者の表情認知と表出の特徴に関する研究—他者との良好な関係づくりに向けて	平成28年5月31日 ～平成30年5月31日
16008	薬学部	教授	九川 文彦	処方箋データから見た兵庫医科大学病院とは・多変量解析の手法を用いて(第2段研究)	平成28年5月31日 ～平成30年3月31日
16009	看護学部	講師	府川 晃子	分子標的薬を内服する高齢肺癌患者の自己管理確立のプロセス	平成28年6月10日 ～平成29年5月31日
16010	看護学部	教授	鈴井江三子	在日ベトナム人の母親が求める子育て支援	平成28年5月31日 ～平成29年3月31日
14011-2	リハビリテーション学部	講師	平上 尚吾	脳卒中患者のトイレにおける下衣上げ下げ動作の再獲得過程の解明	平成28年5月16日 ～平成29年3月31日
16004-2	薬学部	教授	前田 初男	日本酒の味わいの新規表現方法の開発	平成28年6月23日 ～平成29年3月31日
15014-2	看護学部	教授	竹田千佐子	副看護師長の役割遂行を支える基軸	平成28年6月27日 ～平成29年3月31日
16011	リハビリテーション学部	教授	川口浩太郎	健康寿命延伸を目指した戦略的な「ロコトレ」開発のための基礎研究	平成28年8月4日 ～平成31年3月31日
16012	看護学部	教授	網島ひづる	心臓血管外科術後患者とその家族における継続的なせん妄ケアに対する看護師の認識と実践	平成28年8月8日 ～平成29年3月31日
16013	リハビリテーション学部	准教授	坂口 顕	電気刺激による月経痛軽減の効果検証	平成28年8月4日 ～平成31年3月31日



受付番号	所 属	職位	氏 名	研究課題名	実施期間
16014	リハビリ テーション学部	講師	森沢 知之	足関節の他動的関節可動域運動が自律神経系に与える影響	平成28年 8 月 4 日 ～平成29年 3 月31日
16016	薬学部	教授	天野 学	インスリン注入器用補助器具の形状およびサイズの個別化と使用性の関連性に関する検討	平成28年 8 月 4 日 ～平成29年 3 月31日
16017	リハビリ テーション学部	教授	山崎せつ子	急性期の重度脳卒中患者に対する作業療法士の思いとその作業療法の実態	平成28年 8 月 4 日 ～平成30年 3 月31日
16018	リハビリ テーション学部	講師	永井 宏達	施設通所高齢者における筋力トレーニング効果に影響する因子の調査	平成28年 8 月 4 日 ～平成31年 3 月31日
16020	看護学部	教授	神崎 初美	緩和ケア病棟看護師へのがん患者のせん妄に関するアセスメント能力向上のための教育プログラムの評価	平成28年 8 月 4 日 ～平成29年 3 月31日
16021	リハビリ テーション学部	教授	玉木 彰	身体活動量を指標としたPAD患者の在宅運動プログラムの開発	平成28年 8 月 8 日 ～平成30年 3 月31日
16022	リハビリ テーション学部	教授	玉木 彰	慢性腎不全患者の入院前の身体活動量は入院後の運動機能に影響を与える	平成28年 8 月 8 日 ～平成30年 3 月31日
16023	共通教育センター	講師	常見 幸	「多職種連携のコンピテンシー」獲得を目的としたチーム医療教育のための基礎研究	平成28年 8 月 4 日 ～平成32年 3 月31日
16024	薬学部	講師	清水 忠	化学構造を臨床に活かせる薬剤師養成プログラム策定に向けた「構造式ワークショップ」の開催による教育効果の評価	平成28年10月 6 日 ～平成29年 3 月31日
16025	薬学部	講師	清水 忠	臨床薬剤師を対象とした化学構造式教育プログラム策定に向けた構造式演習の試みと化学構造式に対する意識調査の後ろ向き解析研究	平成28年 8 月 4 日 ～平成29年 3 月31日
16026	薬学部	講師	清水 忠	薬学部学部教育におけるEvidence-based Medicine (EBM) 教育プログラム策定に向けたEBM演習の教育効果の後ろ向き解析研究	平成28年 8 月 4 日 ～平成29年 3 月31日
16027	看護学部	教授	網島ひづる	手術看護認定看護師教育課程における看護実践能力に対する実習指導者の認識と育成のための教育方法	平成28年 8 月 8 日 ～平成29年 3 月31日
15020-2	リハビリ テーション学部	講師	森 明子	脳卒中片麻痺患者の歩行開始にDual-taskであるCognitive-taskとManual-taskが与える影響	平成27年 9 月18日 ～平成29年 3 月31日
16028	リハビリ テーション学部	教授	川口浩太郎	紙おむつ装着が体の動きへ及ぼす影響に関する研究	平成28年10月 3 日 ～平成31年 3 月31日
16029	リハビリ テーション学部	講師	森 明子	社会復帰した脊髄損傷者の障害受容過程にセラピストが与えた影響	平成28年10月 7 日 ～平成30年 3 月31日
16030	看護学部	助教	足立 安正	妊娠中から支援が必要な妊婦への保健医療専門職が行う支援内容	平成28年10月 7 日 ～平成30年 3 月31日
16031	看護学部	助教	足立 安正	子ども虐待の予防を目的とした、妊娠期からの支援の必要性に関する情報の把握とその判断	平成28年10月 7 日 ～平成30年 3 月31日
16032	リハビリ テーション学部	講師	永井 宏達	地域高齢者におけるフレイル発症に関する縦断的研究	平成28年10月 7 日 ～平成34年 3 月31日
16033	薬学部	教授	辻野 健	回復期リハビリテーション病棟における処方薬剤の現状調査とポリファーマシーの影響調査	平成28年10月 7 日 ～平成31年 3 月31日
16034	リハビリ テーション学部	教授	玉木 彰	心疾患患者の自律神経機能と嫌気性代謝閾値、最高酸素摂取量との関連性－糖尿病の合併の有無での検討－	平成28年10月 7 日 ～平成30年 3 月31日
16035	リハビリ テーション学部	教授	玉木 彰	Functional EMSが呼吸循環代謝応答に及ぼす影響	平成28年10月 7 日 ～平成30年 3 月31日
15018-2	リハビリ テーション学部	教授	山崎せつ子	運動負荷が注意機能に与える効果	平成28年10月 2 日 ～平成29年 3 月31日

受付番号	所 属	職位	氏 名	研究課題名	実施期間
16009-2	看護学部	講師	府川 晃子	分子標的薬を内服する高齢肺癌患者の自己管理確立のプロセス	平成28年 6 月10日 ～平成29年 5 月31日
15024-2	看護学部	准教授	堀口 和子	配偶者と死別した独居高齢者のソーシャルサポートに基づいた悲嘆の適応過程	平成27年10月 2 日 ～平成30年 3 月31日
16036	薬学部	教授	天野 学	インスリン注入器用補助器具の個別最適化とその使用が治療に与える影響の関連性の検討	平成28年12月 5 日 ～平成30年 3 月31日
16037	看護学部	准教授	岡田 公江	妊娠初期の初産婦に対する睡眠教育の効果の検証	平成28年11月30日 ～平成31年 3 月31日
16038	看護学部	講師	鈴木みゆき	病院に勤務する女性看護師における冷えの解明－健康度・生活習慣・就労環境との関連に着目したパイロットスタディ	平成28年11月30日 ～平成30年 3 月31日
16039	看護学部	講師	荻野 待子	視線運動分析による看護教員の膀胱留置カテーテル技術観察点の可視化－熟達者と未熟達者の視線と思考の特徴－	平成28年12月 5 日 ～平成29年 9 月30日
16040	看護学部	講師	飯尾 祐加	呼吸エクササイズによる妊婦の冷え改善および異常分娩予防効果	平成28年11月30日 ～平成32年 3 月31日
16016-2	薬学部	教授	天野 学	インスリン注入器用補助器具の形状およびサイズの個別化と使用性の関連性に関する検討	平成28年11月10日 ～平成29年 3 月31日
15033-2	リハビリテーション学部	講師	塚越 累	旧：足趾・足関節背屈機能靴下の開発 新：兵庫県靴下産業の活性化を目指した高齢者の転倒防止用機能性靴下の開発	平成27年12月 9 日 ～平成29年 3 月31日
15038-2	薬学部	助教	村上 雅裕	インスリン注入器用補助器具の使用性および安全性に関する評価安全性に関する評価	平成28年 3 月31日 ～平成29年 3 月31日
16042	看護学部	助教	片田 千尋	成人女性を対象とした遺伝リテラシー向上のための教育プログラムの開発	平成29年 2 月 1 日 ～平成30年 3 月31日
16043	看護学部	助教	高谷 知史	慢性疾患をもつ家族員がいる家族を支援する看護師を対象とした家族コンコーダンス達成力アセスメントモデルの開発	平成29年 2 月 1 日 ～平成31年 3 月31日
16044	薬学部	講師	清水 忠	効果的な有機化学教育プログラム策定に向けた『有機化学演習』の学習効果の評価	平成29年 2 月 8 日 ～平成30年 3 月31日
16045	薬学部	講師	清水 忠	EBMを実践できる薬剤師養成のための学習プログラム構築に向けたTBL&PBLハイブリッド学習プログラムの実施による学習効果の評価	平成29年 2 月 8 日 ～平成30年 3 月31日
16046	薬学部	教授	斎藤あつ子	麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘の抗体測定の実践と各種測定方法の結果の比較解析	平成29年 2 月 8 日 ～平成30年 3 月31日
16028-2	リハビリテーション学部	教授	川口浩太郎	紙おむつ装着が体の動きへ及ぼす影響に関する研究	平成28年10月 3 日 ～平成31年 3 月31日
12029-2	リハビリテーション学部	講師	森沢 知之	心臓血管外科手術後のリハビリテーションの遅延率や遅延理由、予測因子について他施設間で検討すること	平成28年10月 7 日 ～平成31年 3 月31日
16008-2	薬学部	教授	九川 文彦	処方箋データから見た兵庫医科大学病院とは・多変量解析の手法を用いて(第2段研究)	平成28年 5 月31日 ～平成30年 3 月31日
15031-2	リハビリテーション学部	講師	有吉 正則	子育てにおいて母親が抱く想いに関する調査研究	平成27年12月 9 日 ～平成30年 3 月31日
16047	薬学部	助教	村上 雅裕	認知機能と唾液中成分との関連に関する検討	平成28年 3 月31日 ～平成31年 3 月31日
15038-3	薬学部	助教	村上 雅裕	インスリン注入器補助器具の使用性および安全性に関する評価	平成29年 3 月31日 ～平成31年 3 月31日
16048	共通教育センター	准教授	賀屋 光晴	気流が暑熱環境下運動時における運動能力と体温調節に及ぼす影響	平成29年 3 月29日 ～平成31年 3 月31日
15006-4	リハビリテーション学部	教授	山崎せつ子	高次脳機能障害のある人とその家族が地域生活で必要としている支援	平成28年 2 月19日 ～平成32年 3 月31日

受付番号	所 属	職位	氏 名	研究課題名	実施期間
15018-3	リハビリ テーション学部	教授	山崎せつ子	運動負荷が注意機能に与える効果	平成27年10月2日 ～平成32年3月31日
16049	看護学部	教授	西村 明子	統合失調症の女性が母親役割を獲得していくプロセス	平成29年3月29日 ～平成30年3月31日
16050	看護学部	教授	鈴井江三子	診療所に長期就業する専修学校卒助産師の 内的動機づけ	平成29年3月31日 ～平成30年3月31日
16035-2	リハビリ テーション学部	教授	玉木 彰	Functional EMSが呼吸循環代謝応答に及 ぼす影響	平成28年10月7日 ～平成30年3月31日
09020-2	薬学部	教授	斎藤あつ子	アジア地域における赤血球内寄生原虫症に 関する疫学調査研究	平成29年3月29日 ～平成35年3月31日
09021-2	薬学部	教授	斎藤あつ子	血液寄生原虫感染症の診断治療法の開発な らびに予防法の確立に関わる研究	平成29年3月29日 ～平成35年3月31日
16003-2	薬学部	教授	天野 学	糖尿病患者を対象としたインスリン自己注 射の使用性に関する研究	平成28年5月31日 ～平成30年3月31日
16016-3	薬学部	教授	天野 学	インスリン注入器用補助器具の形状およびサ イズの個別化と使用性の関連性に関する検討	平成28年11月10日 ～平成30年3月31日
16050-2	看護学部	教授	西村 明子	診療所に長期就業する専修学校卒助産師の 内的動機づけ	平成29年3月29日 ～平成30年3月31日
15037-2	看護学部	教授	新井 信之	精神科訪問看護師の暴力についての認識と 対処の現状	平成28年1月27日 ～平成30年3月31日
16027-2	看護学部	教授	網島ひづる	手術看護認定看護師教育課程における看護 実践能力に対する実習指導者の認識と育成 のための教育方法	平成28年8月8日 ～平成30年3月31日
15015-3	リハビリ テーション学部	講師	宮本 俊朗	運動様式の違いが血液中の脳由来性神経栄 養因子に及ぼす影響	平成28年3月1日 ～平成30年3月31日
16032-2	リハビリ テーション学部	講師	永井 宏達	地域高齢者におけるフレイル発症に関する 縦断的研究	平成28年10月7日 ～平成34年3月31日

## 25) 共同機器室運営委員会

### 概要

共同機器室運営委員会規程は兵庫医療大学共同機器室規程第4条第2項の規定に基づき、共同機器室運営委員会に関する必要な事項を定める。

委員会は共同機器室長、本学専任教員から2名以上、研究支援課長、その他委員長が必要と認め、指名する者から組織され、委員長は共同機器室長が兼ねる。

### 主な審議事項

- ・ 共同機器室の管理・運営に関すること
- ・ 共同機器室に設置された機器の維持・管理に関すること
- ・ 共同機器室の整備計画に関すること
- ・ その他、共同機器室の円滑な運営に必要な事項

## 26) 情報センター運営委員会

### 概要

情報センター運営委員会は、担当副学長と学長により指名された情報センター長、各学部・共通教育センターからそれぞれ2名選出された教員、入試・広報課情報系の事務職員で構成される組織である。本委員会は、兵庫医療大学の情報ネットワークを含む情報システムの企画・整備・運用により、本学の教育・研究を支援し、本学の発展に資することを目的としている。

### 主な審議事項

- ・ネットワークシステムフロアスイッチの部分リプレイス
- ・監視カメラシステムの部分リプレイス
- ・入退室管理システムの部分リプレイス
- ・学生の無線LAN利用増加に伴うアクセス許容範囲の拡大
- ・オープンキャンパスでの来場者への無線LANサービスの提供と学内限定ウェブコンテンツの配信提案・実施支援

## 27) 紀要委員会

### 概要

紀要委員会は、本学の学術研究の成果を発表する目的として兵庫医療大学紀要の発行を行う。当委員会は、図書館長、薬学部教員2名、看護学部教員2名、リハビリテーション学部教員2名、共通教育センター教員1名および図書課長の9名の委員をもって構成され、委員長は図書館長が務めている。

### 主な審議事項

- ・投稿論文の査読員選出について
- ・投稿論文の査読結果について

### 特記事項

- ・紀要編集部会の廃止が決定となった。それに伴い、同内規が廃止となり、紀要委員会規程の一部が変更となった。
- ・事務組織改変により各要領の改正が行われた。

### 掲載原稿一覧

第4巻第1号（平成28年6月発行）

原稿種類	タイトル	著者名
原 著	ダウン症児の母親が育児に前向きな気持ちになるまでの心理過程：医療者の支援とソーシャルメディアが母親の心理に与える効果	片田千尋、西村明子、藤井真理子、末原紀美代
	物理療法は神経障害性疼痛発症を予防できるか？ — ラット神経障害性疼痛モデルに寒冷療法を用いて —	川口浩太郎、猪俣陽一、藤岡宏幸、坂口顕、山本悟史、小暮洋子、王勝蘭、戴毅
研究報告	50分間で実施する減災教育講義とその教材が高校生の知識と実行可能性に与える影響の評価	神崎初美
実践報告	第6回学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設 合同セミナー実践報告	塚越累、藤岡宏幸、川口浩太郎、森沢知之、坂本浩、森下慎一郎、曾田幸一朗、荻野智之、道免和久



第4巻第2号（平成28年12月発行）

原稿種類	タイトル	著者名
特別寄稿	大学生への薬物乱用防止教育	馬場明道
原 著	退院促進に寄与する作業療法プログラムを立案するための精神科入院患者の退院意識とその関連要因分析	奥谷研、井上雅博、 黒江美香、稲富宏之
研究報告	本学における保健師教育内容の評価 — 本学を卒業した新任期保健師のインタビュー調査から —	足立安正、土井有羽子
	どんな家族介護者が介護保険サービスを十分と思わないのか？	堀口和子、岩田昇、鈴木千枝
実践報告	学生のプレゼンテーションに対するルーブリック評価の取り組み	平上尚吾、宮本俊朗
	Team Based Learning実践報告	南畝晋平
	2015年度兵庫医療大学全学FD/SD「主体性を育むには」 — 第1学年次看護学生の態度教育における — 考察 —	荻野待子
	「客観評価」を行う前に考えておくべきこと	柏村信一郎

## 28) キャンパス有効利用委員会

### 概要

キャンパス有効利用委員会は、限りあるキャンパスを効率よく活用するために、学長の諮問機関として平成22年度より活動を行ってきた。本委員会では適宜召集されてさまざまな案件の検討を行ってきた。

平成26年度には、学長および本委員会メンバーが協議を行い、各部署にて学内の有効利用アイデアを募集することとなり、様々なアイデアが集まった。

その後、意見を反映する形で、平成27年度にはレストランの混雑緩和のための席の増設やG棟4階の居室等の再編成が実施された。

### 特記事項

平成28年度には、M棟4階およびG棟4階の有効活用のため、教育支援室および薬学部実務実習支援室の移転等再編成が決定された。

## 29) 将来構想委員会

### 概要

将来構想委員会は、学長の諮問に応じ、兵庫医療大学の将来構想および事業計画について検討し、答申することを目的としている。

## 30) 防火防災対策委員会

### 概要

開学年度より防火訓練（自衛消防訓練）を毎年1回実施している。地震・津波防災訓練は平成24年度から毎年1回実施している。阪神・淡路大震災のような都市直下型地震や今後起こるかもしれない地震による津波災害に対する啓発と教育、訓練を行っている。

地震・津波防災訓練の際には、学生の意識啓発のために、訓練当日の1週間前から備蓄品や救助工具の実物、および、神戸市・ポートアイランドの防災情報のパネルなどを学内に展示している。防災備蓄品の保管場所としてM棟4階倉庫、M305およびM309に、毛布900枚、飲料水2L×2,700本（900人×3日分）、食料8,100食（900人×3日分）、簡易トイレ6,000回分を保管している。

また、大規模災害時の通信手段の確保として、平成27年度から衛星電話を導入した。防火訓練および地震・津波防災訓練の約1ヶ月前に委員会を招集し、訓練内容を決定している。

### 特記事項

- ・平成28年度 自衛消防訓練

実施日：平成28年12月1日（木）12時40分～ 対象者：薬学部第3学年次生 161名

- ・平成28年度 地震・津波防災訓練

実施日：平成28年7月22日（金）15時～ 対象者：薬学部第1学年次生 146名、看護学部第1学年次生 114名、リハビリテーション学部第1学年次生 89名

## 31) 衛生委員会

### 概要

本委員会は、労働安全衛生法に基づき、教職員の健康障害の防止、労働災害の原因および再発防止、健康の保持増進をはかるための対策を検討・実施するために設置されている。

### 特記事項

毎年実施している職員定期健康診断、インフルエンザワクチン補助事業に加え、本法人の方針に準拠するかたちで平成28年11月にストレスチェックを実施し、本学内の集団ごとにおけるストレス状況の組織分析を行った。

## 32) 医療人育成センター運営委員会

### 概要

医療人育成センター運営委員会は、センターの企画・運営方針に関すること、センターが運営する初期・後期臨床研修の充実に関すること、センターが推進する連携教育体制の整備・充実に関すること、その他センターの運営に関すること等、学校法人兵庫医科大学医療人育成研修センターの運営に関して審議するために設置されている。兵庫医科大学の委員および本学の教務部長、教育支援室長、各学部・共通教育センター教員などで構成されている。

### 主な審議事項

- ・兵庫医科大学の兵庫医科大学病院および兵庫医科大学ささやま医療センターにおける平成29年度学外実習（案）について
- ・副センター長の選出について
- ・平成29年度兵庫医科大学・兵庫医療大学の兼任教員の委嘱について

## 33) 社学連携推進機構運営委員会

### 概要

本機構は、医療、福祉、介護、健康づくり、未病などの観点から、地域の住民、地方自治体、公共団体、医療福祉施設、各種企業など、つまり、地域の社会と医療総合大学である本学との連携活動において、異なる分野の人たちをつなぐプラットフォームとしての役割を担うとともに、社学連携に関するノウハウの蓄積、新しい社学連携形態の企画立案にも取り組むために平成27年4月1日に発足した。

本機構の目的は、本学が策定した「社学連携ポリシー」に基づき、本学の教育・研究成果を広く社会に還元し、大学の重要な使命の一つである「社会貢献」を精力的に実践することである。



## 特記事項

### ・社会学連携推進機構の改組について

社会学連携推進機構と地域連携実践センターの役割が一部重複していることや地域連携活動の集約化、効率化を図るため、社会学連携推進機構の中に「地域連携部門」を設置し、その下に「地域連携実践ステーション」を置くという改組を検討、決定した。改組後の運営については、各ステーション長も運営委員会に参加いただくこととした。正式運用は、平成29年4月1日からとする。

### ・「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」採択に係る対応について

平成28年度も、前年度に引き続き「私立大学等改革総合支援事業」タイプ1、タイプ2、タイプ3に選定されました。これにより、「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」にタイプ2として申請している機器について、平成28年度末までのイベントの実施から報告書の作成まで迅速に実施できる体制づくりを検討した。

### ・平成29年度地域交流プロジェクトについて

平成29年度地域交流プロジェクトについては、新規応募4件を含む、計13件の応募があり、申請書の検討の結果、応募13件を全て承認し、1件あたり上限8万円の補助を支給することとした。

## 3. 教職員の資質向上方策

### SD / FD

開催日	内 容	担当者
7月20日	「私立大学等経常費補助金の概要および学校法人兵庫医科大学の現状について」	総務課 高天主任
8月4日	1. 講演「課外活動の現状と課題について」 2. グループ討議「課外活動の活性化に向けた取組について」	共通教育センター 賀屋准教授
8月10日	「3つのポリシーに基づく大学の取組の自己点検・評価と内部質保証について」	藤岡副学長



# Hyogo University of Health Sciences



学校法人 **兵庫医科大学**

西宮市武庫川町1丁目1番 TEL.0798-45-6111